

王印明七卷抄の如し ○次に八供 ○事供 ○讚四智 ○普供三方等 ○禮佛

南無普賢延命三反 ○入我我入 ○本尊加持前印 ○正念誦上の ○本

尊加持 ○散念誦 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚二 ○普供三方

等 ○禮佛 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施開加 次に

金二打卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今に在り、日來の間道場に降臨し

たまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に住し、内外の供養を納受し現當の悉地を圓滿な

らしめて、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の

罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、○神分 ○祈願 ○後鈴已下常の如し。

○延命供所 ○奉修 供養法 箇度 ○奉念 佛眼眞言 大日眞言 本

尊眞言 不動眞言 一字眞言

右奉爲

○普賢延命供次第

普賢延命増益に之 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○

加持灑水 ○加持供物 ○ミ字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺

○遍禮 ○表白開白許り

敬て眞言教主大日如來、金剛胎藏兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊には本尊聖者普賢延命菩薩摩訶薩、金剛壽命甚深の妙典八萬十二顯密の聖教、惣じては内證隨緣帝網重重の三寶願界に白して言さく、夫れ以れば災を攘ひ福を招くの方便は、諸佛菩薩の利生區なりと雖、除病延算の祕術は普賢延命の威徳獨り勝れたり、之に依て慈悲の尊像に顯る、殊に其の本誓を仰いで能詮の經王を寫し、其の靈驗を憑みて丹欸カクシ若し至らば玄應何んぞ空しからん、然れば則ち魘魅呪咀の恐れ遙かに未然の前に拂ひ、水火兵毒の難遠く他方の外に退かん。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 普賢延命大悲尊

金剛部中諸聖衆。 又た云く普賢延命大薩埵 四大天王諸眷屬 ○五大願 ○

普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪

○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀 觀想せよ、須彌山頂に梵字あり

（二）其の此の上
に一本に深くの文
あり。

（三）勸請 或は發
願に換ふる時、
左の如し。本誓
者、普賢延命、
剛部中諸大眷屬

(一) 梵字 唵云云 原本
 所載に依る。陀羅尼法
 抄に又の印。七卷
 作りに右金剛拳に
 流抄に前説云。第一印の
 手胎を東方天印の
 頭を舒拳に作り、二
 右を内腕に相交し、二
 に申す。大指の端を
 勿れ。着く。二大指を
 二頭の傍に付けて、
 大指の端を二大指の
 二頭の端を付けて、
 して南方天去す。中
 金剛拳に天去す。中
 は背けて無名指を直
 曲立てて、六指皆
 曲ぐるなり。六指皆
 背けての二字を入るに

變じて七寶の宮殿となる、其の中に梵字あり、變じて八葉の蓮花となる、花臺の上に
 四の梵字あり、四大象となる、象の上に梵字あり、八葉の蓮となる、上に梵字あり、
 變じて金剛甲冑となる、而も轉じて金剛壽命菩薩の身となる、五佛の寶冠を着け二十
 臂を具足し、諸印を操持せり。十六は十六大菩薩 四手は四攝三マナ
 ○大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
 ○大日印明
 ○本尊印 二手拳にして頭指 (一) 唵、ハチラニユセイ、ツハニ合ガ 囉囉合囉囉、引 囉囉。
 ○又の印 右金剛拳に作り左の乳下に當て、其の頭指微しき 掌を仰げて身に着けよ云云 已上一説は前説を以てする耳。
 四天王印 ○東方天印 左手拳に作り頭指の中節を屈し、頭少しき曲げて大
 指を以て直く申へ頭捻する勿れ、頭指の上に着けよ、右手も亦た同じ、但し腕下を舉
 げ左臂上に着け、大指來去せよ、呪に曰く二腕相ひ交ふ 唵、地梨合多囉、上瑟吒囉、
 合囉囉波囉合、末駄那、莎訶。 ○南方天 左手の掌平に舒べよ、右亦た此の如
 くす、二腕相ひ交へ二中指^六鈎結して索の如くす、二小指・二頭指・二大指各の之を

(二) 二頭指相交
 背けて鈎結するな

(三) 中御室云云
 註に朱書して云く
 寛平法皇より第三
 代の宮、覺行親王
 なり。

曲げ頭は來去せよ。呪に曰く 唵、一尾嚕茶迦、藥叉、合地波多曳、三莎哥。
 ○西方天 左右の手拳に作り腕相ひ交へ、二大指頭を以て各の二中指の甲上を押し
 (二) 二頭指相交へて索の如くせよ。呪に曰く 唵尾嚕博乞叉、合那伽地波多曳、莎哥。
 ○北方天 左右の手を拳に作り、腕相ひ交へて大指を申へ上に向へ來去せよ。呪に
 曰く 唵吠室羅合摩那野莎哥。
 ○八供 ○事供 ○讚 四智 金剛サマ ○普供三方等 ○禮佛 南無普賢延命 三反
 ○入我我入 ○本尊加持 ○正念誦 (朱)上の呪 ○本尊加持 ○散念誦
 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○廻向
 ○解界等は金剛界次第の如し。
 ○中御室御記 壇上に梵字あり、變じて八葉の蓮花となる、臺上に梵字あり、變
 じて甲冑となる、甲冑變じて本尊となる、身色黄金にして十二臂を具し、諸の器仗を
 執持せり、若し人念持すれば過現所有の惡業を消滅し、更に福德壽命を増長せん。
 ○種苾 三摩甲冑 印軌の如し 言亦た然なり。
 ○圖像作法 四象の上に蓮花あり、花上に像を書け、一面二十臂なり 即ち胎藏通院大 安樂不空身なり

是れ高野真觀 凌空とは空に登るなり印位三摩形花縁とは供養が、食界道日月る虧時、成就法の事を修せば此の時に當て何短羅羅領りを得ず。

中御室御記に云く 普賢延命に三説あり。菩薩の像は常の如し、一象三頭慈覺

の傳。菩薩の像は常の如し、三象三頭智證の傳。大安樂不空尊二十臂、四象大輪

五千象、四天を以て四象の頭上に立つるは弘法の傳と。

○普賢菩薩供次第

普賢 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○三部被甲 ○加持灑水 ○加持供物

○も字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會の塵刹聖衆、殊別には本尊聖者普賢菩薩、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の、一切三寶に白して言さく、夫れ普賢菩薩は十種の誓願用を彰し、一子の慈悲物に周ねし、所居の最貴なることたるや真如に依て國土に非ず、身量の甚大なることたるや邊涯なきこと虚空に等し、輪廻の際衆生に順ず、之を敬ふこと父母の如し、光明の中、諸暗を破す、之を照すこと日月を超ゆ。加之らず鵲方臉を失ふ處には、良藥を與へて以て病苦を救ひ、龍洞貧を憂ふるの家には伏藏を開

(一)勸請 或は發願に換ふる時は文左の如し。普賢菩薩大眷屬。中諸諸

(二)鈎 一本に觀に作る。

(三)三摩云云原本梵字あり今は略す。又の印 二羽金剛拳にして左の腕の上を置き右手の腕を抽擲する勢を金剛拳にして心上に置くは五秘密なり。摩訶云云原本に梵字あり。今は省略す。

いて以て福祥を増す、稱名持呪の靈威攝焉なり、滅罪證果の勝利速疾なり。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 普賢菩薩大薩埵

金剛部中諸眷屬 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪

○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀。

觀想せよ、清淨法界宮の大曼荼羅中に咒字あり、變じて滿月輪となる、月輪中に衆字あり、變じて八葉の蓮花となる、花臺上に衆字あり、變じて五貼金剛杵或は(三)鈎亦たは梵瓶となる金剛杵變じて普賢菩薩となる、首に五佛の寶冠を戴いて身色水精の如し、右手に五貼杵を持し、左手に般若鈴を執る、白象王に乗じて大菩提心に住す、及び八金剛妃等の無量眷屬前後に圍繞せり。

○大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輪 ○請車輪 ○迎請 ○辟除 ○空

網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴

○大日印明

○本尊根本印 二羽外縛して二(三)三摩耶薩埵 ○又の印 二羽金剛拳にして左を膝に置き右手を金剛杵を抽擲する如くす。三 摩訶蘇迦、縛曰羅二、薩怛囉、索吽餞斛、蘇羅多薩埵。

羅、曇多入

○八供 ○事供 ○讚 先づ四智、次に金剛薩埵。 ○普供三力等 ○禮佛 南無金剛薩埵

○金剛薩埵大智印 前の ○本尊加持 前の ○本尊加持 前の ○散念誦 佛眼、大日本尊、十七字言、四 ○佛母加持 ○八供

○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○廻向 ○解界等は金剛界次第の如し。

○五字文殊供次第 注進 五字文殊供一七箇日支度の事。合 蘇。蜜。名香。沈水。壇一面。脇机一脚。燈二本。半疊一枚。壇供米。御明油。壇敷布。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。白衣。右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

三 原本梵字、今は、對譯文字に換ふ。秘説 外五帖にて十七字の明を唱ふ。五秘密云云此印を小野方には開きて身に刺す。二中指心を開き、見たり。身を向けて、掌も開き、流す。身も開き、す。身も開き、す。身も開き、す。

五字文殊供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水 ○加持供物 ○ま字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白 明白許り

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、金剛界會四智四波羅蜜十六尊八供四攝等の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺の十三大會界會の諸尊、殊別には本尊界會の五字文殊、三十七尊諸尊聖衆、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白して言さく、今此の菩薩は五智を成就し三昧を發得す、内證の果德最深にして遍照薄伽梵の覺位を備ふ、本願の因縁淺からずして童眞法王子の聖容を示す、無碍辯才の名は持明の力に、あらは 有執戲論の過は作禮の功に消す、丹凝若し至らば玄感立ちどころに覃ん。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 大聖大悲文殊師 三十七尊諸薩埵 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀

二 道場觀 傳流 七卷抄に詳し。

金剛劔を執り、左手を心に當て金剛拳に作り青蓮花を持す、花の上に般若波羅蜜經夾あり文。口傳に云く、八供四攝菩薩圍繞せり、七處加持す。

- 大虚空藏
- 小金剛輪
- 送車輪
- 請車輪
- 迎請
- 辟除
- 空網
- 火院
- 大三昧耶
- 闍伽
- 花座
- 四攝
- 拍掌
- 振鈴

○大日印明

（二）金剛縛云云内縛二中を並べ立て銀形にする印。

○本尊印 （一）金剛縛して忍願を並べ立て上節を屈するなり。真言 アラハハヤナラ 阿羅波若娜文殊師利

- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三力等
- 禮佛
- 南無吉祥金剛三反四攝の次に之を加ふ。
- 入我我入
- 本尊加持印明
- 正念誦
- 本尊加持
- 散念誦
- 佛母加持
- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三力等
- 禮佛
- 廻向
- 解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施。 阿闍 次に金二打卷敷。次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外供養を納受して現當の悉地を圓滿な

らしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲は甚深にして必ず自他の所願を成せん。

- 抑、
- 神分
- 祈願
- 後鈴已下常の如し。
- 五字文殊供所
- 奉供
- 供養法、度
- 奉念
- 佛眼真言
- 大日真言

本尊真言 馬頭真言 一字金輪。右奉爲 年 月 日 阿闍梨

○八字文殊供次第

- 八字文殊供七箇日支度
- 蘇。 蜜。 名香。 沈。 白檀
- 壇一面。 燈臺二本。 脇机一脚。 半疊一枚。 壇
- 供米 常の如し 御明油 常の如し 壇敷布一端。 闍伽桶一口 約六加ふ 闍伽折敷一枚。
- 長横一合。 阿闍梨。 承仕。 驅仕。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 年 月 日 阿闍梨

- 八字文殊供次第 息災に之を修す但し四種法あり
- 普禮
- 着座
- 塗香
- 淨三業
- 三
- 部被甲
- 加持灑水
- 加持供物
- 之字觀
- 淨地
- 淨身
- 觀佛

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施の節。次に金二打卷敷 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、○神分 ○祈願 ○後鈴已下常の如し。

○八字文殊供所 ○奉修 供養法 箇度 ○奉念 佛眼真言 大日真言

本尊真言 馬頭真言 一字真言

右奉爲

○虚空藏供次第

虚空藏供一七箇日支度の事
蘇。蜜。名香。白檀 壇一面。脇机一脚。燈臺二本。半疊一枚。壇供米。御明油。壇敷布。阿闍梨。承仕。淨衣。黄色。右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

虚空藏供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加

持灑水 ○加持供物 ○も字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺

○遍禮 ○表白開白許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の能く諸願を満てたまふ虚空藏菩薩、惣じては恒沙塵數の三寶境界に白して言さく、今此の菩薩は内證は實生如來に通じ、本居を香集世界に占め、一切三昧は大海の如く、精進勇猛なること疾風に同じ、畢竟空の中より不思議自在の用を生じ、濁惡世の末には諸の有情貧匱の愁を救ふ、上天に昇るには梯となり、覺岸に到るには船となる、多徳の益仰ぐべし憑むべし。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 如意金剛大薩埵

寶部一切諸聖衆 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪

○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀

壇上に寶樓閣あり、樓閣中に滿月輪あり、月輪の中に八葉の蓮花あり、蓮花上に恒洛字あり、變じて寶珠となる、珠變じて虚空藏菩薩となる、其の身金色にして首に五佛

（二）勸請 或は發願に換ふる時は發願の如し。本尊界會、虚空藏尊。

の寶冠を着す、右手施願にして左手には如意寶珠を持す、無量の眷屬前後に圍繞せり。

- 大虚空藏
- 小金剛輪
- 送車輅
- 請車輅
- 辟除
- 空網
- 火院
- 大三昧耶
- 闕伽
- 花座
- 四攝
- 拍掌
- 振鈴
- 大日印明
- 本尊印明

○羯磨印 左の頭指さ端相捻して寶形の如くし掌を仰げて心の前に置り。右手施願印なり。

○又の印 此の眞言は傳流抄七卷に出づ。曰く喃阿迦者三曼多囉達羅尾實恒藍縛囉達羅ソロカ。

止羽を以て心に當て掌を仰げ、智力を以て捻して力度を反し屈して寶形の如くし觀、羽を以て掌を仰げ前に向へ、施願の勢に作れ。彼の眞言 唵、嚩日羅囉怛努憾。 ○三昧耶印 二羽金剛縛して進力反し盛め寶形の如くし、禪智並べ立て

- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三方等
- 禮佛
- 南無阿迦捨藥婆 三反
- 入我我入
- 本尊加持 前の印明
- 正念誦
- 本尊加持
- 散念誦
- 佛母加持
- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三方等
- 禮佛
- 廻向
- 解

界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施の前 次に金二打卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨

したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

- 神分
- 祈願
- 後鈴已下常の如し。
- 虚空藏供所
- 奉供
- 供養法、
- 奉念
- 佛眼眞言
- 大日眞言
- 本尊眞言
- 同羯磨眞言
- 同三昧耶眞言
- 同大呪
- 能滿諸願眞言
- 一字金輪眞言

右奉爲 年 月 日 阿闍梨

- 彌勒菩薩供次第
- 彌勒
- 普禮
- 着座
- 塗香
- 淨三業
- 三部被甲
- 加持灑水
- 加持供物
- 十字觀
- 淨地
- 淨身
- 觀佛
- 覺覺
- 遍禮
- 表白

○佛眼等 細字
は原本に朱書す。

- 我入 ○本尊加持 印明 ○正念誦 呪上 ○本尊加持 ○散念誦 佛眼 大日 本尊 不動
- 降三世 ○佛眼 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○廻
- 向 ○解界已下は金剛界次第の如し。
- 地藏供次第

地藏菩薩供一七箇日支度の事

蘇。蜜。 名香。 沈。 壇二面。 燈臺二本。 脇机一脚。 半疊一枚。 壇供

米。 御明油。 壇敷布。 阿闍梨。 承仕。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 年 月 日 阿闍梨

- 地藏供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持
- 灑水 ○加持供物 ○も字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○
- 遍禮 ○表白 開白 許り

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、別しては六道能化の地藏薩埵、迦羅陀山中の諸の眷屬等、惣じては佛眼所照の普賢境界中の三寶願海に白して言さく 夫れ今此の菩薩は、微妙功德の伏藏、解脱珍寶の出家に作る。 一本に處

○勸請 或は發
願に換ふる時
左の如し。 本尊界
會地蔵菩薩大菩薩
部會中諸大菩薩

にして、塵衝に臨みて凡類を顧み廣く一子の慈悲を垂れ、及び濁劫に神通を現じて獨り無佛の世界を度し、速かに煩惱の熱を除くこと、夜月の清涼たるが如く、永く流轉の因を盡すこと、春水の銷釋するに似たり、既に取上の衆徳あり、是に和南の懇誠を抽んず、若し然らば護持し護持せよ。

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 悲願金剛大薩埵
- 三十七尊諸聖衆 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪
- 地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 壇上に赤蓮花あり、花上に賀字あり、字變じて幢幡となる、幢幡變じて地藏菩薩となる、身色白色にして聲聞の形像なり、身に袈裟を着し端左肩を覆ふ、右手に寶珠を持し左手に蓮花を持す、上に幢幡あり、無量の眷屬前後に圍繞せり。 七處加持
- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
- 大日印明

○本尊印 内縛して二中指豎て散し、二大指豎て、風側を持せよ。眞言 歸命訶

訶訶、尾婆麼曳、娑囉賀。

- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 南無悲願金剛 三反 ○
- 入我我入 本尊加持 前の印明 ○正念誦 (朱)上の呪 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛
- 母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○廻向 ○
- 解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し。後供養の時佛布施 開加許リ 次に金二打卷敷 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、○神分 ○祈願 ○後鈴已下常の如し。

- 地藏菩薩供所 ○奉供 供養法 ○奉念 佛眼真言 大日真言 本尊真言
- 同大呪 同心中呪 同心中呪 一字金輪真言
- 右奉爲 年 月 日 阿闍梨

○隨求菩薩供次第

注進 隨求隨羅尼供一七箇日支度の事。合 蘇。蜜。名香。沈。壇一面。脇机一脚。燈臺二本。半帖一枚。檀供米。御明油。壇敷布。阿闍梨。承仕。淨衣。白色

右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

- 隨求隨羅尼供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲
- 加持灑水 ○加持供物 ○も字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺
- 遍禮 ○表白 開白許リ

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の隨求菩薩、外金剛部の護法天等、惣じては佛眼所照の微塵刹土の三寶境界に白して言さく、今此の菩薩は、慈悲は諸佛に超え威力は聖衆に勝れたり、適々持念を致すの人、僅かに歸依をなすの輩は、無老無病無苦にして三界の勝護持あり、書すべし誦すべし行すべし、八種の非命逃れ易く、洛及遍敷の功 たまふ 菩提の資糧を滿す、所犯極過の罪 シヨホクツレ 過猶は劔戟の怖畏を除き、刀杖盡の楚毒たるや遠離を生に得、日月

し。過 一本にな

星の衛護たるや榮盛を世世に恣にす、羅喉此の呪を胎内に念するや火坑變じて蓮池となり、梵施斯の法を陣前に崇むるや他敵を靡して王德に歸す、功能且干なりと雖、稱讚する數を整し叵し、かた、ま。

勸請 或は發願に換ふる時、本尊聖者の如し、菩薩、蓮花部中、諸大薩

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 與願金剛大薩埵或は發願
- 三十七尊諸聖衆 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大
- 金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提
- 道場觀 壇上に八葉の蓮花あり、花上に波羅字あり、字變じて梵篋となる、篋變じて隨求菩薩となる、身金色にして寶冠を着けたり。八臂あり、右の第一手に五鈷、次に鏑鉞、次に寶劍、次に鉞斧鈎、左の第一手に蓮花、上に金輪光焰あり、次に梵篋、次に寶幢、次に索、無量の聖衆前後に圍繞せり。
- 大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
- 大日印明
- 本尊印明 左手を以て仰けて心に當て、五指を展べ、右手を以て左手の上に覆せ、

相ひ合して平ならしめよ。梵嚴印 ○明 一切如來隨心眞言 唵、跋羅跋羅、三波羅、印捺哩也尾戌馱顛呼呼、嚕嚕左餘、娑縛賀。

- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 南無摩訶鉢羅底薩落、三反
- 入我我入 ○本尊加持前の印 ○正念誦上呪を用ふ ○本尊加持 ○散念誦
- 佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○廻
- 向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。
- 結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施闕伽 次に金二打 卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。
- 抑、 ○神分 ○祈願 ○後鈴已下常の如し。
- 隨求陀羅尼供所 ○奉供 供養法 ○奉念 佛眼 大日 本尊 一字
- 金輪

(二)勸請 或は發願に換ふる時、本尊聖文、左の如し。龍樹菩薩、極樂界會、諸大眷屬。

禮 ○表白

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 (朱) 龍樹菩薩大薩埵
- 極樂界會諸眷屬 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪
- 地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 壇中に草座あり、座の上にア字あり、變じて梵筴となる、梵筴變じて龍樹菩薩となる、聲聞の形像にして袈裟を着せり。○大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴 ○大日印明。
- 本尊印 金剛合掌 曩莫三曼多沒馱南、佉多吽、莎呬。 ○亦說に云く 唵嚩日羅、合婆灑藍、娑嚩訶 ○龍樹甘露真言 唵娑枳底娑婆一娑羅底二度多羅那耶 三娑嚩賀。 已上善無畏三藏祕法中に之れあり。
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 (朱) 南無龍樹菩薩摩訶薩 三反
- 入我我入 ○本尊加持 前の印明 ○正念誦 上呪を用ふ。 ○本尊加持 ○散念誦
- (三)佛眼 大日阿彌陀本 尊 白衣 馬頭 一字 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等

(三)佛眼等 細字は原本に未書す。

(二)勸請 或は發願に換ふるに、左の如し。波羅蜜、諸母眷屬。

- 禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。
- 梵號 那伽闍刺樹那。
- 般若菩薩供次第
- 般若菩薩 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水 ○加持供物 ○十字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白
- 敬て祕密教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には三世佛母般若菩薩、如來部中の諸眷屬等、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく。 夫れ般若菩薩とは功能甚深にして威力自在なり、纔かに波羅蜜の教に歸すれば、苦海の重罪忽ちに消え、適く阿練若の行を致せば、恒沙の惡業遺ることなし、過現當の大士尊容の左右に胡跪し、一十六の善神は行人を衛護して陪從す、誓願娑婆に厚ふして利生を人畜に施す、是を以て弟子位頭合掌の精誠を抽んで、香花燈塗の供具を設くるに、冥鑒私なくんば靈應定んで至らん。
- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 般若佛母大薩埵

二 本尊三昧耶印
二 手金剛合掌して
て二頭を屈して二
大を以て修習の
名若無蓋の印と
軌に出づ。修習の
五指を平に舒く
で心の下に置く
右の手を以て左
手軌の上に覆ふ
に出づ。法の軌

- 如來部中諸眷屬 ○五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪
- 地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 壇中に畫字あり、變じて八葉の蓮花となる、蓮花上に梵字あり變じて淨月輪となる、
月輪中に畫字あり、變じて梵夾となる、梵夾變じて般若菩薩となる、首に五佛の冠を
戴き、身に金剛冑を着す、形色白肉にして大光明を放てり、額上に眼あり六臂を具足
す、左の第一手には梵夾を持し心に當つ、第二手は掌を仰けて齊下に安き、第三手は
仰けて風指を屈し、餘の四指を舒べたり、右の第一手は風指を屈して四指を豎て梵夾
上に當つ、第二手は施無畏、第三手は掌を豎て水指を屈して四指を舒べて寶蓮花に坐
せり、遍毛孔中より無量の諸佛を流出せり、四攝八供養乃至八方天等恭敬し圍繞せり。
- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
- 大日印明
- 二 本尊三昧耶印 二手金剛合掌して二大指各の二頭指の初を捻
す、則ち眞言七遍を誦して五處を加持せよ。 娜謨、婆誑縛帝、一鉢羅合積
讓合攝、囉若路曳引、唵、三佉喇地入室哩、四鉢羅合底、尾惹曳、五娑囉合賀。引 ○三

二 禮佛の下、梵
字、對譯文字は修
習般若軌によれり

三 佛眼等 細字
は原本に朱書す

三 勸請 或は發
願に換ふる時は、
大慈の如し。大慈
諸菩薩等。

- 梵夾印 唵地室利引合輪囉合多尾惹曳、娑婆合賀引
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 (朱)南無阿利也鉢羅合積
囉若路三反 ○入我我入 ○本尊加持 前印 ○正念誦 (朱)上の呪を
用よ ○本尊加持
- 散念誦 佛眼 大日 本尊 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普
供三方等 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。
- 藥王菩薩供次第
- 藥王 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水
- 加持供物 ○三字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
- 表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 (朱)藥王
- 大士慈悲尊 菩薩聖衆諸眷屬 ○五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心
- 大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成善
- 提 ○道場觀
- 壇中に蓮花あり、花臺上に月輪あり、輪中に吠字あり、字變じて蓮花となる、蓮花變
じて藥王菩薩となる、相好圓滿し眷屬圍繞せり。

- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
- 大日印明

二〇本尊印 眞言
用種中の眞言を
用ひべし初の眞
言は藥王の眞言な
り

三〇本尊印 普通(朱)金剛
合掌 唵(ヒヤイシヤアラシヤヤ)
囉囉逝捨羅惹耶、莎母 ○又の眞言 歸命(ニ) 訖及擊哆

- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三力 ○禮佛 ○入我我入 ○本尊加持
- 正念誦 (朱)初呪を 用ふ。 ○本尊加持 ○散念誦 (三)佛眼 大日 本尊 不動 一字 ○佛母加持
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○廻向 ○解界以

下は金剛界次第の如し、

- 持世菩薩供次第
- 持世菩薩 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加
- 持灑水 ○加持供物 ○三字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺
- 遍禮 ○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身、摩訶毗盧遮那如來、金剛界會の三十七尊九會曼荼

眞記に云く此の
法は體雨法陀羅
尼の説に似たり
雖も未だ見ず其
此の尊一林なら
か、傳抄法に本
持世菩薩云と

三〇此の下、原本
に六行の餘白を存
す。勸請 或は發
願に換ふる時は發
左の如し。持世菩
薩、蓮花部中、諸
眷屬。

羅の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會の塵刹聖衆、殊別には本尊聖者持世菩
薩、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく、

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 持世菩薩慈悲尊
- 蓮華部中諸聖衆 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪
- 地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 壇中に八葉の蓮花あり、蓮花臺上に月輪あり、輪中にそ字あり變じて頗羅菓此には大石
となる、頗羅菓變じて持世菩薩となる、身色青黃にして微笑の容を現じ、右手に頗羅
菓を執り左手は施無畏にす、頭冠環釧をもて種種に莊嚴す、結跏趺坐して形ち梵天の
如し、其の蓮華座の下に二龍王あり、其の形人身と作せ、頭上に龍蛇頭あり、頂上に
寶珠を帶ぶ、兩手を以て七寶の箱を捧ぐ、一龍王は寶瓶を執る半身水中にあり、右邊
に大勝天あり、一手に蓮花を執り、一手は行者を招く勢の如くす、其の像の上の兩邊
に二天仙あり、七寶を雨し空中に滿てり、乃至無量の眷屬恭敬し圍繞せり。
- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴

(二) 二大指を並ぶるなり、故に二大指の端合する分なり。

(三) 佛眼等細字は原本に朱書す。

○大日印明

○本尊根本印 無名指を以て大指の上節の文を捻せよ、又大指を以て無名指の甲の上を押す、兩手亦た然なべて二頭指直く立て、即ち是れ此の印は乃ち是れ一切諸佛同共に宣説したまふ、若し印を結び並に大呪心呪等を誦し、如法に誦持せば一切の願滿し所求の者皆な成就するを得。眞言に曰く
唵、引ハツ、筏ハツ素駄上リ、唵、娑縛合賀二、此れを根本呪 ○心眞言に曰く 唵、室哩ハツ、筏素、娑縛合、唵、婆蘇莎二、唵、心眞言に曰く 唵、婆蘇莎合詞。
○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 ○入我我入 ○本尊加持
○正念誦 (朱)心眞言を用ふ。 ○本尊加持 ○散念誦 (三)佛眼 大日 本尊 (三種) 白衣 馬頭 金剛般若一巻 大金剛 一字
○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○廻向
○解界以下は金剛界次第の如し。

國譯小卷

諸天部

○梵天供次第
梵天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持瀧水
○加持供物 ○文字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 大梵天王 五類諸天 諸大天衆 ○五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
樓閣中に蓮花座あり、座上に卍字あり、變じて紅蓮花となる、紅蓮花變じて大梵天王となる、髮髻冠を戴き相好具足せり、面上に三目、四面四臂にして右の一手施無畏、次の手に鉢を持す、左の一手に赤蓮花を持し、次手に軍持を持す、眷屬圍繞せり。
○大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日印明 ○本尊印 定手水を屈して月に入れ、空を以て水の側の上を押すなり、惠

(一) 發願 佛流抄 (異尊) 梵天の眞書に勸請を出して曰く、本尊聖者大梵天、梵衆梵輔諸眷屬と。

(一)發願傳流抄
(裏書)に勸請を出
す、曰く釋提桓因
大天王三十三天
諸眷屬と。

- 攀にして腰に安せよ。 歸命、鉢羅惹鉢多曳莎訶。 又大曰く 唵沒羅含摩寧莎訶
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 南無大梵天王 ○入我
- 我入 ○本尊加持前の印明 ○正念誦 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○廻向 ○解界以下
- は金剛界次第の如し。

- 帝釋天供次第
- 帝釋天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水
- 加持供物 ○ミ字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
- 表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 本尊
- 聖者 帝釋天王 諸大眷屬 ○五大 ○普供三方 ○四無量 ○勝心
- 大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提
- 道場觀

樓閣中に荷葉座あり、座上に丹字あり、字變じて獨古となる、獨古變じて帝釋天となる、赤色にして右手に杵を持し、左手は拳にして腰に安す、冑及び天衣を着して忿怒

(一)振鈴 天等に
は振鈴を用ゐず
故に今次第之を書
すに雖用ゐざるな
り。(二)原本に梵字あ
り、今は省略す。
(三)印云云 原本
梵字、對譯文字は
金剛頂瑜伽薩摩軌
に出づ。

形なり、眷屬圍繞せり。

- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振
- 鈴 ○大日印明
- 本尊印 内縛して二風堅て合せ針の如くし、二空並べ立てよ。 歸命鑠羯羅耶
- 我我 又の印 右手拳に作て腰の右に安し、左の手五指直く堅て、地水二指を相
- ひ着けて中節を屈し、風を以て火の背に着け、空の中節を屈せよ。 歸命印捺羅耶、
- 娑嚩賀。
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 南無帝釋天王 ○入我
- 我入 ○本尊加持前の印明 ○正念誦 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は
- 金剛界次第の如し。

毗沙門供次第
毗沙門供七箇日支度

名香。白檀。熏陸。 壇一面。三尺二寸 燈臺二本。 半壘一枚。 壇供米一石四斗。

御明油一升四合。 壇敷新布一段。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 年 月 日

(一)伊賀阿闍梨支度集に之を載す、今案するに壇供御明に於て常の如し之を書くべきか。日別の多少施主の心に依るべきが故なり。

毗沙門供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○三部被甲 ○加持澆水 ○

加持供物 惠仁云く、三古印字枳里 枳里縛曰羅昨發吒。 ○も字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺

○遍禮 ○表白

敬て眞言教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、九會曼荼羅、並に十三大會の諸尊聖衆、別しては本尊聖者多門天王諸大眷屬、惣じては佛眼所照の恒沙世界海、現不現前の三寶境界に白して言さく、夫れ大悲多門天王とは、觀音の變現、帝釋の武將、眞徳の法界を籠むる、周遍の大身たりと雖、權化の應迹を示し、假りに須彌の半腹に居し諸乘恢弘の處特に擁護の誓約を發す、末代澆漓の時専ら方便の加持に趣き、怒眼を以て惡鬼を睨め、降伏して威を振ひ、慈心に住して行人を惑む、隨逐して影を垂れ

(一)伊賀阿闍梨その何人なるかを知らず。

(一)勤請 寫書に云く又御記に云く、佛法護持者北至心發願、唯願大日、本尊聖者、多聞天王、大吉祥天、阿利帝母、五人太子、大藥及、四諸尊聖衆、外金剛部、護天法等、不捨本誓、降臨壇場、受設供具、哀愍納罪、生善、消除不祥、增長福壽、興法利、願成就、及以法界、平等利益。

たる、感あつて必ず通ず、勝福充滿して財を雨らすを得、願として熟せざるはなし、巨益迅疾にして箭を射るが如し、衰患を百由旬に防いで、壽命を無量歳に保つ。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○勸請 教令○の次に之を加ふ。 大聖慈悲多門天 吉祥

天女諸夜叉 ○五大願 ○普供 ○三力 ○四無量觀 ○勝心 ○大金

剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道

場觀 壇中に狴字あり、變じて七寶の宮殿となる、其の中に二肘壇あり、其の上に

荷葉座あり、座上に藥刀の二字あり、二鬼座となる、座上に吠字あり變じて如意棒とな

る、棒變じて毗沙門天王となる、身忿怒甲冑形なり、左手に塔を持し、右手に棒を執

る、眷屬圍繞せり。

○大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 合掌して二地。二火掌に

二大を以て二火の甲を押し、大指を二コチ 歸命、吠室羅嚩拏耶、娑嚩訶 ○四天王結

カヲ、二風を以て之を召け、眞言は小呪 唵婆帝也昨駄昨駄哈呼弭ソハカ。

界 立てよ、二頭指合せ立て二大掌に入れよ。

○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○

振鈴 ○大日印明

掌に入るなり、餘部は之の如し、て之を命云、出の對し、本字、阿の對し、下阿の對し、梵字、門對、昆沙門、薩傳流抄に、如く二風來去、請の如く二風來去

○本尊印明 先の召請印明なり
 ○寶塔印 定惠外縛して二中指立て合せ、二頭指風して二大指を以て之を押せ、小呪
 ○寶棒印 内縛して二中立て合せ
 ○如意寶珠祕印 金合し二小指又へて掌中に入れ、二頭指寶形にし二火並べ立てよ。小呪
 ○歸命吠室羅嚙擊耶ソハカ 密云云
 ○吉祥天女 八葉印
 ○唵摩訶室哩耶曳、娑嚩賀 禪尼師童子合掌
 ○唵捨連多羅夜ソハカ。 已上惠仁開梨記に之を載す。
 ○八供養 ○事供 ○讚 四智 本尊
 ○苦陀沒地、三薩帝弊玖嚙夜ソハカ。
 ○普供三方等 ○禮佛 四攝の次に之を加ふ
 ○南無吠シラマシダ 三反
 ○入我我入觀 ○本尊加持 先の印言召請印言なり。
 ○正念誦 大日本尊小呪百反
 ○本尊加持 ○散念誦 眼、日、本尊、大呪百反、小呪千反、吉祥天百反、降三世一字、
 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 二
 ○普供三方 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。
 ○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施の前
 次 に金二打卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。

抑、 ○神分 ○祈願 ○次に後鈴已下常の如し。
 ○毗沙門供所 ○奉修 供養法 ○奉念 佛眼真言 大日 本尊 吉祥天 降三世。
 ○持國天供次第
 持國天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水
 ○加持供物 ○ミ字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
 ○表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 ○五大願
 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結
 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
 地結の上、金剛塔の内に大海あり、海中に須彌山あり、山の半腹に宮殿あり、殿中に荷葉座あり、座上に地嚙字あり、變じて刀形となる、刀形變じて提頭賴吒天王となる、赤色忿怒形なり、甲を被て火髮上に向ふ、天衣を着し左に劍を持し右は股の上を押す、眷屬圍繞せり。
 ○大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車格 ○請車格 ○迎請 ○辟除 ○空

- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日印明

〔二〕庵云云 原本梵字對譯文字は胎青龍軌に出づるに依る。

○本尊印 二拳臂を抱き二風を釣して空を舒べよ 定の拳風を叙べて風して錦の如くし、空指是の如くせよ、右腕側を以て左の腕の上に置く、説文同印なり。 (二) 庵、地嶽合多羅悉吒羅二羅合羅囉鉢囉未歇那合娑嚩合賀

○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○了我我入 ○本尊加持印明 ○正念誦明前 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如し。

- 增長天供次第
- 增長天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持瀧水
- 加持供物 ○ミ字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
- 表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 ○五大
- 願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結
- 召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀

須彌山の半腹に七寶の宮殿あり、殿中に荷葉座あり、座上に毗字あり、字變じて刀形(或は朝)となる、刀形變じて毗樓勒及天王となる、赤色なり、右手に劍を持し、左手拳に作りて腰に安す、甲冑を着け、眷屬圍繞せり。

- 大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日印明
- 本尊印 二手背を合せ二火を釣結して索の如くし、地水風空各の屈して釣の如く、左の腕側叙べ、右の腕側叙べて左の腕の上に置き。二掌相ひ背けて各の中指相拘して索の如く、二小指・水指・頭指・大指各の之を屈して、召く時頭指を來去せよ、二説同印なり。
- (二) 庵、尾嚙疎迦合藥乞又合地跋多曳合娑嚩合賀。
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 ○入我我入 ○本尊加持印明 ○正念誦明前 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如し。

〔二〕庵云云 原本梵字對譯文字は胎青龍軌所載に依る。

○廣目天供次第

- 廣目天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水
- 加持供物 ○十字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮
- 表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 ○五大
- 願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結
- 召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 須彌の半腹に寶宮殿あり、殿中に荷葉座あり、座上に會字あり、字變じて三貼戟とな
- る、戟變じて毗樓博又天王となる、赤色にして胃を着け、右手に三貼戟を持し左手を
- 股上或は左、腰に安す、眷屬圍繞せり。
- 大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除
- 空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闍伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○
- 大日印明
- 本尊印 二手拳にして背を相ひ合せて空を以て火の甲を押し、二風索の如くせ
- よ。又た云く、二手背合せ二風鈎結し二空之を招く是れ二印 三 唵一尾嚕博乞及合

○本尊印は二拳を以て
 二風鈎結するなり
 前の如く二大等離
 して召くなり
 胎字龍軌所載に依

那伽地跋跢曳娑囉合賀

- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○入我我入 ○本尊加
- 持前の印明 ○正念誦 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持 ○八供 ○事
- 供 ○讚 ○普供三力 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如し。
- 水天供次第

注進 水天供一七箇日支度の事。

- 合。壇一面。方三尺 燈臺四本。脇机一前。私に云く三尺五寸 半疊一枚。青色幡二流。
- 長五尺。青色糸二分。私に云く生糸 名香。薰陸・沈・白檀 蘇。蜜。御明油四升二合。
- 壇敷布一段。紺布 壇供米三石五斗。私に云く壇供米一石云云 大麥七升。小麥七升。私に云く米を加へて五穀さなるか
- 大豆七升。小豆七升。土器八口。白瓷十六口。桶三口。杓
- 二口。人口常の如し。阿闍梨一口。伴僧四口。承仕一人。駈仕二人。
- 已上淨衣は各の青色。
- 右 宣旨に依て注進すること件の如し。年 月 日 行事大法師

已上の支度合點物、並に壇供御明数は同じく書くべからざるか、時に臨みて相ひ計ふべきことなり。

水天供一七箇日支度

蘇。蜜。名香。沈。白檀。薰陸。青色幡二流。各の長さ三尺五寸。綠色糸一兩。壇一面。脇机一脚。燈臺二本。半帖一枚。壇敷布一段。青色。壇供並に御明油等。如し。闕伽桶一口。加ふ。闕伽盤一枚。阿闍梨。承仕。駈仕。淨衣。青色右注進すること件の如し。文治五年七月十一日 阿闍梨權律師

此の支度は醍醐勝賢僧正神泉苑に於て始めて修して雨を祈り御讀經の時、御(二)祈のために御訪ひて行せられ、水天に一壇を供して勤仕せしめ給ふべく、支度を注進すべき由仰せ下されしに依て、進め覽はしめ給へる所の支度なり。

略定圖。(次頁参照)

水天供略次第

○先づ供物を壇上に布烈す 圖の如し ○普禮 ○着座 ○塗香

○淨三業

○三部被甲護身 常の如し

○加持香水 三古印 平茶利明

○加持供物 三古印 吉里吉里の明

○金剛起

○普禮印明 若しは金剛を持して遍禮せよ。

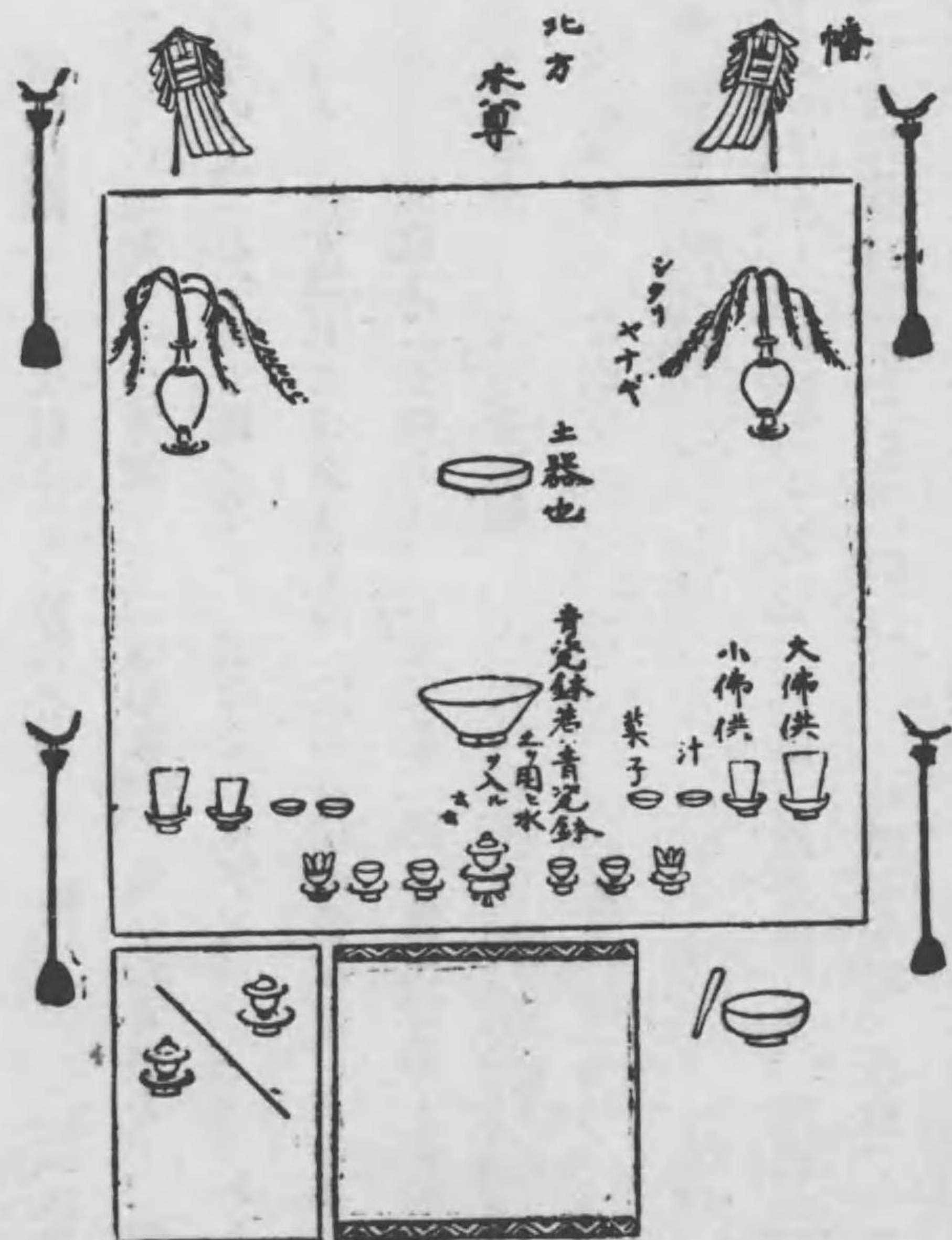
金二打

敬て眞言教主大日如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、外金剛部の護法天等、別しては本尊聖者縛魯陁大天部類の眷屬諸大龍王、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白し

(二)祈一本に所の字に作る。

(二)揚一本に湯に作る。

て言さく 夫れ以れば日光畝を焦して田水溝を忘る、月潤永く絶えて農業鐵を納む、



(一) 幡青色なり、
 (二) 揚代に相ひ同じ、茲に因て縛魯陀天の祕法を修して甘雨普潤の御願を祈る、
 若し爾らば龍神慈悲にて能かるべきか云云。

し、本尊哀愍を垂れて修中に悉地を成せむ、然るに又た南面の君垂拱無爲にして、北

闕の臣輔羽貞潔ならむ、四海の波平かに一天風静ならむ、敬つて白す。

○神分 ○五悔 ○發願 至心發願 唯願大日 本尊界會 嚩嚩擊天

難陀跋難 諸大龍王 兩部界會 以下常の 如し。 ○五大願 ○普供養 ○三

力 ○地結 ○方結 ○道場觀 拳印 壇中に字あり、變じて甘露水となる、其

の水の上に字あり龜となる、其の上に字 (朱) 或はさくら あり、變じて龍索 (朱) 或は如

となる、龍索變じて水天となる、其の身淺綠色なり、右の手に刀を執り左の手に龍索

を持す、頭冠上に五龍あり、后妃天女、諸大龍王等悉く圍繞せり云云 考歩欠七處加

○大虚空藏 ○小金剛輪 ○大鈎召印明 但し眞言の末に嚩嚩茶 野驛驢四尊を加ふ。 ○天結 ○火院

○大三昧耶 ○闍伽 明王天等を浴し 奉る。 ○荷葉座 右手拳に作りて腰を押し、左手五

惡、莎毘 或は四葉花印を用ふ、合掌して 指を申べて肩の上に掌を仰げ。 歸命、

又 二手拳にして背を相ひ合せ、空を以て 振鈴 用否は意に任せよ。ム云く但し圖 (二) 毗盧縛

又 火の甲を押し、二風を索の如くせよ。 唵、毗盧博乞叉、那伽地婆多曳、莎毘。

○本尊印明 右手拳に作り風指を立て少し 唵、嚩嚩擊野、莎毘。 ○又の眞言 唵阿播鉢

多曳、莎毘 ○又の印 右手拳に作りて腰に安し、左手拳に握り空を掌中に入る

勿れ、風直く堅て中節少しき之を屈せよ (朱) 眞言。 唵嚩嚩擊野莎訶 ○索印 内縛

(二) 毗盧縛又 廣
目天なり。
(三) 獨 一本に風
に作る。

(二) 身印 虛心合
掌して無所不至の
印なり、此の印は
水天の身印にして
此の法の秘印なり
眞言はナンバロダ
ヤツワカを唱ふ可
し、此の印は唱ふ
にあり、雖も此の
の本尊の印の處に
て結誦す可し。

して二風を立て圓に柱へよ。(朱) 眞言。 唵、嚩嚩鉢多 水天妃 右手風を舒べて少しき風

唵、嚩嚩地曳、莎訶 ○諸龍 右手風を舒べて少しき風 唵、迷迦車泥曳、莎訶 ○五帝龍

王印 二羽外縛して地指を 阿修訶那 須他提 二 哥婁薩 及 提 三 那葉提婁 四 闍羅婆提 五 曳醜四

莎毘 ○身印 合掌して眉間に當て、二頭指を屈して二大指 ○五龍印 外縛して二地 唵、薩

縛囊誦莎毘 ○五供印明 胎藏次第 胎藏次第 胎藏次第 胎藏次第 胎藏次第 胎藏次第 胎藏次第

三力 ○祈願 ○禮佛 南無摩訶毗盧遮那佛 南無釋迦牟尼佛 南無毗盧

博叉提婆 南無嚩嚩陀提婆 三反 南無諸大龍王 南無金剛界一切諸佛 南無

大悲胎藏界一切諸佛 ○佛母加持 ○大日加持 ○本尊加持 ○正念誦 時別

千八十返、陀羅尼集經の 意か(朱) 上呪を用ふ。 ○本尊加持 ○散念誦 佛眼 大日 釋迦 毗盧博及 水天 水天

○佛母加持 ○後供養 ○讚 ○普供 ○三力 ○祈願 ○禮佛

○廻向 ○解界 地結 方結 火 ○發遣 右手拳に作りて掌 唵、嚩囉母乞叉穆

○淨三業 ○三部被甲 ○護身等 ○供養法了て禮拜すること二十一反す。

南無天下國土炎早消除甘雨普潤五 穀成 就之之唱ふべし云云 ○出堂

○結願作法 行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ 五悔等常の如く行じ了て、

〇二打 傍に云
或は二打云

後供養の塗花焼飲食燈佛布施

兩手に捧げて供養の眞言を讀んで後、壇上の右方に置く(行者の左に之を置く)

〇阿伽

〇次に金

〇二打 卷數 本尊の左方に立つべし。

〇次に結願事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。

抑、〇神分 〇祈願以下常の如し。

〇水天供所 〇奉修 水天供二十一箇度 〇奉念 佛眼 大日 毗樓博叉

水天真言二萬一千遍 水天妃 五龍王惣呪 一字金輪眞言

右は 宣旨に依て今月十七日より始め今日に至るまで並に七箇日夜の間、聖朝安穩にして天下太平、早魃を銷除し甘雨普く潤ひて五穀成就し、萬民快樂ならしめ奉らんとして、殊に精誠を致して修し奉ること件の如し。 年 月 日 阿闍梨

〇水天供所 〇奉修 水天供十五箇度 〇奉念 佛眼眞言一千五百遍 大日

眞言 毗樓博叉眞言 水天真言一萬五千遍 水天妃眞言一千五百返 五龍王

惣呪 一字金輪眞言

右は仰せに依て今月十一日より始め今日に迄るまで、並に五箇日夜の間、 禪定大王の玉體安穩にして天下泰平、萬民快樂、早魃を銷除し、甘雨普く潤ひ五穀豐饒にして萬業成就せしめ奉らんとして、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉ること右の如し。

文治五年七月十五日

阿闍梨權律師

此の卷數は彼の勝賢僧正雨を祈りし時、御所に進らしめられし御案なり。

札に云く 水天供御卷數 權律師

水天供三時に之を行す、本尊は北方に安じ、行者は面を北に向ふべし、師説に、北方は水方なり仍て必ず北に向ふ云云 今案するに陀羅尼集經の意に依るか、青色の幡二流、本尊の左右に之を懸く、或は壇の左右に之を懸く、懸くべき便なくんば棹を立つべきなり、今案するに青竹も能かるべきか。

青生糸三尺許りなり、結んで土器に入れ之を置く、是れを龍索と名く、本尊三昧耶形なり。壇敷には紺布若くは青色の絹之を用ひよ。壇中に青瓷鉢 若くは青瓷瓶 を置き水を入れ、薫陸香を入る、是れ祕事なり。云云

今案するに水の用力を増すためか、是れ香は物の用力を増すが故なり。御明四燈を壇の四角に之を立つ、昔より四燈を用ふ云々尋ね決すべき事か。花瓶を四角に之を立て、栢柳を以て之に指せ、或は二瓶之を用ふ。佛供十六杯大佛供 白飯 小佛供に五穀を加ふ、十六杯の事、陀羅尼集經に見ゆ。汁、菓子各の八杯常の如し、壇の四面に之を備ふ、後夜に粥八杯五穀を之に加ふ、阿伽燒香に於ては只だ前許りなり。

如法に修せらるゝ作法此の定めなり、連壇の時同じく此の定めなり。

水天種子 ふとまの三字 是れ常の様なり。 或は那 三昧耶形 龍索 或は如意寶珠

○形像の事。陀羅尼集經の意に云く 白檀を以て水天の像を刻作す、身の高さ五寸或は二寸半、天女の形面に三眼あり、頭に天冠を着し身に天衣を着、瓔珞をもて莊嚴し、兩手を以て如意寶珠を捧ぐ。

或は説く、形像は赤色又は紅紫色、左手に花を持し上に星を安し右手に劔を持す。

或は説く、肉色にして左に索を持し、首に七龍あり、右手は腰を押す。

或は説く、肉色大白黄色、亦赤色といふ、右手に索を持し首に九頭の龍を安す。

御本に云く 正治元年二月六日、御日記折紙等を以て之を部類す、次第に於ては

法印大和尚位の御抄十二天供次第を以て之に准據す、蒙昧の癡忘に備へんがためにして、更に他見に及ふべからざるのみ。 佛子尋海

○瑛魔天供次第

(二)日 朱書して夜の字に作る。

瑛魔天供七箇(二)日支度。古支度には小刀一柄、桶三口折敷三枚、火鉢一口あり。 壇一面。方三尺 脇机一前。 燈臺

二本。 半壘一枚。 名香 沈。白檀。安息。 蘇。 蜜。 壇敷布一段。 蠟燭布二丈。

壇供米四石二斗。 御明油四升二合。 五穀各の七升。 阿闍梨。 承仕一人。

驅仕一人。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 保延二年六月卅日 平等房法印の所用なり。

此の法は伴僧二口鳥羽院の御時之を具せしめらる。云云

阿闍梨着座は、前の坐、前の壘の間を以てし、伴僧は板に居す、阿闍梨着座の後、伴僧壘に寄る、着座三力金以後讀經。

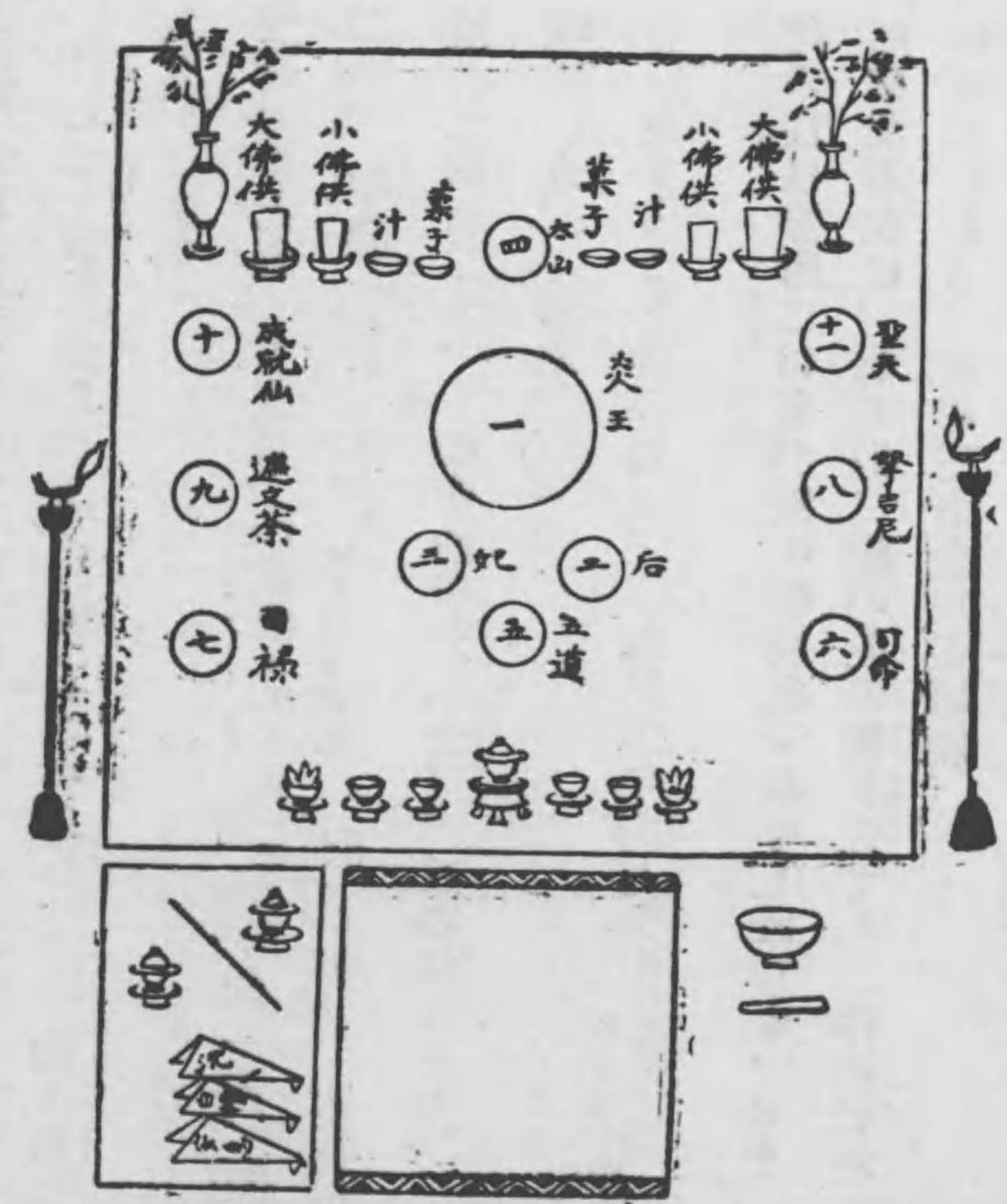
本書の説は幣幡擬錢の三種之を供す、師説は幣二本許り佛前に立つるなり、幣は弘き帛まきを三に折り挿むなり。

御佛供は白飯大小合せて四杯、或は大佛供あつて小佛供なし、是れ住房の時の事か

(三)私に曰く、此處に壇あり。次頁参照。

但し廣略は供米の多少に随ふべきか。汁は小豆、菓子には長餅二杯、圓餅二杯、或る時は菓子には餅に随ふべし、五穀の飯は十一杯なり、此の内中尊は殊に大なり、臈

圖中一二等は點火の次第なり。



銘を書いて位の如く壇上に立て、其の前ごとに臈燭を居うるなり、大飯は摺粉鉢の大

開白時には臈燭並大小佛供等之に居す後々は臈燭は初夜大小佛供は日中之に居す但し一時に行する時は佛供ハ釋迦如來に奉る云云
 蘇は開白の時左右の御明器に少分之を入れ、蓋は御佛供の上に之を置く。
 名香、開白の時、麗水に之を入る、又た機香の上に少分捨て之を懸く、後々の時此の如くす。
 燭飯居時の次第は石山次第の如し一二三に立臈燭の次第を圖せり。
 又た此の如きを以て上より下に至るなり、古き様は札に

なる帯三所にして之を盛る、次の十杯は同じき鉢の小し少さきに之を盛る、壇の下に切張之を立つ、佛供多くして重きが故なり。臈燭に火を付け新布指燭、普通は壇上に縁あつて之を置く、或は燈臺の上に之を居え置く、師説は、折敷の上の土器に少分の油を入れ之を置き、布指を打ち懸け燭して、晝は壇下に取り隠して、夜取り出して右方の燈臺の本邊に之を置く、若し右方御所の時は左方に布指燭を置き、承仕左方より寄すべきなり。

(一)發願 或は開白に作る。

瑛魔天供次第 亥の時を之を供すべし、公家には初夜一時に之を修す、私には三時、意に任す。
 ○先づ着座 常の如し ○次に香を手腕に塗る 常の如し ○次に三部護身 常の如し ○次に加持香水 常の如し ○次に加持供物 常の如し
 ○次に表白 (二)發願の時許り之を用ふ。

敬て眞言教主大日如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、外金剛部の護法天等、別ては本尊聖者炎魔法皇梵王帝釋の部類眷屬諸の眞道等、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶の境界に白して言さく、夫れ瑛魔法王とは、鐵圍山の外に在りて眞道の大将たりと雖、檀茶輪の面を見て悉く人間の罪福を知る、遂に則ち重罪を作す者あれば火光出現し、善根を作す者あれば白蓮開敷す、而るに今信心の施主吉日を撰び良辰を定めて、

秘密の道場を飾て瑜伽の秘法を修す、匪石の至て苦なる、悉地豈に疑はんや、若し爾らば縦ひ病患重くとも呪功通じて治す、察ても安く寤ても安からん、縦ひ正報盡きたりとも誓願謬らす、死籍を削りて生籍に付く、乃至法界を平等に利益せん。

○次に祭文 (朱)用否は意に在り。 維れ其の年月日初夜の時分、敬て眞言教主大日尊、轉法輪

主釋迦如來、及び兩部海會の曼荼羅中の諸尊金剛天等、殊には炎魔天王及び梵天帝釋の部類眷屬諸の冥道等に白す、信心の施主某災難怖畏を消除し福德官位を増益せんがために、月日時より始め並に何箇日夜の間禮場を建て、隨方の供具を辨じ備へ、蠟燭・香花・飲食の供を炎魔天王及び梵王・帝釋の四大天王の部類眷屬冥道等に供し奉るに、座次の如く此の道場に降臨したまひ此の供具を哀感納受したまひ、大施主を守護し、年厄月を襄ひ、天災地天の已熟と未熟と已に萌せると相並に消散し、官位日々に高く昇り、壽福年年に倍々増せんことを。敬て白す 自餘の祈願は意なるのみ。

○次に神分祈願 ○次に五悔 常の如し ○次に發願 至心發願 唯願大日

本尊界會 焔魔法王 泰山府君 司命司祿 五道冥官 諸眷屬等 還念本誓 降臨壇場 所設妙供 哀感納受 護持 云云 已下例の如し。

○發願 裏に異様を出す。
○焔魔法王 或既に平等大王といふ。

○我 朱書に其に作る。

○次に五大願普供養 ○次に三方偈 一打 時に二口の伴僧高聲に金剛般若經五卷を轉讀す。 ○次に三部被甲護

身 ○次に地界 ○次に金剛塔 ○次に道場觀 七處を加持す 壇上に我字あり光

明を放ちて遍ねく大地を照して瑠璃寶地となる、其の上に亦た我字あり、光明を放つに宮殿となる、七寶をもて莊嚴せり、幡蓋寶樹周匝し莊嚴せり、此の殿の四方に四門を開けり、門ごとに皆な階道あり、此の殿の内に壇場あり、其の上に我字あり、變じて檀茶の印となる、印變じて焔魔法王となる、水牛に乗る、左右前後に后妃・姪女あり泰山府君、五道の冥官等の眷屬圍繞せり、此の觀を作し已て穆欠の眞言を誦し七處を加持す。

○次に大虚空藏 ○次に小金剛輪 ○次に送車輅 ○次に請車輅 ○次に

大鈎召 曩莫三曼多沒馱南、阿、薩嚩怛羅、鉢羅底訶諦、但他莫黨矩耆冒地、浙哩

也、鉢哩布囉迦、瑛魔耶翳醜四ソハカ。 ○次に金剛網 ○次に火院 ○次に闕

伽 ○次に獻座 但し二意あり、一に水牛座、二に荷葉座。只だ荷葉座と八葉印を想ふなり、四葉印天等は普通の事なり。 ○次に拍掌 時に承仕

を聞いて騰燭に火を付く、即ち阿闍梨の右方より打寄て先づ御明火を掻き擧げ、次に右手に指燭の柄を取て御明火を付け、防範して左手を以て衣袖を掻き取り、右手指燭の柄端を取て位の次第に隨て火を付けた後、土器油に燭を指し入るれば火消す、其の後指燭を本所に置いて、次に袖の内にて左右の手合掌して、心中に本尊を想ひ並に阿闍梨に歸命するなり、承仕能く能く精進潔斎すべきなり、阿闍梨數珠をもて十一尊の呪を次第に之を誦す

○大鈎召 此の次に權類の天には辟除あり、今實類の故に之れなし。

○水牛座 本尊乗る處の牛なり。

(一) 瑛魔王印 此
 印即如檀茶印
 印文二風の中節を
 二空の如くなれば
 題二大の内の第
 三の文に付く答は
 結びも此の如きは
 結ばぬし故に二
 には二空を以て二
 風の側を押す。次
 (二) 胎藏印 次
 第の胎藏印は胎藏
 同じ地水火風の
 四指を四方に散し
 入空を垂れ中央に
 (三) 健陀 餘の梵
 語。五道大神 此
 眞言裏書にもあり
 (四) 持す 原文に
 なし一本にあり。

ること各の三反者
 くは七反す。○次に瑛魔王印 二手合掌して二風・二通相ひ背けて月に入れ、二空並べ立て、
 へよ、水火の頭相 眞言に曰く 歸命、縛の反 嚩嚩多野、娑嚩賀。 ○次に后印
 眞言に曰く 歸命、沒哩底野吠、娑嚩賀。 ○次に妃印 惠手五輪を垂れて(三)健
 じく左を腰 明に曰く 歸命、摩哩但野吠、娑嚩賀。 ○次に太山府君印 眞言に曰く
 歸命、質但羅矩跋多野、莎哥。 ○次に(四)五道大神 眞言に曰く 唵、閻魔羅闍
 揭羅鼻喇耶、阿揭車、莎哥。 ○次に司命 眞言に曰く 伺命伺命多視多視囉多本
 尼耶、莎哥。 ○次に司祿 眞言に曰く 已者已者毗迦良、莎哥。 ○次に擊吉尼
 左掌を舒べて面門を合せ、舌を出して掌 眞言に曰く 歸命、頤唎訶、莎哥。 ○次に遮文茶
 に附け、人血を食する勢の如くせよ。 眞言に曰く 歸命、護嚩護嚩左門擊、莎哥。 ○次に
 印 定の手を仰げ胸に作て胸の上に當て、想へ調養 歸命、護嚩護嚩左門擊、莎哥。 ○次に
 成就仙 眞言に曰く 歸命、悉駄尾你也陀利南、莎哥。 ○次に毗那夜迦 二小、二無
 鈎して内に向へて、二中指を以て整て相ひ(五)交へ又二風を以て各 眞言に曰く 唵、摩訶譚婆多
 の中指に附け、二大を以て頭指の側に附け近づけ五處を加持せよ。 眞言に曰く 唵、摩訶譚婆多
 曳、莎哥。 ○次に若し諸神の呪を用ふれば 右手拳にして風を舒べ、頭 眞言に曰く 唵、
 嚩迦嚩迦、莎哥。 ○次に(六)塗香 左手を以て右手の腕を執り 眞言に曰く 唵、
 ○次に花 二手内に相ひ及へて縛となして之を開き仰げ、二頭指 唵、微薩羅微薩羅莎哥。
 の側頭之を相ひ挂へ、二大は頭指の下に著けよ。 唵、都哩惹嚩闍多詣莎哥。 ○

(一) 目鼻口 此の
 如く觀するのみ、
 此の印四處加持す
 (二) 又印書 此の
 三字未書す。

(三) 釋迦云云 已
 下の三は必ずしも
 之を用ひず。

(四) 金二打 或は
 一打ともいふ。

次に焼香 二手背相ひ合せ二頭指を舒べ側之を 眞言 前の塗香の 眞言に
 相ひ挂へ、二大は頭指の下に安け。 眞言 明を用ふ。 ○次に飲食 二手之を鉢
 曰く 唵嚩日羅尼嚩日藍莎哥 ○次に燈 右手火を舒べ頭指 眞言に曰く 唵微嚩哩多
 路者曩吽發吒。

○次に事供 ○次に四智讚 又た諸天 ○次に普供養印明 ○次に三力祈願 ○次
 に禮佛 南無炎魔法皇 三反、四攝の次に ○次に本尊加持 檀茶印、(一)目鼻口あ (三)又
 左手掌を申べて小しき風して風を鈎し、大指を頭指の下に着 眞言は五道大神の眞言なり、是れ炎魔天の印言なり。

○次に正念誦 歸命、嚩嚩多野、莎哥の眞言なり。 ○次に散念誦 佛眼 百反
 大日 百反 釋迦 百反 地藏 百反 三昧耶眞言 百反 本尊 或は千反
 后妃 各の 泰山五道 各の 司命司祿 各の 茶吉尼 成就 聖天 各の 一
 字金輪 百反 ○次に讀經 金剛般若經一卷 般若心經七十卷 或は十卷 尊勝陀羅尼七反

○次に後供養 常の 眞言に曰く 歸命、沒哩底野吠、娑嚩賀。 ○次に發遣 十八道の
 ○結願作法 行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ金二打、次に祭文、次に五條
 以下は常の如し、行じ了て後供養の時、塗・花・燒・飲・燈・佛布施 兩手に持けて眞言を
 方(行者の左方) ○阿伽 ○次に(五)金二打 卷數 本尊の左方に 次に事由 一七

箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめ、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして必ず自他の所願を成せん。抑 ○神分 ○祈願 ○禮佛 ○廻向並に廻向方便は常の如し。

○琰魔天供所

奉供。大壇供七箇度。薦燭供七箇度。奉念。大日真言七百遍。佛眼真言。本尊真言二萬一千反。地藏真言七百遍。琰魔后真言。琰魔妃真言。泰山府君真言。五道大神真言。司命真言。司祿真言。茶吉尼真言。遮文茶真言。成就仙真言。聖天真言。一字金

○琰魔天供所

奉供。供養法六十三箇度。奉念。佛眼真言六千三百遍。大日真言。釋迦真言。地藏真言。本尊真言六萬三千遍。琰魔后真言六千三百反。琰魔妃真言。泰山府君真言。五道大神真言。司命真言。司祿真言。茶吉尼真言。遮文茶真言。成就仙真言。聖天真言。

輪真言。

奉讀。金剛般若經七卷。般若心經五百卷。尊勝陀羅尼五十反。

右奉爲 年月日

如來慈護真言。一字金輪真言。

奉讀。金剛般若經廿一卷。般若心經六十三卷。尊勝タラニ一百一十七返。

右は 左承相殿下御除病延命し、福壽を増長し無邊の御願決定して成就し、決定して圓滿ならしめ奉らんとして今月七日より始め同じく今日に迄るまで、並に三七箇日夜の間、殊に精誠を致して修し奉り念じ奉ること右の如し。

文明三年十二月廿八日、阿闍梨權律師法橋上人 位

○幣燒の事。阿闍梨下座して三度禮拜了了の後、承仕左右の幣を申ながら取て、

（二）連壇云云
主ありて此法を行
す時七壇を施
す法といふは七壇の
連壇といふは是を

壇下より火鉢を取り出し、幣帛を取て火鉢に入れ、串をば壇具の横に入れたりて、指燭に御明火を付け、火鉢を取て壇所より關伽棚の邊下に出し、直ちに幣紙之を焼く、此の間阿闍梨佛前に出で法身の偈並に心經を誦す、承仕幣紙を燒き了て灰は阿伽棚の下に寄す、鉢は常の如く壇下に置く、阿闍梨壇所を出づるに承仕下地して座す、阿闍梨歸り出で了て後、承仕壇所に歸入し、御明油を壇所に出し關伽棚の邊の大床に居く暫くの程あつて御佛供之を取り出すべし、壇上は扇を以て之を打ち扇ぎ花を備ふ、（三）連壇の時、金を鳴せば、承仕各の勘發して過酒を盛らしむ、仍は阿闍梨出で了らば承仕打鳴を先づ取て、脇机の上に覆すべし、承仕半疊を踏ますして取り去り諸事を作すべきなり。

又た御入堂ある時承仕下地にして阿伽棚の邊に待候すべし、若し急事ありて祈る時は阿闍梨宿所を出で、暫く休息の後、壇所に歸參して本尊咒を讀むなり。

○薦燭取り出す事。先づ薦燭を次第に引き取て佛供居物に一處に之を置き、次に薦燭飯を出すに自下始めて取り出すなり、亦た人間作法の如し。

壇供米六斗 阿闍梨供五斗 伴僧二斗。乃ち米と書かざれば官米を下すなり、官

米は粗なり、必ず乃ち米と之を書くべし。 延慶三年五月八日、仁和寺真光院に於

て御本書を以て寫し了る。金剛佛子 印立 生年 卅三 同じき十六日二校了る。

○聖天供次第

成就院大僧正御房の抄に云く、

聖天供所用物。 壇一面。 半疊若くは圓壇を加ふ。 脇机一前。 燈臺二本。 火爐一口。 關

伽器一前。 花瓶一口。 香水一器。 塗香一器。 多羅一口。 杓一枚。 名香

少。 蘇蜜少。 紙少。 炭少。 浴油。 燈炷少。 淨水一桶。 初後

み用 淨酒。 蘿蔔根。 歡喜團。 粥。 後夜時に用ふ。 餅。 羹。 飯。 菓子。

已彼の上御記。

聖天供七箇日支度 成蓮房阿闍梨の用ひたまふ所と云云

名香。 沈。 白檀。 蘇。 蜜。 壇一面。 方三 燈臺二本。 脇机一脚。 半疊一枚。

桶三口。 大 杓二支。 折敷五枚。 火鉢一口。 淨鍋二口。 金輪一口。 炭

二籠。 油五升。 米五石五斗。 壇敷布一段。 紙二帖。 淨衣。 阿闍梨。

承仕。 駈士。

右注進すること件の如し。 治承四年十二月二日 阿闍梨大法師

(こ)果 或はいふ
裏の字が。

此の支度左大臣經宗殿御祈の時進らせられたる。但し米(こ)果下之を行す施主の御意

樂なり。

此の支度、
物を載せず
必ず儲物等
を求むべし

時菓子。

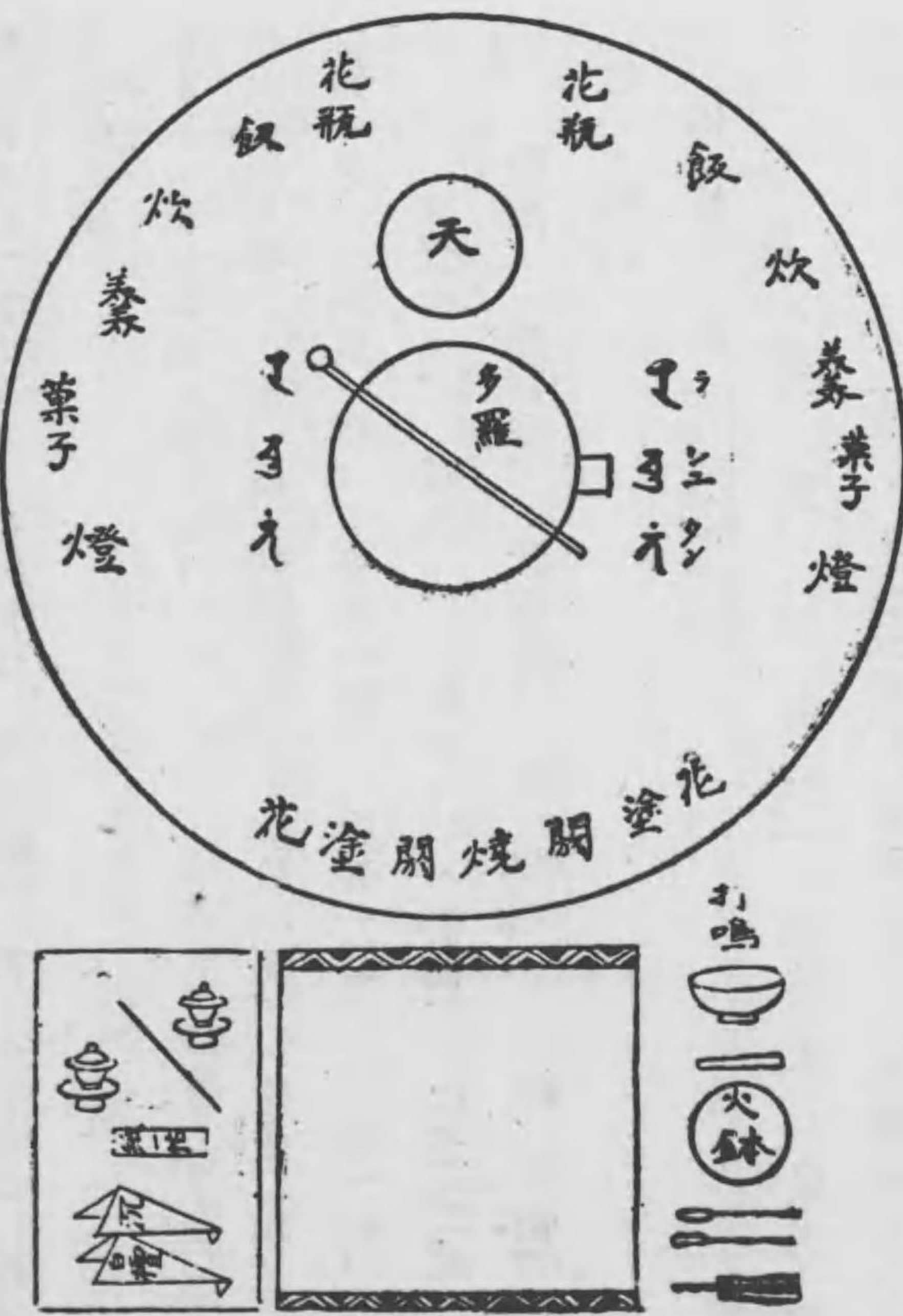
小豆。薪。

關煎等の
料なり。

扇。火箸。

淨手洗一口

本尊淨水
沐浴新。



多羅一口。 本尊像一軀。 已上良抄中にあり。

(こ)一本になし。

或る記に云く、清淨に洗浴して一切有情に於て大慈悲心を起して之を修すべしと。

師云く、圓壇を用ふるなり、之れなくば紙ヲ圓ニ切テ方壇ノ上に敷いて供物を居くなり、公所ニテハ初日夜内ニ二時に行する事モ大事なり。サレバ日中ヨリハジメテ結願ノ日ノ後夜ニ一時ヲ行テハツルナリ、燈ハ普通只だ燈臺なり、團ハ小柑子ノスコシヲ、キナルホトニ作(こ)具足只如伏トノ一坏ニ四ヲモル一時ニ八ナリ。

師説次第 ○先づ洗浴 開白以前に淨器ニテ淨湯を沸さしめて能く寒温を調へ、名香を入れて洗浴の眞言を誦し、三股杵若しを以て加持すること廿一反吉哩吉哩の眞言を用ふ然る後に天像を洗浴す、即ち淨紙を以て拭淨し壇中に安置せよ。洗浴の眞言

唵阿拏囉日羅波婆捺拏訶。或る次第に云く、明曉に供せんを欲はば今日初夜に之を作れ、壇所へ渡ラムトセム時ニテモ洗浴ハアリナム、マタ天像キヨケニ御ましまハ洗浴ハナクトモアリナム、體に隨ふべし。

○次に壇場に詣して禮拜す、但し正しく禮せん時には、大日如來等流身を想ふなり。

三反禮するなり。 ○着座 ○塗香 ○三密 ○淨三業 ○三部 ○被甲 ○加持香水 根里根里の眞言を用ふ ○加持物 小三古印を以て根里の呪を誦す。 或は之觀 ○淨地 ○觀佛

(一)以下の大呪、
原本に梵字あれど
も今は省略す。

(二)宣 一本に宣
に作る。

(三)欺犯云云 集
經十二には「即ち
三寶を欺犯して真
く同ぜん」に作
る。

○金剛起 ○普禮 ○次に多羅を取て火爐上に居き半牙印を作りて大呪廿一遍を誦して加持せよ。(一)曇謨尾那翼迦瀉、賀悉底母佉瀉、但你野他唵娜翼迦、娜翼迦、尾娜翼迦、尾娜翼迦、但羅翼迦、簸哩但羅翼迦、餉佉賀悉底、餉佉迦只多、扇底迦囉耶、娑嚩訶。敬愛等の時は、息災の句に改む。

多羅に油を入る事。(二)宣旨斗一升なり 蘇蜜名香を之に入る。油の寒温を調和せしめ了て本の如く移して壇中に置き、天像を油の中に放着す。

○次に表白 敬て眞言教主大日如來、兩部曼荼羅の諸尊聖衆、外金剛部の護法天等別ては本尊聖者大聖歡喜夫婦、雙身毘那迦尊、九千八百の諸大鬼神王、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の三寶境界に白して言さく 夫れ大聖歡喜天とは、毗盧遮那如來の等流法身なり、無縁の慈悲に牽かれて隨類應同の身を現じ、往昔の因縁に依て夫婦雙身の形を顯す、遂に則ち慈善根力を以て毗那耶迦の障難を誘へ、行者の信念に報へて上中下品の悉地を與へ、本尊即ち誓て言はく、陀羅尼神呪を誦持せん者あつて、所住の處に若し惱亂及び殘害を加ふることあらんに、相ひ擁護せずんば我れ等眷屬(三)欺犯を三寶に負む文若し爾らば誓願限りあり、金言空しからずして、早く施主の信心に依て祈

請の所望を成就せん

○次に神分祈願等了て五悔 ○發願 至心發願 唯願大日 本尊界會 大聖歡喜 雙身天王 與諸眷屬 降臨壇場 (未) 次々常の如し。 ○五大願等

○次に四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○四方結 ○道場觀 觀想せよ、五輪世界の大地上に赤字あり、毗那耶迦山となる、上に梵あり寶宮殿となる、中に萬太ラあり、上に亦た梵あり變じて荷葉座となる、上に梵字あり箕となる、箕變じて本尊身となる、象頭人身にして夫婦の相ひ抱く形なり、七處を加持すること常の如し。

○大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車 ○請車。召請して本尊三摩耶大印を結び、大指を來去し、二小指・二無名指を以て相ひ鈎して内に向へ、即ち二中指を以て直く豎て相ひ合せて、又た頭指を以て各の豎て中指につけて二大指を以て直く豎て、頭指の側に附け近づげよ。召請の時は大指を來去す。

搬遣の時は二大指を外に彈するななり。(一)唵 囉 迦 囉 主 娜 嚩 嚩 嚩 野 娑 嚩 訶。搬遣の時は止むに藥車

(二)唵云云 原本
は梵字あれども今
は省略す。

藥車を加
ふるなり

(一)ヒタハタ 詳
かならず、下板の
こまか。
(二)鹽云 鹽入
らされば味變ずる
故に之を入れて好

ヲ施主の許に送ること七箇日の間に一度なり、二三果自らも食ふべし。
師云く、洗浴ノ時手ニテハ便ナシ、シキミノハナントシテスリタテマツルベシ、木ノハ
シニテクボナラムトコロハ、ヤハラスリタテマツルベシ。
師云く、多羅ヲハ只だ壇ニ(一)ヒタハタニ居え、杓ハ多羅ニサシイレテヲク、他所に置かず。
團並に汁ニ(二)鹽ハ入れず。天像ヲハタ、ウカミニテトル、箸を用ひず。飯食・菓子・
蘿・酒・團等取り上げずして之を供す。師云く、使呪法經ニ男天女天の相各別なり、但
し普通の形像は只だ同事なり、爾れば之を簡別せず、只だソハヲ行者に向へ二身中に
浴油するなり。

法印大和尚位の御日記なり、而も支度巻數表白は予之を書き入れ別行とするなり。

尋 海

(三)次に云云 註
に云く、已下は實
數阿闍梨の本を以
て之を香す。

○次に結願作法 後供養闍伽以前 打金一 卷數を讀む 次に事由 神分 全く 常の如し
祈願 佛布施 三古印軍茶利の小 壇上左方に置く ○次に闍伽已下常の如し。
紙を以て押し合せて本尊を取り奉りて本所に置き奉り、多羅油を取て物に入れて、多

(一)水を入れ 傍
註に名香の少分入
るべしとあり。

羅並に杓ヲサクツヲ以テ能く能く洗ひ、次に多羅ニ(一)水を入れ火上に居き、本尊は大
呪を以て加持すること廿一反、寒温を調へて壇中に置き、本尊を居き奉る、湯を浴す
ること一百八反了して、紙を以て能く能く拭ひ奉り、後に本所ニ本尊を居き奉る、次
に多羅を取り水を闍伽棚の下にステ、拭ひ、壇具箱に多羅杓を置く。

○次に破壇作法 火舎を取て脇机に置く、次に壇下に表字あり、黒大風輪となる、
壇吹き破ると觀じ、左方の足ヲ取て三度動し法身の偈を誦せよ。又た修中に渡壇の事
アラバ、左右の手を以て壇をスコシ持ち上げて、眞言 唵嚩囉囉囉婆を誦せよ。

○歡喜天供一七箇日支度

- 養。 蜜。 名香。 沈。白檀。 壇一面。 五三寸 燈臺二本。 脇机一脚。 半疊一
- 帖。 壇供米。 常の 御明油。 常の (朱) 菓子少。 (朱) 小豆二斗一升。 紙三
- 帖。 壇敷布一帖。 火鉢一口。 炭一荷。 折敷二枚。 桶二口 (朱) 或は 約を
- 淨衣一領。 白色 承仕販仕等の淨衣。 常の 長續一合。

(三)右注進すること件の如し。 年 月 日

(一)右云云 朱書
に云く、右は
せに依て注進す
ること件の如し。

○歡喜天供所。奉供。 供養法十二箇座 (奉) 浴油供十二箇度。奉念
 佛眼真言一千五百遍 大日 十一面 軍荼利 大自在天 本尊大呪一千
 五百遍 同心呪十萬遍 同心中心呪一萬五千遍 調和呪一千五百遍 悅與
 呪一千五百遍 一字金輪

右は 大施主殿下御息災安穩にして福壽を増長し、御心中の所願決定して成就せしめ奉らんとして、某月某日より始め今月今日まで、殊に精誠を致して祈り奉ること件の如し、仍て遍數を勸して謹んで解す。

年 月 日 大法師

寫本の奥書に云く

傳法院流の小巻物の内なり、作者尋常開梨御自筆の草木なり、之を紙ゆがせにする其れ。

地天供次第

- 地天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○三部被甲 ○加持瀝水 ○加持供物
- 之字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白

こじ徳 一本に力に作る。

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の堅牢地神、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく 夫れ堅牢地神とは、誓願殊勝にして威こ徳自在なり、遮那三昧の形を以て群類を化して釋尊を擁護し、多劫の行半身を現じて證知す、禮拜合掌すれば則ち智慧辯才の聰明を誇り、供養至心なれば亦た人中天上の愛敬を得、千生萬生の巨富望に任せて盡くることなく、象寶、馬寶の七珍呼ばずして自ら來る、感應の至り渴仰寂も深き者か。

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○發願 堅牢地神 部類眷屬
 - 五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結
 - 方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 金壇の上に七寶の宮殿あり、殿の内に荷葉座あり、座の上に畢里字あり、變じて寶瓶となる、寶瓶變じて堅牢地天ケンロウヂテンとなる、肉色にして首に鬘ウツクサを着す、身に羯磨衣カマヤを着す、莊嚴微妙にして左手に鉢を持し花を盛る、右の手の掌を外に向へたり、眷屬圍繞せり。

- 大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輪 ○請車輪 ○迎請 ○辟除 ○空

こじ徳 傳流抄には髪に作る。

- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
- 大日印明

○又の印 二頭
二小内指 二中二無
名立て合し 二大並
べ立て、來去す。

○本尊印 合掌して風以下の四指頭相ひ挂へて前方(朱)鉢印 唵畢里體微曳(朱)

○又の印 腕を合せて二頭指及び二小指を以て掌中に反し及へて、右、左を押し、二中指及び無名指を以て直く立てて頭相ひ挂へて、二大指を以て並べ立て、二頭指の側を押し來去せよ。(朱)大指來去す。

○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方等 ○禮佛 南無堅牢地天 三反

○摩利支天供次第

○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持灑水 ○加持

供物 ○文字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毘盧遮那如來、金剛界會の三十七尊、九會曼荼羅の諸尊聖衆、並に大悲胎藏八葉蓮臺十三大會慶の聖衆、殊別には本尊聖者摩利支

天、惣じては佛眼所照の帝網重重一切三寶に白して言さく

○本文此の次七
行空文。或は發
願を以て換ふる時
支左の如く。摩利
支天、諸眷屬。

- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 摩利支天慈悲尊
- 部類眷屬諸天衆 ○五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪
- 地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀

樓閣中に荷葉の塵あり、座の上に又字あり、字變じて扇形となる、扇形變じて摩利支天となる、天女の形に似たり、左の手臂を屈して上に向へ、手腕を左の乳の前に當て、拳に作り、拳中に天扇を把る、扇維摩詰の前に天女天扇を把れる如し、扇の當中に於て西國の萬字を作れ、字佛の胸の上の萬字の如し、字四曲内に各四箇日の形を形る、一一に之を着く其の天扇の上に光焰の形を作せ、右の手臂を申べて、五指を並べ申べ、指の頭垂れ下す、眷屬圍繞せり云云

- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日
- 印明

○本尊根本印
常の大金剛輪の印

○本尊根本印 二手、地水内に相ひ合せ、風空並べ立て合せ、火を以て風に纏ひ、金剛輪印の如くし、身の五處を印せよ。 唵引阿彌底也合摩利支莎

諸尊聖衆、別しては本尊界會の吉祥天女五太子等の部類眷屬、惣じては佛眼所照の微塵刹土の同別住持の三寶願海に白して言さく、今此の天は善幢を成熟し群萌を饒益す、若し百八の名を唱ふれば諸天の擁護を蒙り、適々十二の契を持すれば十地の願望を満す、福庭考槃鎮へに財穀の豊なるあり、潤屋多蓄更に資産の乏きことなし、莫大の勝利夫れ然らざらんや、爰を以て護持大法主とす

勸請 或は發願に換ふる時は文左の如し。本尊聖者、吉祥天女、蓮華部中、諸大眷屬。

○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 本尊界會功德天
三十七尊諸薩埵 ○五大願 ○普供 ○三力 ○四無量 ○勝心 ○大
金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○
道場觀 心前に瑠璃地あり、地上に宣臺玉床あり、上に梵室哩シの字あり、字變じて如意寶珠となる、珠變じて吉祥天女となる、其の身端正にして赤白色なり、二臂なり、種種の瓔珞あり天衣寶冠にして左手に如意寶珠を持し、右手は施無畏にす、左邊の梵天手に三寶鏡を執り、右邊の帝釋散花供養す、天女の上に五色の雲あり、雲上に六牙の白象を現す、象鼻を持て馬腦瓶まなうを絞ふ、瓶中より種種の寶物を傾出し天の頂上に瀉ぐ、天神の背後に百寶の花林あり、頭上に千葉の寶蓋を作る、蓋上には諸天伎樂を作し

寶鏡 傳流抄には寶鏡に作る。

散花供養せり。七處加持

○大虛空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空
網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○振鈴
○大日印明

○本尊印明 大三古印 印相に云く、二小指。二無名指右、左を押し、内に相及へ二中指を直く豎て頭相びひ跽へ、二頭指屈して鈎形の如くし、中指の背に附け、相ひ着けしむる勿れ、二大指並なまへ立て、無名指を捻せよ云云是れは口傳なり。眞言 唵摩

訶室里野曳莎訶 說所を勸ふべし ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛
○入我我入 ○本尊加持 ○正念誦 上の呪 ○本尊加持 ○散念誦 佛眼大日
名號馬頭一字 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力 ○禮佛 ○
廻向 ○解界已下は金剛界次第の如くなり。

○結願作法 神分祈願ヲセズシテ五悔已下常の如し、後供養の時佛布施 闕伽 次
に金二打 卷數 次に事由 一七箇日の行法結願只今にあり、日來の間道場に
降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地

○解界已下金剛界次第の如し。

○大黑天神供次第

- 大黑天神 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持瀝水 ○加持供物 ○十字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀物 ○驚覺 ○遍禮 ○表白

こ已下原本に六行空文なり。

勸請 或は發願に換ふる時は、

天文の如し。大黒天神部類眷屬し請鬼神等。

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には大黒天神の部類眷屬等、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく

○神分 ○五悔 ○發提心 ○三昧耶 ○勸請 大黒天神護法者 部類眷屬諸鬼神 ○五大願 ○普供三力 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪

○地結 ○方結 ○召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀壇中に荷葉座あり、座の上に卍字あり、變じて刀となる、刀變じて摩訶迦羅神となる、身青黒色にして火髪上みさまに豎ちて極忿怒の形、三面六臂を有す、前の左右の手に横さまに劔を執り、次の右手に人髪を執る、其の形裸にして合掌し長跪す、次の左手に羊角を執り、次の左右の手に象皮を執り背後に張る、鬚體を以て瓔珞とせり、蛇

以て耳璫臂釧とせり、乃至眷屬圍繞せり。 又た云く。壇中に荷葉座あり、座上に卍字あり、變じて袋形となる、袋形變じて大黒天神となる、膚の色純黒にして頭に烏帽を冠らしめ、袴を着し駮褰げて垂れず、狩衣を着し裾短に袖細なり、右手を拳に作りて右腰に收めしめ、左手に大袋を持し背より肩上に懸けしむ、其の袋鼠色にして餘り臀の上に垂下す、胎には六臂を圖せり云云

- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅 ○迎請 ○辟除 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日印明 ○本尊印 普印 唵、摩訶迦羅耶、娑嚩賀。 又た曰く 唵密止密止、舍婆隸、二多羅羯帝、娑嚩賀。 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力祈願 ○禮佛 南無、摩訶迦羅耶帝縛 ○入我我入 ○本尊加持印明の初呪を用ふ。 ○本尊加持 ○散念誦 佛眼 大日 本尊 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力祈願 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如し。

本次第は求福の爲に之を修す。

摩訶云云 原本は石山内供七集所載に由る。佛眼等 細字原本に朱書せり。

○水迦羅天供次第

（二）勸請 或は發
願に換ふる時は文
左の如し。本尊は
會、水迦羅天、五
百子等諸大夜乃。

（三）本尊印 是詞
利帝の愛子の印な
り。並心合掌して
二大指を以て掌中
に入る。召請の時
召ぐ。指を以て之
をば。

- 水迦羅天 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持瀧
- 水 ○加持供物 ○ま字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍
- 禮 ○表白 ○神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 ○
- 五大願 ○普供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結
- 召罪 ○摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 樓閣中に荷葉座あり、座上にま字あり、字變じて菓となる、變じて水迦羅天となる、童子の形狀と作る、左手に菓を把り右手は垂れて滿願に作り掌を外に向ふ云云眷屬圍繞せり。
- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車輪 ○請車輪 ○迎請 ○辟除 ○空
- 網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日
- 印明
- 本尊印 二手虛心合掌せよ、若し召請の時、（朱）又の本に云く、唯撒若撒你莎昂
- 八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 南無水迦羅提婆 ○入我
- 我入 ○本尊印明 前の印明 ○正念誦 呪上の ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加

此の法は毒蛇等の
爲に整ふる時修
すれば治す。

- 持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三方 ○禮佛 ○廻向 ○解界已
- 下は金剛界の如し。
- 襄瞿梨供次第
- 普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持瀧
- 供物 ○ま字觀 ○淨地 ○淨身 ○觀佛 ○驚覺 ○遍禮 ○表白
- 神分 ○五悔 ○發菩提心 ○三昧耶 ○勸請 ○五大願 ○普
- 供三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○方結 ○召罪
- 摧罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
- 壇上に雪山あり、山上に蓮花座あり、上にま字あり變じて黒蛇となる、黒蛇常瞿梨女となる、身色緑にして龍女の如し、項背に圓光あり、相好端嚴にして鹿皮を衣とせり、右の第一手に三戟刃を持し、第二手に三五莖の孔雀の尾を執る、左の第一手に一の黒蛇を把り、第二手は施無畏にす、七寶を以て瓔珞となし諸蛇を以て身を莊れり、一の毛孔より火焰を流出して降怨鳥王等、及び虎狼、師子、蛇、蜈蚣、蜈蚣の類、毒龍等兩邊に周匝せり。（朱）或る説に、七面四臂にして蛇を以て莊嚴せりと云云

(一) 本尊印 鉢印の如し、掌を仰け開き水を掬する勢の如くせよ、而して二手、水火風空の八指を曲げ屈して
 餘は二指の指相並べ
 八指の間も各開き
 葉印の勢の如くせよ、是れ師子の爪相なり、印は掌を仰け開き八指を屈するなり。
 阿奈の反余賀吠引一戌攝余賀吠引二合轉日羅、合迦引曳引、乞囉二合、入轉羅入嚙合羅、
 五摩賀引迦引里、引摩賀引嚙祇引七、濕嚙合里曳引、頗蘇九普吒羅奚、引娑嚙合賀、十呼
 發吒、莎哥十一、(二) 同く心印 右手施無畏勢の如くし、掌を外に向へて之を立て、而して五指散し
 印なり、小呪 撲娑嚙賀 (朱) 或る説に、正念誦に 此の明を用ふと。
 (三) 根本印 二手を以て相ひ傳けて掬する勢の如くし、二小指を以て相ひ並べて餘の八指各の散し開いて微し
 隨心呪 (四) 呼發吒莎哥。

- 大虚空藏
- 小金剛輪
- 送車輪
- 請車輪
- 迎請
- 辟除
- 空
- 火院
- 大三昧耶
- 闍伽
- 花座
- 四攝
- 拍掌
- 振鈴
- 大日印明

- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三方等
- 禮佛
- 入我我入
- 本尊加
- 持印明
- 正念誦
- 本尊加持
- 散念誦
- 佛母加持
- 八供
- 事供
- 讚
- 普供三方等
- 禮佛
- 廻向
- 解界已下は金剛界の如く

(二) 星 或は如の字か。

本次第は諸の毒病
 を除かん爲めに此
 の法を修す。

(一) 已下原本に五
 行空文なり。
 (二) 勸請 或は發
 願に換ふる時は文
 左の如し。金翅鳥
 王、諸龍眷屬。

毒女法に云く二臂像 右手に鏡を執り、左手には 同に云く、此の呪を説き已て、其の雪山中
 に五千の惡毒蛇あり四散し、毒蛇互に落ち頭破れて散する(三) 星云云 又た云く、此の
 常瞿利は女身を現すと雖も、實には女に非るなり、善男子、佛菩薩は智惠神通をもて能
 く衆生のために種種に現じて諸の不善を攝化し、諸の毒龍蛇をして衆生を侵害せざら
 しむ云云 又た云く、諸の惡毒虫而も伴戲となり、飢えて毒藥を食し、渴して毒漿を飲
 むと云云 又た云く、折死毒蛇氣分呪 經の密初 蛇氣蘇生呪印契真言。 經の次

- 迦樓羅天供次第
- 迦樓羅天
- 普禮
- 着座
- 塗香
- 淨三業
- 三部被甲
- 加持灑
- 水
- 加持供物
- え字觀
- 淨地
- 淨身
- 觀佛
- 驚覺
- 遍
- 禮
- 表白

- 神分
- 五悔
- 發菩提心
- 三昧耶
- 勸請
- 五大願
- 普供三方
- 四無量
- 勝心
- 大金剛輪
- 地結
- 方

結 ○召罪 ○擯罪 ○業障除 ○成菩提 ○道場觀
 樓閣中に荷葉座あり、座上に卍字あり、字變じて筆筭となる、筆筭變じて迦樓羅天となる、身肉色にして天人の如し、面は迦樓羅に似たり、二手に筆筭を持し之を吹く、又た一の繪圖あり、形ち迦陵頻鳥の如し、而も背あり横に三古杵を含ひ、左右の手に各の蛇を執り、左右の足各の蛇を踏む云云眷屬圍繞せり。

- 大虚空藏 ○小金剛輪 ○送車轂 ○請車轂 ○迎請 ○辟除 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 ○四攝 ○拍掌 ○大日印明

左(三)本尊根本印
 右空の外より
 入れ相絞て二空の
 端は八指より内の
 方に成すなり
 (三)巽莫三曼
 本に梵字あれども
 今は略す
 (三)法法一本に
 誦那迦に作る

○(三)本尊根本印 定惠の手五指を叙べて外に向へ、定の空を以て惠の空を拘し左右を鳥の羽の如くす、印を結び印之を動すこと三反、飛ぶ勢の如くせよ。(三)巽莫三曼
 茶没多南、阿鉢羅底賀多、捨薩那南、一但你也他、唵、捨句娜、摩訶捨句娜、尾且多、跋乞刃、薩縛跋曇、(三)法法、法咽法咽三摩野、摩奴薩摩羅呼、底瑟吒胃地薩但舞枳娘跋野底。又た眞言に曰く 歸命唵枳悉婆莎母 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力祈願 ○禮佛 (兼)南無金翅鳥王 ○入我我入 ○本尊加持 前の印明 正念誦 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛母加持 ○八供 ○事供 ○讚

○普供三力祈願 ○禮佛 ○廻向 ○解界已下は金剛界次第の如し。

○施餓鬼法

施餓鬼法七箇日支度 施餓鬼法七箇日支度 名香一裹。米漆斗。銅小器一口。若くは白瓷器 闕伽桶一口。杓杓。淨衣一領。色色折敷一枚。棚一脚。高さ二尺 續松七把。右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨

施餓鬼法 不食大功徳の新に之を行す、衆師云く、人定の時に之を修す、隆響云く亥の時に當る云云 ○先づ淨處を點定し地或は掃へ、一器の淨食を儲けて水を和し、東方に向へて居し、或は立ちて之を修せよ。軌軌に云く坐するも亦た作すを得 ○先づ三部被甲護身等 ○次に吉里吉里の眞言、三古印を結んで三反食を加持せよ。 ○次に淨地 替印 眞言に曰く 唵羅儒波譚多、薩縛達莫。

○次に淨土變 如來替印 (三)唵歩欠 ○次に普集餓鬼印 右手の空火相ひ捻して風を招く三反、餘の三指は微し曲めて眞言七遍を誦せよ。唵歩布哩迦哩他哩他藥多也 法界中の一切の餓鬼悉く皆な雲集すと想へ。 ○次に開咽喉印 前の印風指を招か門及び咽喉印と名 (三)唵歩布帝哩迦哩多哩他藥多也。此れを破地獄く、眞言に曰く。

(三)唵云云 原本梵字、對譯文字は無量壽軌所出に依る。

(二)南摩 原本梵字、對譯文字は施餓鬼法所載による

○次に食器を取て手に居えて偈を誦せよ。至心奉上 一器淨食 普施十方
 盡虛空界 一切餓鬼 光亡久滅 山川地主 乃至曠野 諸鬼神等 請來
 至此 受我此食 轉將供養 盡虛空界 一切三寶 一切有情 汝與有情
 依我呪食 離苦得樂 往生淨土 發菩提心 行菩薩道 晝夜恒常
 擁護於我 一切善願 皆令滿足 ○次に五大願 常の如し
 ○次に加持飲食印 右手の中指を以て中指の甲を磨れ、兩三遍、三指は之を直くす、又大指を以て頭指を捻じ、聲を作して一たび呪を誦し一たび彈指せよ、飲食を加持する施餓鬼に曰く
 (二)南摩薩婆怛他揭多、一婆盧吉帝、二唵三跋羅、三跋羅、三吽。此の呪一七遍を誦せば、一切の餓鬼各々皆な摩伽陀國の所用の斛、七々斛の食を得て、食し已て皆な天に生ずることを得、或は淨土に生じて能く行者をして業障を消除して壽命を増益せしめ、現世に福を獲ること無量無邊なり、況んや當來世をや。
 ○次に施甘露法味の眞言を誦し、施無畏の印を作り、右手を以て臂を擧て五指を展べて直く上げよ。眞言に曰く 一七遍を誦せよ。 曩莫蘇嚕頗也怛他莫多也、怛爾也他唵蘇嚕蘇嚕、鉢羅蘇嚕鉢羅蘇嚕莎訶。
 ○次に毗盧遮那一字水輪の觀を作せ、謂く左手を以て食器を執持し、右手の五指を展

(二)軌 一本に經に作る。
(三)數 一本に卷の次に作る、又た數あり。

べ開いて下に向へて食器の上に臨めよ。先づ想へ此のま字右手の心中にあり、猶し乳色の如し、變じて功德海となつて一切甘露醍醐を流出す、即ち手を引いて食器の上に臨めて此の饒字一七遍を呪して、想へ乳等字より流出す、猶ほし日月の乳海の如し、一切の鬼等皆な飽滿することを得、乏少あることなし、此れを普施一切餓鬼印と名く。眞言に曰く ナウマラサムマムダボタナウバン 曩莫三滿多沒駄南饒。
 ○次に飲食を以て淨地に寫し置け ○次に五如來の名號を稱へよ 各の三反 二手合掌せよ 南無過去寶勝如來除慳貪業福智圓滿 南無妙色身如來破醜陋形圓滿相好 南無甘露王如來灌法身心受快樂 南無廣博身如來咽喉廣大飲食受用 南無離怖畏如來恐怖悉除離餓鬼趣 稱念功德は(二)軌説の如くなり。 ○次に發菩提心眞言 ○次に授三昧耶戒眞言 ○次に光明眞言 二反 ○次に尊勝陀羅尼 ○次に唱三歸 ○次に心經 (三)數 ○次に五字文殊眞言百反 是れ口傳なり 次第にはなし ○次に廻向 願施此食 所生功德 普將廻施 一切餓鬼 法界有情 共生淨土 疾得成佛
 ○次に撥遣 先づ右の手を以て拳を作りて、大指を以て頭指を捻し、掌を仰けて彈指して聲を作せ。是れを撥遣と名く。 唵縛日羅目叉穆 ○次に行者去り了る。

奉供 施餓鬼法十五夜の事

右は 禪定仙院御息安穩にして寶壽を長遠になし奉らんとして、施餓鬼法を勤修し、種種の眞言、尊勝陀羅尼、般若心經等を念誦し、十五箇夜の間、財施を調へ法施を儲け、殊に精誠を致して供し奉り念じ奉ること件の如し。

仁平三年十月廿三日

阿闍梨法眼和尚位

理正房法眼の卷數なり。

本次第は傳流抄には眼病の祈に之を修す。

(一)生 異本に星に作る。

(三)更 受かき云へり。

○妙見供次第

○普禮

○着座

○塗香

○淨三業

○三部被甲

○加持灑水

○加持供物

○十字觀

○淨地

○淨身

○觀佛

○遍禮

○表白

敬て祕密教主三世常住の淨妙法身摩訶毗盧遮那如來、兩部界會の諸尊聖衆、殊別には本尊界會の妙見菩薩、惣じては佛眼所照の恒沙塵數の一切三寶に白して言さく 伏て惟るに妙見菩薩とは、衆星の共ふ所、群生の類る所なり、居を北辰の位に正し、象を南面の尊に垂れ、定んで倚伏して運命を主る、一四天下悉く其の恩を仰ぐ、邪寶を塞ぎて生涯を益し、七百劫より來た皆な其の賜を更す、戴眼して之を望れば光芒舊の

如く、虚心にして之を禮せば感應惟れ新たなり。

○神分

○五悔

○發菩提心

○三昧耶

○勸請

妙見菩薩慈悲尊

北斗七星諸曜宿

○五大願

○普供三方

○四無量

○勝心

○大金剛輪

○地結

○方結

○召罪

○摧罪

○業障除

○成菩提

○道場觀

樓閣中に荷葉座あり座上に卍字あり、變じて星形となる、星形變じて妙見菩薩となる、左手に蓮花を持せり、花上に北斗七星を作れ、右の手は說法印を作り五指並べ舒べて上に向へ、大母指を以て頭指の側を捻し、手掌を外に向へ、天衣瓔珞、莊璫環釧をもて其の身を莊嚴し、五色の雲の中に結跏趺坐す、眷屬圍繞せり。

○大虚空藏

○小金剛輪

○送車輅

○請車輅

○迎請

○辟除

○空

網 ○火院

○大三昧耶

○闕伽

○花座

○四攝

○拍掌

○振鈴

○大日印明

○本尊印 右手施無畏に作り大指を屈し、(三)身に向へて之を招く三度、左手を金剛拳に作りて腰に安け。 (四)唵目佉帝、屠蘇吒、阿惹密吒、烏都吒、具耆吒、波賴帝吒、耶彌、若吒烏都吒、狗羅帝吒、耆摩吒、莎母。 ○奇妙心眞言に曰く (五)唵、蘇涅里合瑟多、娑縛合賀 ○尊星主心呪 心譽僧正傳云云

(二)勸請 或は發願を以て換ふる時は文左の如し、妙見菩薩、北斗七星、諸曜宿等。

(三)取 一本に群に作る。

(三)身に向へて内に向て招ぐなり (四)唵云云 原本には梵字あれども今は略す。

(一) 又た云く云云
 上欄外に初を後
 次を前といふは
 二眞言の前後を意
 味するが。流抄に
 三印を傳流抄に
 立つま云へり。白
 衣の印なり。拳に
 して頭指を少し風
 して大指を申べて
 火を風せる側を押
 す。大頭相着けず、
 右は掌を仰げ右膝
 の上に安く。或は伊
 婆の字か。

唵、摩訶室利拽、涅吠娑婆賀。○白衣觀音印 二手内縛して二風合せ立て少き開き、 曩莫
アラタシナク 羅但曩、但羅夜野、一曩莫素摩、薩羅嚩、諾訖舍但羅、羅惹耶、者觀地波、阿路迦羅
アラシヤヤ 野、但姪他、唵弩摩底、跋怒摩底、薩賓你、佉上細、莎哥。
 (二) 又た云く 唵濕吠帝、濕吠帝、半拏羅嚩悉你、莎哥。 (三) 又た云く 唵縛路枳

多羯嚩駄摩耶羅囉呼賀。○(三)印 二手内縛して二頭指を合し圓かに風せよ。 ○葉衣眞言 左は(三)謂索印、右は施願なり。
 嚩波羅駄、捨波里呼發吒。○虚空藏印 合掌して水指を縛して風指を實形にせよ。 唵、阿伽沙、迦羅、伊
 野、二唵摩里、三迦摩里、四母梨、五娑婆賀。
 若し人福智を求めんと欲せば、當さに此の菩薩に歸依すべし、日月星宿は皆な虚空藏
 の所變なり。

○文殊印 虚心合掌して二火指を以て各の二水の甲を押し、二風風して空の端を捻せよ。 唵、引阿引入、囉呼佉左洛。○破宿曜
堅固内縛して二空 障印 を並へ立てよ。 唵、薩縛諾乞刹但羅、合二三摩曳、室哩曳、扇底迦俱嚩、娑縛合賀

○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 南無蘇涅里瑟多胃地薩但
 縛 ○入我我入 ○本尊加持 ○正念誦 ○本尊加持 ○散念誦 ○佛
 母加持 ○八供 ○事供 ○讚 ○普供三力等 ○禮佛 ○廻向 ○

解界等は金剛界次第の如くなり。

○北斗供次第

北斗供七箇日支度
 名香。沈・白檀・安息 蘇。蜜。壇一面。三尺 燈臺二本。脇机一前。半疊
 一枚。壇供米三石五斗。御明油三升五合。壇敷新布一段。蠟燭新布二丈。
 上紙三帖。闕伽桶一口。杓杓を 闕伽盤一枚。長檜一合。 (朱) 火鉢一口。阿
 闍梨。承仕一人。駝仕一人。供常の如し。淨衣白色。
 右注進すること件の如し。年 月 日 阿闍梨 某
 (壇圖あり次頁参照)

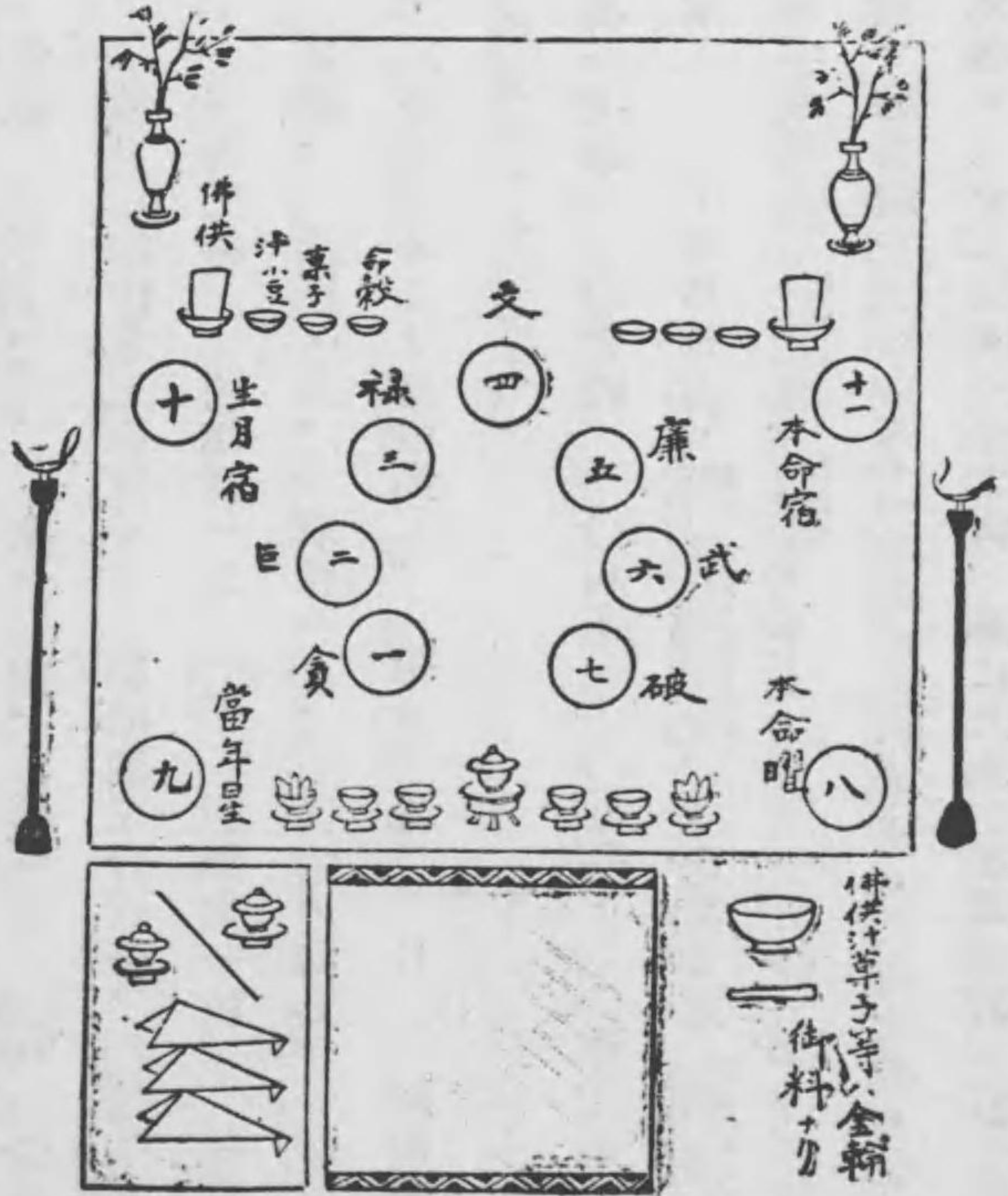
北斗次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持香

水 ○供物加持 牛手三古印、眞言に曰く、唵三波羅三波羅呼 ○施甘露 施無畏印、眞言に曰く、唵素嚩素嚩鉢羅素嚩鉢羅素嚩ソハカ
 一字水輪 右手を展べ開いて食器の上に施め、眞言に曰く歸命き ○表白

敬て祕密教主大日如來・一字金輪佛頂輪王・大聖文殊・香山仙人・北斗・七星・七曜・
 九執・二十八宿・三十六禽、殊に大施主本命星宿、當年屬星等に白して言さく 夫

(一) 壇敷云云 原本には圖下に之を書き加へたり。

(二) 福 或はいふ富の字か。



二九二
 (一) 壇敷をば曳き廻すこと常の如し、供には上にも之を敷くなり。
 蠟燭中に細き竹をサスマハマサシ新なり、雑布はモヘス皮脱布はモエテ吉し。
 蠟燭は炊き交ゆ、但し大豆・小豆を加ふ、法の如くんば五穀を加ふべきなり、黒器に之を盛る。開白の時の供物は此の如し、一二三は蠟燭の次第なり、守指尾法の圖一時三時は體に隨ふべし若し三時ならば錢蠟燭は初夜の時許りなり、後夜日中は常の如く法を行す、錢は圖位の如く十本之を立つ、或は只だ二本之を立つ、後説吉し常の事なり、命木を立て、之を懸くべし、若し命木なくんば竹枝を用ひよ、枝の末フタマタナル吉し、竹は速疾に用あれは常恒の徳あり。

れ北斗七星は善惡を司りて禍福を分つ、上み天神を曜かし、下も人間を直したまふ、所以に禮拜供養するものは長壽福貴なり、信じ敬せざる者は運命久しからず、然れば則ち誠心に信仰すれば、凶害速かに去りて福祐自ら來る、心を至して供養すれば、

死の籍を削りて還て生の籍に付けたまふ、仍ほ堪ふるに隨て銀錢仙菓花水等の供を以て敬て北斗大神・當年屬星等に奉獻す、仰ぎ願くは本誓を還念し、慈悲哀愍して所獻を納受したまへ。

- 神分 ○五悔 ○發願 至心發願 唯願大日 本尊聖者 一字金輪
- 北斗七星 諸曜宿等 已下は常の如し。
- 五大願 ○普供養 ○三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結
- 四方結 ○金剛眼 ○合掌 ○金剛縛 ○開心 ○入智 ○合智
- 招罪 ○摧罪 ○道場觀 如來拳印

心前に咒字あり、七寶莊嚴の宮殿となる、殿内の中央に莊嚴壇あり、壇の中央に兼字あり、寶蓮花となる、蓮花上に ボロン 字あり、金輪となる、金剛變じて釋迦金輪王となる、定印に住せり、定印の上に八輻の金輪を持す、瓔珞を以て莊嚴し身體に懸く、金輪王を圍繞して五十六の荷葉座あり、座上ごとに マ 字あり、變じて星形となる、星形變じて七星・九執・十二宮神・二十八宿となる、威儀形色了々分明なり、香花燈明、供養雲海道場に周普し聖衆を供養せり。七處加持す。

建久二年六月十八日 阿闍梨權律師

○本命星供次第

御星供一七箇日支度

蘇。蜜。 名香。 薰陸。安息 壇一面。長け 脇机一前。 燈臺二本。 半疊

一枚。 壇供米二石一斗。 御明油二升一合。 壇敷新布一段。 蠟燭新布二丈。

上紙三帖。 茶一束。 命木一束。 命穀一折積。 火鉢一口。 阿闍梨。

承仕。 駟仕。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 年 月 日

○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加持

○供物加持 三古印 吉里吉里縛日羅吽發吒 ○施甘露 施無畏印。唯素暗素暗鉢羅 ○一字

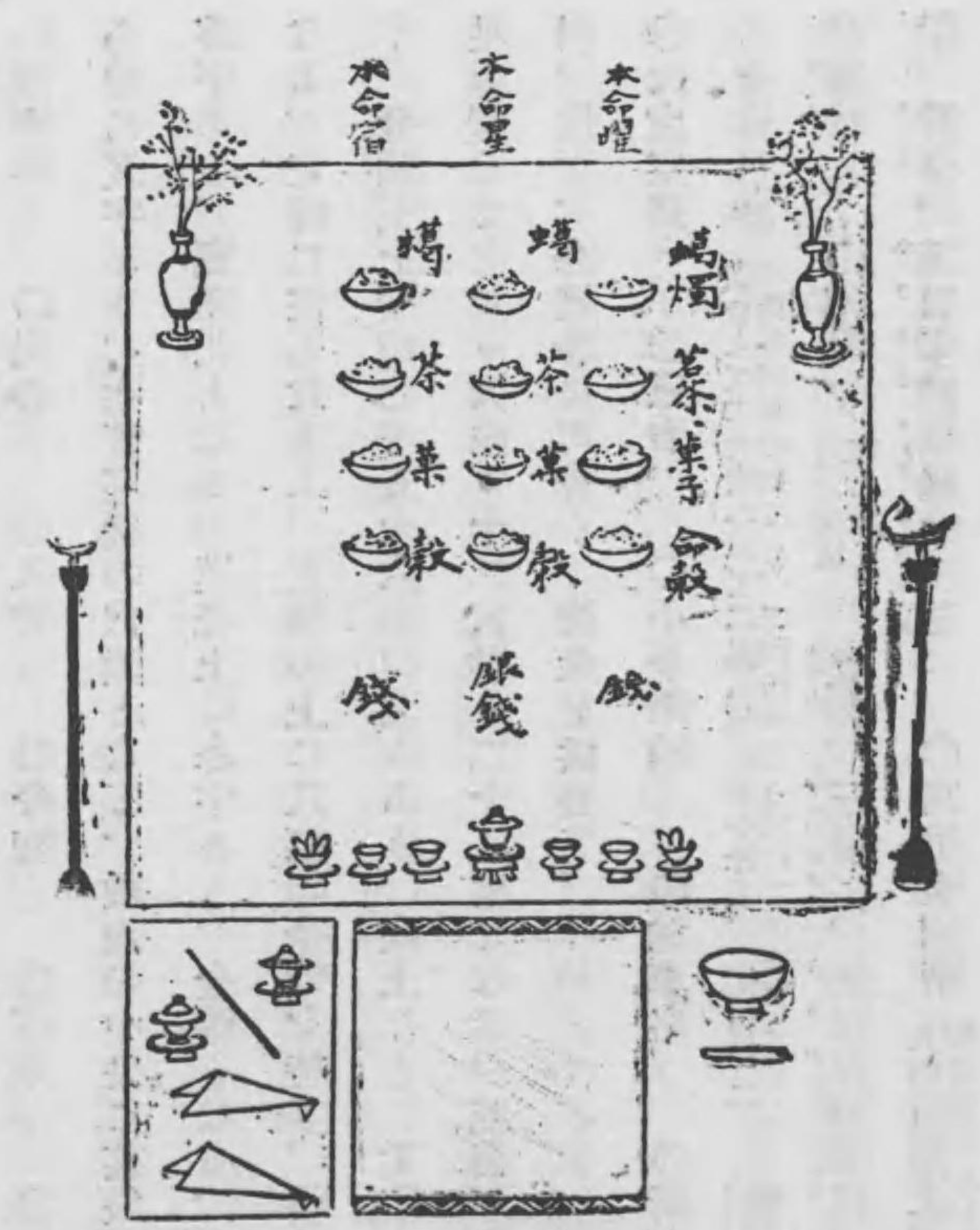
水輪 右手を展べ開いて食器の上に臨めよ。歸命を ○表白 敬て祕密教主大日如來。一字金輪。佛頂輪王。大

聖文殊。香山仙人。北斗。七星。七曜。九執。二十八宿。三十六禽。殊には大施主本命

星宿當年屬星等に白して言さく 夫れ北斗七星とは善惡を司り而して禍福を分つ、

上み天神を曬し下も人間を直したまふ、所以に禮拜し供養するものは長壽福貴なり、

三命木裏に銀の串に之を用ふ命木を串にするなり



蠟燭 炊き交ぜ、但し大豆、小豆を加ふ法、如くんば五穀を加ふべきなり、黒器に盛る。茶 黒器に盛る。菓子 穀小瓦 錢立命之を懸けよ若し命木なくんば竹枝を用ふ、枝末フタマナナル吉し、竹に速疾の用あれば常恒の徳 燈明 二燈或一燈或は常燈、或は行法の時許りも體に隨ふべきなり。別に本尊なくば北斗萬太ラに向ふべきなり、行者北に向ふべき便宜なくば、他方に向ふべきなり。本命供中に當年星、生月宮之を除くはいかん、本命の名なきが故に今は之を略す、加供せんと欲は々任意たるべき事なり。

信じ敬せざる者は運命久しからず、然れば則ち誠心に信仰すれば、凶害速かに去て福祐自ら來る、心を至して供養すれば、死の籍を削りて還た生の籍に付けたまふ、仍ほ堪ふるに隨て銀錢仙菓花水等の供を以て、本命星宿等に奉獻せよ、仰ぎ願くは本誓を

還念して納受を垂れしめたまへ。○神分 ○五悔 ○發願 ○至心發願 ○
 唯願大日 ○三種本命 ○諸宿曜等 ○五大願 ○普供養 ○三方 ○
 四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地結 ○四方結 ○金剛眼 ○合掌 ○
 金剛縛 ○開心 ○入智 ○合智 ○招罪 ○摧罪 ○道場觀如來拳
 心前に梵字あり、七寶莊嚴の宮殿となる、殿内の中央に莊嚴せる壇あり、壇の中央に
 梵字あり、寶蓮花となる、蓮花上に梵字あり、金輪となる、金輪變じて釋迦金輪王と
 なる、定印に住したまふ、定印の上に八輻の金輪を持す、瓔珞を以て莊嚴し身體に懸
 く、金輪王を圍繞して五十六の荷葉座あり、座上ごとにで字あり、變じて星形となる、
 星形變じて七星・九執・十二宮神・二十八宿となる、威儀形色了々分明なり、香花燈
 明、供養雲海道場に周普く、聖衆を供養す。
 ○大虛空藏 ○三方 ○小金剛輪 ○送車略 ○請車略
 ○金輪召請 虚合して二大指を以て二無名指の甲を捻じ、二中指、二小指を蓮葉の如くし、二頭指少しき開いて來去せよ。 曩謨三曼多、怛羅怛羅、鉢
 左羅吽 ○招北斗 前の金輪印の如し。 曩謨、三曼多、那羅曩醫醯枳、頗伊、賀伊、那伊、迦
 伊、羅伊、謨囉多羅伽羅哈莎哥 ○諸宿曜招請 大鈎召印言を用ふ、眞言の終に驛陸驛枳の句を加ふべきなり。 ○馬頭

○花座 右手頭
 指相往へは右手頭
 大指頭指相捻して
 指の端肩の方にして
 掌を仰くなり。

○五星印言 此
 相捻して二中空
 相捻して二水中火
 相捻して二水立火
 相捻して二水立火
 合すは水印 唵 風多
 合すは水印 唵 風多
 而眞の眞言といふ
 點なり。

○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○闕伽 ○花座 右手頭指相ひ註へて、荷葉の印の如くせよ。
 歸命梵 ○拍掌 聲に付て承仕燭燭に火を付けよ、承仕なき時には自 ○大日印言 ○金輪
 印言 ○北斗印言 ○五供印言 台 ○讚 四智、天龍八部 ○普供三方 ○禮
 佛 南無摩訶毗盧舍那佛 南無一字金輪佛頂輪王 南無北辰尊星王 南無北
 斗七星 南無三種本命 南無九執曜天 南無十二宮神 南無二十八宿 南
 無無量星宿 ○本尊加持 五星印言(三)サ ○正念誦 北斗百反、本命千反。 ○本尊加持 五星印言
 内縛して二風之を立つ、本命眞言 ○散念誦 佛眼、大日、頂輪王、白衣、北斗、本命星、當年星、本命曜、生月宮、本命宿、諸曜、諸宿、星息災。 ○本尊加持 眞言
 ○五供印言 ○讚 二 ○普供 ○禮佛 ○廻向 ○解界 ○撥遣 十八道の如し
 ○三部被甲 ○普禮
 供養法了て金打の後、承仕を召して錢を焼かしむ、其の間心經を讀む ○次に出堂。
 ○結願作法 後供養の時、闕伽の前佛布施 金二打して卷數 次に事由 一七
 箇日の行法結願今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓
 に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて、本座の蓮臺に還復した
 まふ、然れば則ち一念の功能無量にして早く越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にし

て、必ず自他の祈願を成せん。

抑 ○神分 ○祈願 ○禮佛 ○廻向等常の如し。

○羅喉星供次第

土星供七箇日支度

蘇。蜜。名香。薰陸。安息。 壇一面。二尺。 燈臺二本。 脇机一前。 半疊

一枚。 壇供米三石五斗。或は二石一斗 御明油三升五合。或は二升一合 壇敷新布一段。

上紙三帖。 闕伽桶一口。杓を加ふ 折敷一枚。或は火鉢一口 阿闍梨。 承仕等。 淨衣白色

右注進すること件の如し。 年 月 日

注進 羅喉星供一七箇日支度の事

蘇。蜜。名香。沈。白檀等 供米。 御燈油。 擬錢新紙二帖。 壇一面。 脇

机一脚。 燈臺二本。 壇敷布一段。 半疊一枚。 桶一口。 杓一枚。 折敷一

枚。 阿闍梨。 承仕一人。 駝仕一人。 淨衣。 白色

右注進すること件の如し。 保元二年正月九日 阿闍梨大法師寶心

(壇圖あれども之を略す。)

圖後に曰く。

星供とは本命星か當年星か、一星を供するをいふなり、多分には一時に之を行す、供物作法、佛供二坏若しは大小合して四坏、茶二坏、菓子二坏菓あらば用ふべきなり。蠟燭なくんば佛供を用ひよ、燈明は同じき事なり、燈明二燈或は一燈常燈或は夜燈、或は行法の時許りにても體に隨ふべきなり、茶とは略語なり、具さには茗茶といふべきなり、命穀錢二懸けを供すべきなり、串には竹枝を用ふ、供米は一石四斗、油は一升四合なるか。

羅喉星供次第 ○普禮 ○着座 ○塗香 ○淨三業 ○三部被甲 ○加

持香水 ○供物加持三古の印 吉里吉里縛日羅呼發吒 ○施甘露施無畏の印 唵業爾業爾鉢羅業爾鉢羅業略ソハカ ○加

○一字水輪右手を展べ開いて食器の上に臨めよ、歸命を ○表白 敬て祕密教主大日如來・一字金輪佛頂

輪王・大聖文殊・香山仙人・北斗・七星・七曜・九執・二十八宿・三十六禽、殊には大施主本

命星宿、當年の屬星等に白して言さく、 夫れ羅喉星王とは、善惡を司りて而して禍

福を分つ、上み天神をて囉し下も人間を直したまふ、所以に禮拜し供養するものは長壽

福貴なり、信じ敬せざる者は運命久しからず、然れば則ち誠心に信仰すれば、凶害速

かに去り福祐自ら来る、至心に供養すれば死の籍を削り還た生の籍に付けたまふ、仍ほ堪ふるに隨て銀鈔仙菓等の供を以て羅睺星王等に奉獻せよ、仰ぎ願くは本誓を還念して慈悲哀愍し所獻を納受したまへ。

○神分 ○五悔 ○發願 至心發願 唯願大日 羅睺星王 諸宿曜等

○五大願 ○普供養 ○三方 ○四無量 ○勝心 ○大金剛輪 ○地

結 ○四方結 ○金剛眼 ○合掌 ○金剛縛 ○開心 ○入智 ○合

智 ○招罪 ○摧罪 ○道場觀如來 心前に咒字あり、七寶莊嚴の宮殿となる、

殿内の中央に莊嚴せる壇あり、壇の中央に龕字あり、寶蓮花となる、蓮花上に孝字あり、金輪となる、金輪變じて釋迦金輪王となる、定印に住せり、定印の上に八輻の金

輪を持す、瓔珞を以て莊嚴して身體に懸けたり、金輪王を圍繞して五十六の荷葉座あり、座上ごとにで字あり、變じて星形となる、星形變じて七星・九執・十二宮神・二

十八宿となる、威儀形色了了分明なり、香花燈明、供養雲海、道場に周普し聖衆を供養す。

○大虚空藏 ○三方 ○小金剛輪 ○送車輅 ○請車輅

○金輪召請 虚合して二大指を以て二無名指の甲を捻し二中指・二小指蓮葉の如くし、二頭指少しき開いて來去せよ。 曇莫三曼多、但羅但羅、鉢

左羅吽 ○招北斗 先の金輪印 曇莫、三曼多、那羅曇、翳醯枳、頗伊、賀伊、那伊、

迦伊、羅伊、謨羅多羅、伽羅含、娑縛賀。 ○諸宿曜招請 大鈞召印言を用ふ、眞言の終に翳醯枳の句を加ふべきなり。

○次に馬頭 ○空網 ○火院 ○大三昧耶 ○閼伽 ○花座 右手頭指相ひ註へ堅合して二空

歸命疾 ○拍掌 ○大日印言 ○金輪印言 ○北斗印言 ○羅睺星印言

佛 南無一字金 ○佛頂輪王 南無北辰尊星王 南無北斗七星 南無羅睺星王

持 北斗 當年星の二種に之を用ふべし。 南無九執曜天 南無十二宮神 南無二十八宿 南無無量星王 ○本尊加

○正念誦 本尊千反 ○本尊加持 前の印言 ○散念誦 ○五供印言 ○讚 ○普供

○禮佛 ○廻向 ○解界 ○撥遣 十八道の如し ○三部被甲 ○普禮 ○出堂

供養法了て金打の後、承仕を召して錢を焼かしむ、其の間心經を讀むなり。

○結願作法 行法は常の如し、但し神分祈願ヲセズシテ五悔以下常の如し、後供養

(二) 羅睺星印言
凡そ星供の本尊加
持に九曜各々の印
之れありと雖、通
じて金剛合掌を用
ゆ、是れ口傳なり。

の時佛布施 金二打して卷数を讀む。

一七箇日の行法結願今にあり、日來の間道場に降臨したまふ所の諸尊聖衆、各の慈悲本誓に任せて内外の供養を納受し、現當の悉地を圓滿ならしめて、本座の蓮臺に還復したまふ、然れば則ち一念の功能無量にして、越法の罪障を滅し、諸尊の慈悲甚深にして、必ず自他の所願を成せん。

抑 ○神分 ○祈願 ○禮佛 ○廻向等常の如し。

○御星供所 ○奉修 供養法二七箇度 ○奉讀 般若心經四十二卷 ○奉念

佛眼真言一千四百遍 大日真言一千四百遍 白衣真言一千四百遍 羅喉星

真言一萬四千遍 土曜真言一萬四千遍 星息災真言一千遍 如來慈護真言一千

遍

右は 禪定大王の法體安穩にして惠命長遠になし奉らんとして、今月六日より始め今日迄るまで并て二七箇日間、殊に精誠を致して修し奉ること件の如し。

建久四年正月二十日

阿闍梨法眼

○或る人の卷數此の如し、御卷數を求め出す間、載する所なり。

○或る人註に云く行姿なりと。

編者曰く、右小卷七卷は、東京音羽護國寺の原本に由り凡て知脱師の頭注り水授受記に由れり

此の抄は眞光院大僧正の作とす、末抄に許受記あり

國譯傳流抄第一 佛部

阿闍 實生。阿彌陀。釋迦。藥師。佛眼。駄都。

○阿闍 ○種子 𑖀 ○三昧耶形 五鈷 ○梵號 惡乞菟毗耶薩但他藥多澤。

○密號 不動金剛 ○勸請 大圓鏡智阿闍尊 金剛部中諸眷屬加句 ○發願

阿闍如來 金剛部中 諸大眷屬加句

○道場觀 境中に八葉の蓮花あり、蓮花上に𑖀字あり變じて白象となる、象上に𑖀字あり變じて淨月輪となる、月輪中に𑖀字あり八葉の蓮花となる、花臺に𑖀字あり變じて五鈷金剛杵となる、杵變じて阿闍佛となる、觸地の印に住して身不動なることを得、頂より青色光を放ちて諸魔を摧伏す、乃至四親近の菩薩及び金剛部の諸尊、各々本標幟を持して前後に於て圍繞せり。

○本尊根本の印 右の羽開き垂れて地に觸れよ(朱)左拳を腰に安せよ。 唵惡乞菟毗耶吽。

又た獨古の印 外縛して二中指を立て合せよ。(朱)唵縛曰羅枳惹南吽。

○禮佛 南無阿闍如來(朱)三反 ○正念誦(朱)初言 ○散念誦佛眼、大日(朱)白、本尊(朱)第一に言く或は

○唵縛曰羅云々三摩耶會の阿闍佛なり。

(一) 御加持呪
古は御修法の間
日玉杯を加持す
を御加持云ふ
(二) 自加持印
羯磨會の阿闍梨
明なり、諸尊の
加持此の通りなる
べきなり。

四親近の菩薩、
降三世、一字
○伴僧呪 ○御加持呪

○護摩段 鼻炎 ○火天段 ○本尊段(三) 自加持印明。二手外縛して二中指立て合 招請印
明。大鈎召の印 惡乞芻毗耶吽曳薩曳阿囉吽囉刹莎賀 供物加持物呪 惡乞芻毗耶 撥遣印明 招請に同じ但し精
車の句を 加ふ。 ○諸尊段 ○後火天段 ○世天段 句を改めて藥車藥

○寶生 ○種子 𑖀 ○三昧耶形 如意寶珠 ○梵號 囉但曇三婆縛薩他他藥
多。 ○密號 平等金剛 ○勸請 平等性智寶生尊 寶部內證諸眷屬 ○發願
寶生如來、寶部內證、諸大眷屬

○道場觀 壇の中に對字あり、馬座となる、座上に對字あり、滿月輪となる、月輪中
に對字あり八葉の蓮花となる、蓮花臺に𑖀字あり變じて如意寶珠となる、如意寶珠變
じて寶生如來となる、頂より金色の光を放ち、如意寶珠を雨らして悉く一切衆生をし
て所求を満足せしむ、及び四親近の菩薩、寶部の諸尊恭敬し圍繞せり。

○本尊根本の印 右羽施願 (朱)左拳を腰 唵囉但曇三婆縛薩他他藥
火寶形に作る。 唵縛曰羅枳遮曇但洛 囉囉但曇三婆縛薩他他藥 ○又の印 外縛して
火寶形に作る。 唵縛曰羅枳遮曇但洛 ○禮佛 南無寶生如來 ○正念誦 (朱)初言

(一) 軍荼利 南方
寶部の數令輪の故
に之を用ゆ
(二) 招請撥遣
の自加持印明を用
ふ、二頭にて招撥
す。

○散念誦 佛眼、大日、本尊(朱)第一言、 ○伴僧呪 ○御加持呪

○護摩段 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。外縛して火寶形に作る四處 (三) 招請撥遣印明。
前に同じ但し進力を以て風して鈎召の如く、供物加持物呪。上の (三) 招請撥遣印明。
す、明は前に同じ、但し加句等は常の如し。 ○諸尊段 ○後火天段 ○世天段

○阿彌陀 ○種子 𑖀 ○三昧耶形 (朱)八葉 紅蓮花 獨古を莖 (朱)又た説く五結を以て
五結の上 〇梵號 阿哩耶弭踰婆耶薩他他藥澤 莖となす。 莖となし之を以て横

又た壽命金剛 ○勸請 本尊界會彌陀尊 觀音勢至諸薩埵 ○發願 本尊界會
彌陀善逝 觀音勢至 諸大薩埵

○道場觀 面前に於て安樂世界を觀せよ、瑠璃を以て地となす、中に八功德水あり、
其の海中に於て對字を觀せよ、大光明を放ち色紅頗梨の如し、遍ねく十方世界を照せ
り、其の中の有情此の光に遇ふ者は、悉く罪障消滅せずといふことなし、是の字變じ
て微妙の開敷紅蓮花となる、獨結を以て莖となす、即ち其の花變じて無量壽如來とな
る、(三) 左寶蓮花上滿月輪中に處す、首に五智寶冠を着し奢摩他の印に住せり、身は紅
頗梨色にして結跏趺坐したまへり、頂上より無量の光明を放ちて恒沙の世界を照す、

(三) 左 一本在の
字。

蓮花部心印
金剛界次第の如く
内縛して右の指
にて之を招ぐ。

二合云云此
の細註冊帖本に
し。注の文にい
ふ、無量壽軌に
出づ、根本陀羅
尼に載せて十
別に之を載せて
甘露眞言と名
さす。三十帖注
の文に。梵本
金剛界軌に出づ。
五。觀音印眞言
梵本一字頂輪王
軌に出づ。但し
婆嚩訶賀

乃至觀音勢至等の諸大菩薩及び蓮花部の聖衆、前後に圍繞せり云

○迎請 (二)蓮花部心印明、請句を加へよ。 ○辟除 馬頭印明 ○本尊根本印 二中指を外縛して蓮葉

の形にす。大呪 或は妙觀察智の印を用ふ。 曩謨 羅怛曇合但羅合夜引耶娜莫阿引去哩野合蘇路引婆去耶二

但他去引菓路引夜引囉喝合帝、三去藐三沒駄引耶三但你也二他引唵阿密唵合帝五阿密唵合妬引

納婆吠合反引六阿密唵合多三去婆吠合上準阿密唵合多葉陸阿密唵合多悉第九、阿密唵合

多帝際反、自曳の阿密唵合多尾訖磻合反引帝十一、阿密唵合多尾訖磻合二合、前引多、誦引

弭寧十二、阿密唵合多誦誦曩、吉引底丁以反迦餘五阿密唵合多嬭上督妃の反女娑縛合餘四薩縛

囉他合婆引駄寧五薩縛羯摩訖禮二合捨乞灑孕迦餘引沙縛合賀十六

○又た言く、唵縛曰羅達摩訶里 ○又た言く、唵阿密唵合多、帝際賀羅呼引儀軌或本

已上三明一印 ○定印 (三)唵盧計濕嚩合羅引囉惹訖哩 彼の軌並に金剛界軌に出づ、

に作る、訖の字 ○次に觀音印 内縛して右の指を立てよ、唵阿去囉引力迦音呼娑縛二合

賀引。 ○次に勢至印 虛心合掌して二中指微しく開け。唵、三髻索、娑婆二賀引

○讚 先づ四智 那暮林多婆也、那暮彌陀庚曬、那莫振底也、愚擊迦維但摩寧那暮彌陀

婆也逾那也位謀尼蘇佉縛底蠅也彌陀縛奴檢波也、蘇佉縛底蠅、迦那迦尾質但羅迦那南

摩奴羅給蘇菓多蘇帶羅稜訖哩耽、多縛室羅那答鉢羅體多、愚擊寫地摩多、鉢羅耶弭耽
莫護愚擊羅但曇、珊者鬘。

○禮佛 南無阿里耶、彌陀婆耶 三反 ○正念誦 小呪 ○散念誦 佛眼、大日、本尊(大呪

一字) ○伴僧呪 大呪 ○御加持呪 大呪 (朱)七反計リ

○護摩 敬愛 ○火天段 常の ○本尊段 自加持。根本印、招撥 蓮花部心

印明 右の指を以て 或は八葉印 頭指を以て 眞言に曰く 髻三索娑婆合賀 ○供

物 心眞言 ○諸尊段 ○後火天段 ○世天段

○釋迦 ○種子 不 ○三昧耶形 鉢 ○梵號 奢迦菩提 ○密號 寂靜

金剛 ○勸請 本尊界會釋迦尊 三十七尊諸聖衆 ○發願 釋迦如來 十方

分身 諸佛善逝

○道場觀 樓閣中に妙座あり、四方正等なり、其の上に月輪あり、輪上に白蓮花臺あり、臺上に不字あり、字變じて大鉢となる、鉢變じて本尊となる、金色の身なり、四八の相を具し袈裟を被服し應身説法の相なり、右手吉祥の印 掌を開いて水盃相ひ檢し、

左手向上へ臍前に置く掌を開いて之を仰ぐなり。無量の眷屬圍繞し恭敬せり、寶處三昧に入るに眷屬同じく入り、乃至天等みな是れ如來所化の身なり。

(二)冠註に、説所詳ならず成就の抄に仍て之を書くといふ。
(三)左云云 側註に左右の指は梵印の如し。

○本尊印 智吉祥印 (朱)後僧正之を用ふ。定惠各の舒へ五輪空火相ひ捻し(二)左心前に仰け右、左を覆ふ、上相ひ着くる勿れ。曩莫穆曼多沒駄南、婆薩囉吃里捨濕素娜曩薩囉達麼、嚩始多、鉢羅鉢多誦講曩、三摩三摩、娑囉賀 (朱)軌並に次第の中にあり。

○禮佛 南無釋迦牟尼佛 三反 ○正念誦 小呪、歸命。 ○散念誦 佛眼、大日、本尊(朱)大

一字 ○伴僧呪 ○御加持呪

○護摩 息災或は増益 ○火天段 ○本尊段 招撥。 智吉祥印明、右の頭指を以て之を招撥せよ。 供物。 小呪

○諸尊段 ○後火天段 ○世天段

○藥師 ○種子 鞞 (朱)或は或 ○三昧耶形 藥壺 十二角瓊瑤壺或は五結或は三結或は佛頂中に十二の妙藥あり。

○梵號 佩殺紫野、嚩嚩吠哩也 ○密號 之を尋ねべし、或は不動金剛 ○勸請 十二(三)上願薄伽梵 日光月光諸眷屬 ○發願 本尊界會 藥師如來 日光月光 諸大眷屬

(三)上 淨にも作る。

○道場觀 成就院抄少々用捨を加ふ。 觀想せよ心前に梵字あり、變じて淨瑠璃世界となる、其の上に

大宮殿あり、七寶を以て莊嚴せり、其の中に大曼荼羅壇あり、壇中に梵字あり變じて月輪となる、輪中に訖里字あり變じて八葉の蓮花となる、花臺に鞞字あり變じて藥壺となる、藥壺變じて藥師如來となる、光明映徹相好圓滿せり、殊に十二大願を發して濁世の衆生を化度す、日光月光諸大菩薩、及び十二神將七千の夜叉と與に前後に圍繞せり。

○本尊印 左手を以て開いて臍下に置き、右手を以て上に重ね二大指の頭相合す (朱)法界 祕傳に云く、法界定印の上に藥壺あり、壺内に十二大願妙藥あり、十二光を放ちて施主の身を照すに、此の光に遇ふ者は除病延命す、大呪讀むこと十二反、カズハ

右手四指ニテ三度トレバ十二反なり。

曩謨婆誑縛帝佩殺紫野嚩嚩吠哩女里也、鉢羅婆、羅惹野怛他葉多野羅喝帝、三藐三沒駄野、怛你也他、唵佩殺余曳佩殺余曳佩殺紫野三沒藥帝娑婆賀。 小呪(朱)大呪與テ小呪爲す。 唵鞞殺逝鞞殺逝鞞殺柱三沒揭帝、莎昂。 師説、除病を爲す者には眞言末に有るの句を加ふ。

又印 已上印明大師の御傳云云 内縛して兩腕相去り二大並べて二風を押す大呪七反ヨムテ二大アケテ開口の如くす。

此の十二箇の壺ヨリ十二光を放ちて十二大願の妙薬を流出す、施主に與ふれば内外の疾病を除き身心安樂なり、七反ヨム事ハ第七願、衆病悉く之を除く故なり。

眞言。上の 又印明 (朱)前印

於て右、左を押し、兩腕相去ること五寸許り集經五寸消突軌に云く二三寸 二大指を以て來去せよ。

師説頂上に印を散す。唵一呼嘘呼嘘二、戰駄利、三、摩拏祇四、莎哥五。藥師瑠璃光佛大陀羅

尼印は上に(朱)内縛して二大那謨囉怛那合路羅二夜耶一那謨金毗羅二和耆羅、三彌佉羅四、

安陀羅五、摩尼羅、六素藍羅七、因達羅八、婆耶羅九、摩休羅十、真持羅一照頭羅二毗伽

羅三那謨毗舍闍、瞿留十、鉢羅頗、羅闍音耶、六跢姪他、七唵毗舍是、毗舍是

八毗舍闍九、娑摩揭帝十莎哥。已上本尊印言。

○日光菩薩印 (朱)三昧耶會金剛光印 二風二空頭柱へ圓かに合し、餘の六指散し舒べて旋轉

す。唵嚕褒徐庾多莎哥。

○月光菩薩印 右の手空風相捻して持花の勢の如くし、餘の三指立て、少し開いて

外に向へ上に擧ぐ、左は拳に作して腰に安せよ。又た云く 右手拳に作り腰に置き、

左手の大指水指相捻して花を執る如くし、臂を豎て外に向へ、想へ掌中に伏兔ありと。

歸命、戰拏羅、鉢羅婆野、縛、莎哥。

又た説く 日光月光、日天・月天ノ種子三昧耶、印・言之を用ふべし。

日天。種子 亥 三形 日輪 印明。鉢印を作り、大を以て各々水本を取れ。

唵阿你底也娑婆賀。

月天。種子 亥 三形月輪 印明。左手半蓮花に作り肩より高くせよ、但し中

に月ありと想へ。或は説く、右拳腰を押し左掌外に向へ空を立て火判合せよ。唵、

戰捺ラ也、ソハカ。

○十二神將惣印 右手拳に作り人指を屈して鈎の如くせよ。唵、俱毗羅、莎哥(朱)

私に云く諸 藥又印明 或は説く 本願經、十二神、名號一一の上に唵を加へ、下に莎哥を加へて

十二神將の各別の呪と爲すと。又た説く 前の大陀羅尼を用ふと。

○讚 ○先づ四智讚 如し ○次に本尊讚 歸命滿月界 淨妙瑠璃尊 法藥

救人天 因中十二願 慈悲弘誓度 願度諸含生 我今由讚揚 志心頭面禮

○禮佛 南無藥師如來 三反 ○正念誦 小呪 ○散念誦 佛眼、大日、本尊三、日光、月

降三世、十 二神、一字 ○伴僧呪 大呪 ○御加持呪 同(朱)或は十二 神將呪

國譯傳流抄第一

〇〇護摩 息災 (朱)諸師支度皆な増益 増益なり。 〇火天段 常の如し 〇本尊段 自加持印明。 佛部心印の如し、大指三度來去せ
 心呪 招請撥遣印明。 同前 供物加持物呪 心呪を 〇諸尊段 三十七尊に二菩薩を加ふ 例するに大小の杓供して小杓を以て三度二菩薩に之を供せよ、別言之を用ひよ。 〇日 〇月 日光阿你底耶ハラハヤソハカ。 月光戰荼羅ハラハヤソハカ。 〇後火天段 有が説く 〇世天段 不動曜宿等供し了て、十二神將に加へ供せよ。 小杓を以て之に供せよ、眞言は上の如し。

小卷全同なり。

〇〇佛眼 心・柳・昂・牛・の直日、一日の中に於て食はずして誦すること一千八百遍に滿てば、所有の心願時に應じて便ち遂げ大悉地を獲ん。 (朱)是れ瑜祇經説の取意
 或は云く若し餘尊の眞言を持して成就せずば、當さに此の尊像の前に於て此の眞言を加へて之を持誦せば、必ず成就することを得ん。

- 〇種字 〇三昧耶形 佛頂眼 〇梵號 沒駄路引左寧 〇密號 殊勝金剛 〇勸請 金剛吉祥佛眼尊 (朱)母師説 八大菩薩諸聖衆、或は三層蓮臺諸聖衆 〇發願 本尊聖者 金剛吉祥 佛眼佛母 諸大眷屬
- 〇道場觀 七寶宮殿の中に大曼荼羅壇あり、壇中に龕字あり三層八葉の蓮花となる、

(二) 護謨等 梵本瑜祇經に出づ但し此字なし仁海嚴覺本之に同じ常途の覺本には之あり。

(三) 熾盛光軌に出づ。

花臺に列字あり淨月輪となる、月輪中に六字 或は或あり 變じて佛頂眼 或は(朱)佛頂眼變じて佛眼佛母となる、 大白蓮花に住す、身は白月暉の如くにして兩目徹咲せり、二手臍に住して奢摩他に入るが如し、一切支分より疑議沙佛を出生す、一一の佛みな禮敬したてまつる、本所出世する當前、蓮花の上に一切佛頂輪王あり、定印を結び八輻の金輪を持す次に右旋して七曜使者あり、第二の花院頂輪王の前に金剛薩埵あり、次第に右に旋て八大菩薩あり、第三院右に旋て八大明王あり、輪壇の四隅に内の四供養あり、外院の四方に四攝あり、四隅に外四供養等あり、皆な師子冠を戴き各々本標幟を執れり。 (朱)成就院抄
 〇本尊印 二手虛心合掌して二頭指屈して二中指の上節に附け、眼咲形の如くす、二空各忍願中節の文を捻し、亦眼咲形の如くす、二小指復た徹しき開いて亦眼咲形の如くす、是を根本大印と名く。 (二) 護謨引 婆譚縛觀、鄔瑟泥灑、唵嚕嚕、塞怖嚕入縛二攝底瑟吒悉駄路者寧薩囉喇他、薩引駄備曳、娑婆賀。 (註)瑜祇經に出づ、根本明王に名く。 又の印合掌して二頭指を背き入れ、二大を立て之を押す、心眞言 (朱)金剛合して頭指を屈し甲を合側を 唵引沒駄路引左寧娑囉合賀。 〇金剛印 内縛して二中立て合せ釵形の如くし、二風を屈して二中指の上節を捻し、二大並べ立てよ。 歸命勃嚕吽

(一) 對譯文字は胎藏梵本軌に出づる諸儀眞言に依る。(二) 胎音龍軌通智院終りに出づ。

(三) 金剛部 常の體身法の中。(四) 歸命云云 凡そ眞言の首に歸命とあるは忿怒尊の明に用ふる南無三曼多縛曰羅の句なり。

(五) 眞言集には尾野とあり。(六) 眞言集に余とあり。

○七曜惣印 入佛三昧耶 (朱)此の印或は八大明王次第之を用ふ。 虛合し二大指之を立つ (朱)虛心合掌して二空相並べ離れ立てよ

歸命藥囉合醜、濕縛合哩也合鉢羅合鉢多合殞底羅摩野、娑嚩合賀。

○八大菩薩 金剛合掌 (朱)白二卷次第上に云く、大安樂不空印言なり謂く諸菩薩眞言なり。 歸命一迦薩囉他二尾摩底尼枳囉傳達羅麼合駄賭濕入佐多五三三訶六ッハ合賀引。

○八大明王 持地印、(三)金剛部の印の如し (朱)同次第上に云く、一切金剛(四)忿歸命吽吽吽吽吽吽三三ッワカ。

○或は又た各別の印明を用ふ (朱)攝一切佛頂輪王經の如し

○七曜 皆普印 日曜。 唵、阿彌底耶娑婆訶 月曜。 唵、戰捺羅耶、莎訶 火曜。 唵、摩利曳莎訶 水曜。 唵、母駄、曇乞殺怛羅、娑縛弭曇契弩摩莎哥 木曜。 唵、印那羅野、莎哥 金曜。 唵、吠尾、毗莎哥 土曜。 唵、贊、日 利曳莎哥。

○八大菩薩各別印 金剛手印。 左手金剛慢印を作り腰に安し右手五智杵を抽擲す (朱)左拳腰側に安し 右杵杵を抽擲す 曇謨三曼多沒駄南引、吽引 觀自在菩薩印。 左右の手金剛拳にして右拳の小指を以て左拳の小指より始め、大母指に迄るまで一一解き終れ。 又た

(一) 着 一本に置に作る。(二) 羊石 羯磨(三) 摧一切云云 大中無名は拳なり餘の二は牙の如し

(四) 步擲 常の結界の大三昧耶印内三點印なり

(五) 對譯文字は佛母曼荼羅集珍和尙と共に所載による

八葉印。 歸命紇里 二合 引入 虛空藏菩薩印。 二羽外縛して進力を反屈し猶し實形の如くせよ。 歸命怛覽 金剛拳菩薩印。 左右の手金剛拳にして、右拳を以て左拳上に覆せよ。 歸命、惡 文殊師利菩薩印。 二羽外縛して忍願立て合せ上節を屈して劔勢の如くせよ。 又た梵篋印。 歸命、菴。 纒發意轉法輪菩薩印 左右の手金剛拳に作り、兩拳の頭指相ひ鈎し合せよ、即ち輪壇の印なり。 又た小金剛輪印 歸命吽 虛空庫菩薩印 右拳を仰げ心前に(一)着け(二)羊石金剛杵を持すと想へ、定羽拳に作り腰の左に安せよ。 歸命唵 (三)摧一切魔菩薩印 二羽を用ひて檀惠進力等、口の兩傍に度し置き牙の如くせよ (朱)金剛界羯磨會 金剛夜叉の印なり 又た普賢三摩耶印 (朱)二手外縛して二中指直く立て合す 歸命郝。

○八大明王 步擲明王印。 前三昧金剛杵契を以て心に印せよ。 唵、紇哩併合矩嚕併合勃嚕併合索嚕併合惹嚕併合慮。 又たの印 掌を虚にして二頭を掌に入れ二大を以て之を押せよ。 降三世明王印。 二羽臂を交へ金剛拳にし檀惠相ひ鈎し進力を堅つ是れなり。 (五)唵遜婆徐、遜婆吽、嚩日羅、吽發吒。

利金剛體 ○發願 本尊界會 金輪佛頂 金剛堅固 如來舍利

○道場觀 壇上に衆字あり大寶蓮花となる、其の上に衆字あり變じて舍利となる、

舍利變じて金輪佛頂となる、智拳印に住して相好莊嚴せり、七處を加持すること常の

如し。印 智拳印四處を經に曰く、我れ滅度の後 諸の舍利を分布し 諸の相

好を隱顯し 轉成して此の呪とならん。○正念誦 上に同じ ○散念誦 佛眼、大日、本尊、釋迦、菩提

天、四 ○禮佛 南無金輪佛頂 三反 南無如來舍利 一反 ○護摩 (朱)息災又た

増益 ○又の傳 ○種子 不 ○三昧耶形 舍利 ○勸請 ○發願 ○道場觀

衆字變じて八葉の蓮花となる、上に梵字あり月輪となる、其の中に不字あり舍利とな

る、舍利變じて釋迦牟尼如來となる、智吉祥印に住せり、釋迦如來變じて大日如來と

なる。○印明 五古印 五字明。智拳印 唵縛曰羅駄都銀。無所不至印等 内縛

して二風寶形にす。唵沒多舍利羅(二)す羅怛那唵。 ○禮佛 ○正念誦 唵沒多舍利羅す羅怛那唵 ○散念誦。

(二)或説にはすの二字なし。

國譯傳流抄第一終

國譯傳流抄第二 佛頂

大佛頂。 金輪。 尊勝。 光明真言後七日 付加持香水十 八日觀音供 晦日御念誦

○大佛頂 (朱)攝一切佛頂輪王法 ○種子 悉 悉 (朱)秘説 ○三昧耶形 輪 (朱)八幅或

○梵號 摩訶勃駄烏瑟尼濕 ○密號 ○勸請 金輪佛頂轉輪王 八大佛頂諸轉輪

或は云く 一字金輪轉輪王 三十七尊諸聖衆 ○發願 本尊聖者 一字金輪 兩

部界會。

○道場觀 壇上に衆字あり法界に遍くして大蓮花王となる、王上に梵字あり七寶の大

殿となる、殿中に七師子座あり、其の上に白蓮花あり、其の上に梵 或はま あり變じて

金輪となる、輪變じて攝佛頂輪王となる、身紫金色にして定印に住す、印上に八幅の

金剛輪を安す、右に佛身を旋て光聚佛頂、發生佛頂、白傘蓋佛頂、勝佛頂、除障佛頂、

黃色佛頂、寂勝佛頂、無量音聲佛頂あり、此の外七寶圍繞し、八恒河沙俱胝の諸佛如

來圍繞したまへり。

合掌なり。 又の印 金剛

南無云云 或
梵號
字の處に五字常の一
ふは、眞言の呪は
本尊の眞言の中は
在り故に此にては
五字の之れを多
誦す之れを喜多
御室の傳なり、
は又此の呪を常用
く一字の呪を用ふ
る流もあり

○勝身印 (朱)軌に云く、當さに知るべし印相の義、大指を結跏なし中頭は佛身を像る。名小 堅固金剛
合掌して即ち中指を並べ立て、由は青蓮葉の如くし、頭指を屈して各々中指の背上節
に安し、心・額・喉・頂を印せよ 軌の金剛合掌師は 説指を及べず。 眞言に曰く 唵歩欠 (二)又の印 二手
虛心合掌して十指相交へ其の掌を虚ならしめよ。眞言に曰く 歸命唵吒嚩滿馱莎呵
五佛頂經第三に云く、此の一切辦事眞言は佛頂數中に於て、此は是れ一切佛頂心、
一切事業處に於て當さに修行に用ふべき者、此を以て護身すべし。文

○禮佛 (三)南無一字金輪 三反 南無諸大轉輪 (朱)一反 ○正念誦 一字 ○散念誦 佛眼、大日、
(朱)金 本尊、 八字、三、 五字、 ○伴僧呪 伴僧自ら振鈴して後、主後鈴本尊眞言一字 金を打たす、本尊眞言は歸命の句なし。 ○御加持呪 一字呪
○護摩 息災若は 増益 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 智拳印 永 召撥印明。 自加持に同じ但 し印を以て三た
が招撥 供物呪 前に 同じ ○諸尊段 三十七尊了て佛眼尊に供す。 ○後火天段 火天を略
し七曜に供す。 ○世天段 常の如

○尊勝 ○種子 訶唵 ○三昧耶形 金剛鉤 蓮花上に鉤を 安くなり。 ○梵號 怛他誦多尾枳囉拏
烏瑟尼灑 ○密號 除魔金剛 ○勸請 尊勝佛頂大轉輪 八大佛頂諸轉輪 ○發願

本尊界會 尊勝佛頂 八大佛頂 兩部界會。

○道場觀 觀想せよ五大所成の宮殿中に大圓明月輪あり、三胎を以て界道と爲し、
寶瓶を以て分齊となす、其の中央大蓮花臺上にま字あり法界率堵婆となる、率堵婆變
じて大日如來となる、五智の寶冠を戴き輪盤法身を嚴る、身は法界の印に住して結跏
趺坐し淨月輪七師子の座に處せり、左圓明中にま字あり白傘蓋佛頂となる、右圓明中
に(微)字あり寂勝佛頂となる、中圓明前に訶唵字あり變じて金剛鉤となる 蓮花上に鉤を 安くなり
じて尊勝佛頂となる、首に五佛の冠を戴き手に金剛鉤を執り、項背に圓光あり、遍身
車輪の如くにして暉曜赫奕として三摩地に住せり、中後圓明中に怛嚩字あり變じて放
光佛頂となる、尊勝の左圓明中に(宮)字あり勝佛頂となる、尊勝の右圓明中に吒嚩字
あり廣生佛頂となる、光聚の右圓明中に(咩)字あり無邊聲佛頂となる、光聚の左圓明中
に輪嚩字あり發生佛頂となる、下左邊半月輪中に(咩)字あり降三世となる、右邊三角
光中に(憾)字あり不動尊となる、前に香爐像あり、上に寶蓋あり、兩邊に六箇の飛天あ
り各々香花を執る。 (朱)蓮ヲ (朱)成就院抄
○振鈴の次に 大日印明 常の如 ○次に白傘蓋佛頂 惠拳の風定を立て覆せて蓋と

(一)梵軌に即瑟尼
麗已下なし已下の
明之に准せよ。

(三)施一本に施
賜に作る。

(三)不動 両手各
不動印を結して
相對す。

せよ (朱)右の頭指を左の 藍、悉但多鉢但羅合即瑟尼合灑娑囉合賀引 ○次に勝佛頂 刀印
二手虚心合掌して二頭指中節を屈し端を合せ相ひ柱へ、二大指を並べ立て、二頭指
の側を押す。 歸命、苦惹慾、即瑟尼合娑囉合賀。

○次に寂勝佛頂 轉法 二手五指を舒べて背を合せ、二頭、二中、二無名、二少各、
之を紐合せ、左の大指を以て右の掌内に置き、右の大指を興して端を合す。 歸命、施、
尾惹慾、即瑟尼合灑娑囉合賀引 ○次に除業佛頂 内縛して惠風之を鈎せよ 歸命、訶
利合尾枳囉拏半祖烏瑟尼合灑娑囉合賀引 ○次に火聚佛頂 内三古 歸命、但陵合帝儒囉
施、即瑟尼合灑、娑縛合賀引 ○次に廣生佛頂 内五古 歸命、吒嚕合、即瑟尼合灑、娑
囉合賀 ○次に發生佛頂 八葉印 歸命、輸嚕合即瑟尼合灑、娑縛合賀引 ○次に無量

音聲佛頂 商佳印 二手虚心合掌して二大指を並べ立て二中指の中節の文を押し、二頭指
を屈して二大指の背に覆せ之に相ひ纏へ。 歸命、吽、惹慾、即瑟尼合灑、娑囉合賀。 ○
次に(三)不動 刀印 唵阿左羅羯拏戰拏娑駄耶吽發吒。 ○次に降三世 二手拳に作り

て背合せ二小指を相ひ懸け二頭指を開き立て、左右各三たび轉せよ。 唵遜婆你
遜婆吽縛曰羅吽發吒。

(一)寶 一本空に
作る。
(三)二手合掌 虛
心合掌なり。

(三)歸命云云 眞
言は胎音龍軌に出
づ除障頂眞言と
名く善無畏の軌
に云く、除障佛頂
亦は尊勝と名く。
(三)小呪陀羅尼
唵アミリタテイ
ソカ。

(三)光明 蓮
花の上に光を觀す

○次に八供養 常の 四智 ○禮佛 南無尊勝佛頂 三反 ○本尊加持

○本尊印 (朱)廣大軌に云く (三)寶輪 印は尊勝空と號す文 (三)二手合掌して二頭指を屈
し甲相ひ背け、二大指を以て二頭を押し、彈指の勢の如くせよ。 尊勝隨羅尼 常の
又の印 内縛して右の頭指を鈎せよ。 (三)歸命、訶利合尾枳囉拏半祖烏瑟尼合灑、娑囉
合賀引

○正念誦 隨羅尼(朱)七遍、口決に云く、尊勝空の印を結び左の頭指
大指の間に念珠を持ち、大指を以て運數を取れ。 ○散念誦 佛眼、大日、本尊(三)小
降三世、 ○伴僧呪 尊勝隨羅尼 一字 ○御加持呪 除蓋障佛頂眞言 ○護摩 息災 ○火天段

○本尊段 一尊供常説 又た九尊供初説 自加持印明。 内縛して右の頭指を鈎せよ。
召撥印明。 前と同じ、但し印を以て身に 歸命、唵、尾枳囉拏半祖烏瑟尼灑沙縛賀
智拳印を以て二明を誦せよ。 供物。 大日眞言 ○後火天段 ○世天段

○光明眞言法 (朱)兩界曼荼羅を懸 けて行せよ。 ○種字 孔 (朱)又たの傳也 胎き金 ○三昧耶形 (三)光明 (朱)

塔 ○勸請 ○發願 金剛界の如し (朱)別に本尊の 句なし。 ○諸尊段 曼荼羅聖衆 招撥。

○道場觀 心前に梵字あり變じて金剛光明心殿となる、其の内に弘字あり轉じて八葉
國譯傳流抄第二 三二七

行せよ。胎藏の時異 金剛界坤 作法は常の如し。

○十四日夜加持香水の事。阿闍梨若し御齋會に參するの時、布施堂より諸僧相ひ共に内裏に參す、然らざる時は諸僧參集して右衛門陣の間に候し、眞言院従り參内す、則ち累代相承の袷衣を着し五鈷・念珠を持す、先づ弓場の邊に佇立し、公卿御前の座に着して後、諸僧引列して參上す、上座を以て先さなす。儀師を引頭となす。位階に任せて兀子を着す。

○次に阿闍梨立て五古を持し香水の机下に行き寄り、長跪して坐す、但し南殿は立ち乍ら作法す云云。○次に五臍を香水の右器に置き後三部被甲護身せよ。○次に五臍を取つて先づ右器を加持すること廿一反眞言常の如し。○次に左器を加持すること又廿一反但し又た總じて兩器を加持するは氣色に隨ふのみ。○次に散杖を取て水に入れえを以て加持すること各々廿一反して後、散杖を器上に置き右器なり。○次に左器又た此の如くして散杖を置き。○

次に先づ右の散杖を取て三度御前に灑灑ぎ奉るは聖主なり。○次に左の散杖を取て先づ自身に灑ぎ、次に他身及び宮中に灑此の同五臍を左に持せよ。○次に五臍を以て惣じて逆順に加持すること各々三反して後、袖中に於て五臍を持して兩手を額に上げて少しく頭をかたむ低けて目を閉ぢ、彼のハ一山を想へ云云了て後常の如く兀子を着せよ。○次にミ八宗

(一)ハ一山 他山にはベンイナサンに云へども當寺には古來ウイナザン云ふ。○八宗云云 齋會の時八宗論議の衆僧各に僧名を録して御殿に於て之を讀む。奏状さいふ。

の奏を讀せよ。○次に御論義三番。○次に公卿以下祿を取て賜ひ、僧侶各々少し降て兀子を之に賜ふ。○次に退下下臈前なり。

○フモゴリノホネジユ晦日御念誦。大月は廿八日より始め、小月は廿七日より始め之を修す、或は後夜より始め、或は初夜に始む。大阿闍梨 長者 修僧 定額僧 金剛界五種の眞言各々一百反せよ。又た云く 定額僧一人參り金剛界の一座之を行す、羊石會コシヤ五佛の眞言百反之を讀む、長者常に參せざるか、不便の事。云云 又た云く眞言院晦御念誦三ヶ月。大月は廿八・九・卅日、小月は廿七・八・九日なり、西曼多羅に於て之を行す、散念誦實生不動尊、本法は朔日断なり。或る記に曰く、晦御念誦、不動慈救呪千反と文深意あるか。又た云く 長久四年九月廿八日王辰延尋大僧都、眞言院に參せられ、晦御念誦、金剛界供養法伴僧佛眼大日降三世延命一字眞言各々百反したまふと。又た云く或は口説 每朔御念誦秘に依れば廿八・九・晦小供養法アリ、或は實生佛眞言或は寶菩薩或は寶ハラ蜜、本式三日九時・古摩なり増益護摩の如し。而も近來或は代官を以て形の如く三日各々一時念誦す。云云 小野僧正云く 件の法は如意輪法なり、○種子奉。○三昧耶。ハ一

○請句 騎驢
馬を加ふるなり。

○迎請 本尊心印を用ひ、眞言 ○結界 馬頭 ○本尊印 心印を名く 内縛して右の大指出して之を立て、左の大指を掌に入れよ。唵阿囉力迦、娑婆母。又の印 二手外縛して二頭指相ひ柱へ蓮葉の如くし二大指並べ立てよ。唵縛日羅達摩訶里 ○禮佛 南無聖觀自在 三反 ○正念誦 心呪 ○散念誦 佛眼、大日、無量壽、本尊、二呪、白衣、八字、馬頭、一字。 ○伴僧呪 心呪 ○御加持呪 同

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 蓮花部 心印明 招請撥遣印明。 同 供物加持物呪。 同呪 ○諸尊段 三十七尊。或は六觀音、但し中臺大日、巡りは六觀音なり、但し諸の觀音此の如し。 ○後火天段 ○世天段

○千手 ○種子 兼アハス ○三昧耶形 開敷 紅蓮花 又た如意寶(朱)但し師説に云く、用ひず、口決なり ○梵號 娑賀薩羅合歩惹 阿哩耶去 嚩路引吉帝引濕拂合羅 ○密號 大悲金剛 (朱)亦た 清淨金剛 ○勸請 千手千眼觀世音 蓮華部中諸聖衆 ○發願 本尊界會 千手千眼蓮花部中 諸尊聖衆。

○道場觀 妙高山の頂に入葉の大蓮花を想へ、蓮花上に於て八大金剛柱あり寶樓閣となる、蓮花臺中に衆字を想へ、字より大光明を流出して遍く十方世界を照さんに、

○本尊印 許受
に兩重五貼の印を
いふ。

所有る受苦の衆生此の光に照觸せられて皆解脱を得と。又た大光明中より紅色の蓮花を踊出するに、蓮花變じて千手千眼觀自在菩薩となる、相好圓滿にして威儀具足す、十波羅蜜及び八供養等の菩薩、各々本位に住したまふ。又た樓閣の四隅に於て白衣・大白衣・多羅・毗俱胘等の四菩薩あり、各々無量の蓮花部の聖衆と與に前後に圍繞したまへり。 ○迎請 蓮花部 馬頭 ○辟除 馬頭 ○本尊印 (朱)中指の頭を合せ二水二風交へ立て、二大二小開き立てよ 二手金剛合掌して稍手背を曲げ合掌を相離し、忍願を以て二度相合せよ、檀・惠・禪・智・四度折り開き各々直く立てよ。

○陀羅尼 常の如し ○小呪 (朱)或は八葉印を用ひよ 唵縛日囉合達磨訶哩 ○禮佛 南無千手大聖 三反 ○正念誦 小呪 百反 或師説に云く陀羅尼二十一反と。 ○散念誦 佛眼、大日、無量壽、本尊、白處、馬頭、多聞天、一字。 ○伴僧 千手陀羅尼 ○御加持 同

○護摩 息災、若し 息災、若し ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 上の印に 招撥。 同印明、但し印を以て三たび招き 供物呪 上の ○諸尊段 (朱)三十七尊、或は六觀音 ○後火天段 師傳に、火天に歸し多聞天を供せよ ○世天段

○馬頭 (朱)亦た師子無畏 觀音を名く ○種子 衣 迄 殊 (朱) 兼 不空 軌 ○三昧耶形 白馬の頭

○小呪 諸家眞
言集には千手小呪
さいふ但し本説分
明ならず。 白衣な
り。

○梵號 阿利野賀耶枳里波(朱)小野の説は ○密號 迅疾金剛 亦た敢食金剛 ○勸請

大聖馬頭觀世音 蓮華部中諸聖衆 ○發願 本尊界會 馬頭觀音 蓮花部中

○道場觀 觀想せよ、壇中に龕字あり變じて蓮花座となる、座上に女字あり字變じて白馬頭となる、白馬頭變じて賀耶訖里縛明王となる、其の身は非黃非赤にして日の初めて出づる色の如し、白蓮花を以て而も璣珞となして其の身を莊嚴せり、光燄猛威にして赫奕たること鬘の如し、指甲長利にして雙牙上さまに出で、首髪は師子の項の毛の如し、極孔怒の狀を作す、此は是れ蓮花部忿怒持明王なり、猶し轉輪王の寶馬の如くにして四洲に巡履して、一切時・一切處に於て其の心息ます。諸菩薩の大精進力も亦た復た是の如し、是の如くの威猛の勢を得る所以は、生死の重障中に於て身命を顧みず、摧伏する所の者多きを以て正に白淨大悲心のための故に白蓮花を用ひて其の身を嚴るなり、乃至蓮花部の聖衆前後に圍繞したまへり。

○迎請 蓮花部(二)辟除 大威徳 明王 ○本尊印 二手虛にして合し二頭・二無名掌に屈し入れて、各々甲を相背け二大指を並べ微しく屈して着くる勿れ。(三)歸命、唵、于呼、佉那野、畔惹薩、合、吒野、娑囉、合、賀。 ○禮佛 南無賀野訖里婆尊(三)正念誦 上の ○散念誦

○辟除 内縛二
中立合す捧の印、
大呪なり、大呪は
七卷抄大威徳の法
に出づ。
○對譯文字 胎骨
龍軌に出づ。

佛眼、大日、本尊(二種)、
白處、大威徳、一字、
○伴僧呪 心呪(朱)八字文殊儀軌 唵、阿蜜里都納囉縛呼發吒婆賀

○御加持呪 同呪

○護摩 龜伏(小野) ○火天段 ○本尊段 自加持印明。前印 招撥。外縛して二大指を立て
二大三たび 供物呪 同呪 ○諸尊段 三十七尊或は六觀音 (朱)三十七尊或は六觀音 ○後火天段 ○世天段

○十一面 ○種子 𑖀 或は𑖀 ○三昧耶形 軍持。或は開敷蓮花 ○梵號 阿利耶
翳迦娜奢母佉 ○密號 變異金剛 ○勸請 大聖慈悲十一面 蓮花部中諸聖衆 ○發
願 大悲大聖 十一面尊 蓮華部中 諸大薩埵

○道場觀 大海中に須彌山あり四寶の成する所、山上に寶樓閣あり、其の中に曼荼羅壇場あり、壇中に八葉の蓮花あり、其の上に淨月輪あり、月輪上に𑖀字あり變じて軍持となる、變じて十一面觀自在菩薩身となる、四臂を具足せり、右の第一手は念珠を把り、第二手は施無畏、左の第一手には蓮花を持し、第二手は軍持を執れり。十一面とは當前の三面は寂靜の相、右邊の三面は威怒の相、左邊の三面は利牙上現の相、後の一面は怒笑の容、寂上の一面は如來の相なり、頭冠に各々化佛あり、種種の璣珞を以

て、其の身を莊嚴せり、蓮花部の聖衆及び護世大威徳天等悉く圍繞したまへり。

○迎請 蓮花部 心印明 ○辟除 馬頭 ○本尊印 二手右を以て左を押し外相ひ又へて合掌し

印を以て頂上に置け (朱)師云く、深く又ふる 秘説なり香隆寺の説

此は金剛合掌の印。兩の掌立て合せ少しも間隙なく五指の端少しく屈せよ、秘説十
一面印の事。金剛合掌して頂上に置け仍ち十一面と成るなり云云 師説、金剛合掌を
作し作て次に八葉印を造り觀せよ頂上佛面^の而して眞言を讀むなり、是れ十一面の意
なり。或は説く、指端十は十面、惣じての手は頂上佛面なり。又た説く、本面を加
へて十一面なり、頂上には只だ十面許りなり、十一面の説相儀軌に見えたり意得べ
きなり。

唵、那羅那羅地里地度嚕度嚕、壹知縛、知者隸知者隸、鉢羅者隸鉢羅者隸、蘇銘矩蘇摩
嚕嚕壹里加里心里心里致惹羅摩跋曩也跋羅摩鉢駄、薩怛嚕摩訶迦嚕尼迦娑嚕訶。

心眞言 (二) 唵嚕鷄入嚕囉紇哩。二合(朱)是れ世間流布の小呪なり、未だ本説を
摩訶迦盧尼迦也莎母。見ず、智證唐に於て書わしめ之れを奉ふ。 又た小呪 (三) 唵、

○禮佛 南無十一面尊 三反 ○正念誦 第三 ○散念誦 佛眼、大日、無量壽、本尊、(大小) 正觀音、八字、馬頭、一字。 ○

(一) 對譯文字に就
て勸修寺云く諸家
眞言集に出づとい
ふ。
(二) 對譯文字集經
一に出づ。

伴僧呪 大呪 ○御加持呪 同

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明 金剛合掌小呪 (朱)大呪奥 ○招撥 前に同じ但し印を以て 三たび招き撥せよ。

供物呪 同呪 ○諸尊段 三十七尊或は六觀音 ○後火天段 ○世天段

(一) 准胎 七俱胎
佛母は此の尊な
り。

○准胎 ○種子 沒 又は沙 或は娑 ○三昧耶形 賢瓶 又た甲冑或は蓮花
錫杖。極秘密なり ○梵號 阿利耶沒駄婆伽縛底 ○密號 寂勝金剛 ○勸請 准胎佛母大悲尊
如來部中諸聖衆 ○發願 本尊界會 准胎佛母 如來部中 諸尊聖衆

○道場觀 觀想せよ大海中に蓮花あり、難陀拔難陀二龍王共に蓮花の莖を扶く、花臺
上に列字あり淨月輪となる、輪中に蓮字あり變じて賢瓶となる、賢瓶變じて准胎佛母
となる、身は黃白色にして種種莊嚴せり、輕穀衣を着し白螺を劍となす、面に三目あ
り身に十八臂を具せり、上の二手は説法の相を作し、右の二手は施無畏、第三手は
劔を把り、第四手は數珠を把り、第五手は微若布羅迦 漢に子滿果といふ、此間になし西國にあり を把る、第六手
は鉞を把り、七手は劔を把り、第八手は跋折羅を把り、第九手は寶鬘を把る、左の第二
手は如意寶幢を把り、第三手は蓮花を把り、第四手は澡罐を把り、第五手は索を把り

第六手は輪を把り、第七手は螺を把り、第八手は賢瓶を把り、第九手は般若波羅蜜を把る、更に於愍の眼を作て行者を看たまふ、威儀具足し相好圓滿せり、乃至八供・四攝等の菩薩恭敬し圍繞したまへり。

(二) 辟除印 許受に云く順に三轉のみにして逆轉なし

○迎請印 内縛して二中指直く立てて頭を着け、二頭指を二中指の上節に附けて二大を來去せよ。唵左驗祖驗准臆壹醴薄伽羅底ソハカ。○(二) 辟除印 烏瑟沙摩印なり。右の大指・中指以下の三指の甲上を押し、左亦た右の如くし、合拳と爲して以て二頭指の頭を着けよ 唵俱魯憚曇鉢惹。誦すること一反、印を以て右旋して身一廻せよ此の如く三度作せ。

(三) 對譯文字は准臆軌金剛智譯に出づ。

○本尊印 内縛して三古印、二空を風側に着けよ。又の印。二手外縛して二風・二空・並べて直く立て、五處を加持して頂に散せよ。(三) 娜慕颯摩南去三藐三勃陀去俱臆南二但姪の反他 唵 左驗 祖驗 准泥 莎囉 合詞。(朱) 唵字已下を以て小呪となす。中御室御傳 ○印 二手を以て外に向へ相ひ又へ、二頭指二大母指を並べて直く立てよ。○密印。三臆印。眞言 如し 小呪。唵者禮主禮准臆泥娑婆賀。

○禮佛 南無佛母准臆 三反 ○正念誦 小呪 唵者禮主禮准臆泥娑婆賀 ○散念誦 佛眼、大日本尊、

八字文殊、軍荼利、大金剛輪、一字、○伴僧呪 大呪 ○御加持呪 同

○護摩 息災 ○火天段 如し ○本尊段 自加持印明。内縛三結、但し二空を開いて風側に着

唵者禮主禮准臆泥娑婆賀 招撥印明。内縛三結但し二大指を來去し三 供物呪 ○諸尊段

三十七尊(朱)佛部の時、或は六 觀音(朱)無量壽中、觀音の時 ○後火天段 北斗 ○世天段 此の段は火天に倍杓せよ。

○炎魔天。小壇を以て之に供せよ。初夜の時許り之を供せよ。

○准臆牛黃加持の事。若しは修法、若しは護摩、若しは供、其の間に先づ狂者の生氣方水を取て白瓷等の器に入れ、先づ軍荼利の小呪を以て之を加持せよ。三古杓を用ひよ 若しは同印

次に本尊眞言、次に易産の呪、次に孔雀明王の呪、次に延命呪各々七返 但し本尊呪 百返云云 次

に右に牛黃を取り左に數珠を取て准臆眞言千遍を誦して之を磨れ、然して後銅器等に入れ

て壇中に之を安じ、毎時神分以前に先づ之を加持せよ。如し 次に散念誦後牛黃之

を加持せよ、唯だ易産陀羅尼なり 兼れて腦机に牛 黃之を安せよ 次に産生に臨む時、彼の香水並に牛

黃を相ひ具へて産所に渡り、便宜の閑所に於て兼ねて白瓷若しは瓦氣等を相ひ儲けし

め、所具の香水を之に入れ、先づ吉里吉里の眞言を以て水を加持すること二十一返、

(二)自在王 歡自
在王にして是れ無
量壽如来なり。註
に無量とは無量壽
のオン、ロケイ、
ウヤ、キラ、アラン
を用ふるの意なり
(三)何像 二臂
の像を稱して云ふ
なり。

或は轉曰羅

○禮佛 南無大聖如意輪 ○正念誦 中呪を用ふ
心呪なり ○散念誦 佛眼、大日、(二)自
在王、(無量)、本
尊三、八字、馬頭、
金剛藏、一字 ○伴僧呪 大呪 ○御加持呪 同

三四六

○護摩 息災、若
増益 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。
心中印明、
四處を印す 招請撥遣。同
し印を以て三た
び招き撥せよ。 供物 小呪、心
中心呪 ○諸尊段 三十七尊或
は六觀音 ○後火天段 ○世天段
○(三)何像の事熾盛光佛頂軌に出づ。左掌は寶、惠は施願、身は白紅色 ○印 小し
く交へ水を縛し、火蓮風寶は大幢なり。○中心呪 心中心呪

○不空絹索 ○種子 暮 又た札 ○三昧耶形 絹索 又た蓮花 ○梵號 阿利
耶慕迦波奢 ○密號 等引金剛 ○勸請 大聖不空絹索尊 蓮花部中諸聖衆 ○發願
本尊界會 不空絹索 八大觀音。

○道場觀 觀想せよ樓閣中に八葉の大蓮花臺あり、花臺上に月輪あり、月輪中に墓字
あり變じて絹索となる、絹索變じて不空絹索觀世音菩薩となる、首に花冠を戴けり、
冠中に阿彌陀佛あり、三面四臂にして遍身肉色なり、右手に念珠を持し次手に寶瓶を
持す、左手に蓮花を持し次手に絹索を持す、鹿皮を以て袈裟となし、七寶を以て衣服

(二)口傳云云二
大二頭互に繞るな
り。

となし、珠環環劍をもて種種に莊嚴す、赤蓮花に坐して大光明を放てり、及び蓮花部
の諸尊乃至無量の仙衆前後に圍繞したまへり。

○本尊印 二手連合し進・力・禪・智・縛して、右手禪度を左手虎口の中に入れよ。(朱)
あり衆 唵阿謨伽波那摩播捨、矩嚕駄、羯羅灑野、鉢羅吠捨野、摩訶跋輪跋底野、摩訶嚩
矩吠羅沒羅憾摩、吠灑駄羅、跋那摩矩羅三摩瑛吽吽 此の印明は千 〇小呪 (朱)隨作事成就
唵阿暮伽毗闍耶吽吽。 不空絹索心呪王 經上卷に出づ 何事を作すに隨ても若し此の呪を誦せば悉く皆
な成就せん。

○禮佛 南無不空絹索 三反 ○正念誦 隨作事
成就呪 ○散念誦 佛眼、大日、本尊三、
白處、馬頭、一字 ○伴僧呪
大呪 或は説く、唵、鉢頭摩阿暮伽娑野泥、主魯主魯、娑縛賀。 卅卷經第二卷に出
づ。海僧正此の眞言を用ふと。云云 然れば小野の方之を用ふるか。○御加持呪 (三)同

(三)同 大呪なり

〇護摩 息災、若
は調伏 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。
蓮合し、進・力・禪・智・金剛縛にし、
右の五指を左の虎口に入れよ
唵 鉢頭合摩陀囉 阿暮伽惹野泥、主魯主魯 娑縛訶 五 卅卷經第二卷に出づ、海僧正此の眞言
を用ふ云云、然れば小野の方之を用ふ
かる 招撥印明。 前に同じ、印を以て三たび
招き撥せよ。明は前に同じ 供物 唵 阿暮伽、毘闍耶吽吽 ○諸尊段
(朱)三十七尊、或
は六觀音 ○後火天段 ○世天段

(三)勸修寺眞言集
に不空絹索小心と
名く不空絹索神變
眞言經第三に出づ

○白衣 宿曜撰災のため此の法を行す ○種字 々 ○三昧耶形 紅蓮花 ○梵號 半拏羅縛悉爾 ○密號 離垢金剛 ○勸請 大聖白衣觀世音 蓮花部中諸聖衆 ○發願 本尊界會 白衣觀音 蓮花部中 諸尊聖衆

○道場觀 壇中に列字あり變じて月輪となる、月輪中に衆字あり變じて蓮花臺となる、蓮花臺上に衆字あり變じて鉢曇摩花となる、鉢曇摩花變じて白衣觀自在菩薩となる、首に天冠を戴き身に素衣を着せり、左手に念珠を執り右手に印を持して足は白蓮花を踏み、光明赫奕たり、乃至無量の聖衆前後に圍繞したまへり。(朱)略行抄

○本尊印 二手内縛して二頭指蓮葉形に作せ。唵濕吠帝濕吠帝半拏羅縛悉爾莎訶。

○禮佛 南無白衣觀音 三反 ○正念誦 佛眼、大日、本尊、 ○伴僧呪 同上

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 内縛して進力。註へて圓なりしめ、禪智並べ立てよ。 唵濕吠帝濕吠帝半拏羅縛悉爾莎訶 招撥印明。 前と同じ、但し摩を以て三たび招き撥せよ。 供物呪 同 ○諸尊段 ○後

火天段 ○世天段

○葉衣 ○種字 列 ○三昧耶形 吉祥菓 未敷蓮 或は鉢弁 ○梵號 阿利耶 阿利耶ハハタラシキ 伴但羅奢縛利

○密號 長行金剛 (朱)或は供養金剛 ○勸請 葉衣觀音大薩埵 蓮花部中諸聖衆 ○發願 大聖慈悲 葉衣觀音 蓮花部中 諸大薩埵

○道場觀 壇中に衆字あり變じて八葉蓮花となる、其の上に列字あり淨月輪となる、月輪中に列字あり變じて吉祥菓となる、或は羅葉。或は杖。或は鉢弁。或は未敷蓮。 變じて葉衣觀自在菩薩となる、形天女の如し、首に寶冠を戴けり、冠中に無量壽如來あり、瓔珞環釧を以て其の身を莊嚴せり、背後に圓光あり四臂を具足せり、右の第一手を心に當て吉祥菓を持し第二手は施願に作し、左の第一手は鉞斧を持し、第二手は絹索を持す、蓮花部の聖衆及び二十八太藥叉將、並に諸眷屬各々本位に住し恭敬し圍繞したまへり。

○本尊根本印 八葉印 唵鉢羅拏合捨囉里二吽發吒 ○禮佛 南無葉衣觀自在尊 ○正念誦 同上 ○散念誦 佛眼、大日、聖觀音、本尊、(陀羅尼心真言) 佛眼、大日、聖觀音、本尊、(陀羅尼心真言) 佛眼、大日、聖觀音、本尊、(陀羅尼心真言) 佛眼、大日、聖觀音、本尊、(陀羅尼心真言) ○伴僧呪 同上 ○御加持呪 同上

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 同上 招撥印明。 前 供物呪 前 ○諸尊段 三十七尊、或は六觀音 ○後火天段 ○世天段

(一) 同鎮 人死た
 る時に跡をばらふ
 事なり。又は安鎮の
 鎮なり。許受には封
 宅なり。封なり。封
 少の字あり。一本に
 (二) 禪智の下並立
 の二字脱するの傳

(一) 唯云云 以下
 四藥又は次の如く
 長大、助目、圓滿、
 黃の義なり。圓滿、
 (二) 東方云云 東
 方所有の衆生を擁
 護し、憂苦を離れし
 む。
 (三) 唯云云 以下
 の四藥又は師子、
 小師子、螺、檀、
 の義なり。螺、檀、
 (四) 南方云云 南
 方衆生をして離苦せ
 しむ。
 (五) 唯云云 以下
 の四藥又は師子、
 子、髪、自在、青色
 の義なり。師子、青
 (六) 西方云云 西
 方衆生をして離苦せ
 しむ。
 (七) 唯云云 以下
 の四藥又は能持、
 善天、你、疾、男、進、
 華、天、の、義、なり。
 (八) 北方云云 北
 方衆生をして離苦せ
 しむ。
 (九) 唯云云 以下
 の四藥又は有、五、
 五、處、平、山、雪、山、
 の義なり。平、山、雪、
 (一〇) 四隅云云 此
 は羅に住して離苦せ
 衆生をして離苦せ

〇〇 同鎮 ○種子 〇三形 未敷蓮 鉞斧 胎圖 吉祥菓 或は説く、調伏の
 索 ○尊形 (肉色) 座蓮赤 或は白 胎圖 四臂 儀軌の 普通之を用ふ。二臂に二説あり
 左案 右持杖 胎圖 已上二説 ○印明 八葉印。又の傳。内縛して進。力二度を立て力
 開け禪智。師説の傳に云く、金剛合掌と。唵鉢羅拏奢縛利吽發吒。
 ○招請印 車輪次 右手左手の腕を把り、頂上に於て左手の四指を來去せよ。曇謨呬室
 羅未拏薩也麼地以瑟捺羅薩也悉地婆嚩都娑母。四天王結護印 二小又へ入れ二無名二
 中指を開き立て二頭を屈し二大を立てよ。○二十八部大將 惣印 外 (朱) 諸方に唵吒囉
 舍家の四方の柱、四角、舍の上の柱の角、舍の下の隅に二十八部大將又眞言を繫け、各
 六種の供物を供ふべし、啓告せよ。
 ○唯願くは二十八部大將又並に諸眷屬各々本方に住して護持守護して 甲 災禍不祥疾病を
 除き、我壽色力を獲得し聰惠を増長し、威肅端嚴にして易益易長を具足し、壽命長遠
 ならんことを 三反
 ○此の二十八部大將の呪之を書して各々本住の方に之を繫けよ、即ち疾病消滅して家
 内安穩ならん云々

○二十八部大將又眞言 (一) 唵彌伽吒囉吽惹莎烏 唵蘇嚩但嚩 唵布羅拏迦
 囉劫比囉 已上 (二) 東方四藥又。
 (三) 唵僧賀 已上 (四) 南方四藥又。
 (五) 唵賀囉 已上 (六) 西方四藥又。
 (七) 唵駄囉拏 已上 (八) 北方四藥又。
 (九) 唵尾瑟拏 已上 (一〇) 四隅四藥又。
 (一一) 唵半止脚 已上 (一二) 四方地下四藥又。
 (一三) 唵素哩野 已上 (一四) 四隅上方四藥又。
 (一五) 唵蘇步莫 已上 (一六) 四方地下四藥又。
 (一七) 唵迦囉 已上 (一八) 四方地下四藥又。
 (一九) 唵阿儼頼 已上 (二〇) 四隅上方四藥又。
 (二一) 唵阿儼頼 已上 (二二) 四隅上方四藥又。
 (二三) 唵阿儼頼 已上 (二四) 四隅上方四藥又。
 (二五) 唵阿儼頼 已上 (二六) 四隅上方四藥又。
 (二七) 唵阿儼頼 已上 (二八) 四隅上方四藥又。
 (二九) 唵阿儼頼 已上 (三〇) 四隅上方四藥又。
 (三一) 唵阿儼頼 已上 (三二) 四隅上方四藥又。
 (三三) 唵阿儼頼 已上 (三四) 四隅上方四藥又。
 (三五) 唵阿儼頼 已上 (三六) 四隅上方四藥又。
 (三七) 唵阿儼頼 已上 (三八) 四隅上方四藥又。
 (三九) 唵阿儼頼 已上 (四〇) 四隅上方四藥又。
 (四一) 唵阿儼頼 已上 (四二) 四隅上方四藥又。
 (四三) 唵阿儼頼 已上 (四四) 四隅上方四藥又。
 (四五) 唵阿儼頼 已上 (四六) 四隅上方四藥又。
 (四七) 唵阿儼頼 已上 (四八) 四隅上方四藥又。
 (四九) 唵阿儼頼 已上 (五〇) 四隅上方四藥又。
 (五一) 唵阿儼頼 已上 (五二) 四隅上方四藥又。
 (五三) 唵阿儼頼 已上 (五四) 四隅上方四藥又。
 (五五) 唵阿儼頼 已上 (五六) 四隅上方四藥又。
 (五七) 唵阿儼頼 已上 (五八) 四隅上方四藥又。
 (五九) 唵阿儼頼 已上 (六〇) 四隅上方四藥又。
 (六一) 唵阿儼頼 已上 (六二) 四隅上方四藥又。
 (六三) 唵阿儼頼 已上 (六四) 四隅上方四藥又。
 (六五) 唵阿儼頼 已上 (六六) 四隅上方四藥又。
 (六七) 唵阿儼頼 已上 (六八) 四隅上方四藥又。
 (六九) 唵阿儼頼 已上 (七〇) 四隅上方四藥又。
 (七一) 唵阿儼頼 已上 (七二) 四隅上方四藥又。
 (七三) 唵阿儼頼 已上 (七四) 四隅上方四藥又。
 (七五) 唵阿儼頼 已上 (七六) 四隅上方四藥又。
 (七七) 唵阿儼頼 已上 (七八) 四隅上方四藥又。
 (七九) 唵阿儼頼 已上 (八〇) 四隅上方四藥又。
 (八一) 唵阿儼頼 已上 (八二) 四隅上方四藥又。
 (八三) 唵阿儼頼 已上 (八四) 四隅上方四藥又。
 (八五) 唵阿儼頼 已上 (八六) 四隅上方四藥又。
 (八七) 唵阿儼頼 已上 (八八) 四隅上方四藥又。
 (八九) 唵阿儼頼 已上 (九〇) 四隅上方四藥又。
 (九一) 唵阿儼頼 已上 (九二) 四隅上方四藥又。
 (九三) 唵阿儼頼 已上 (九四) 四隅上方四藥又。
 (九五) 唵阿儼頼 已上 (九六) 四隅上方四藥又。
 (九七) 唵阿儼頼 已上 (九八) 四隅上方四藥又。
 (九九) 唵阿儼頼 已上 (一〇〇) 四隅上方四藥又。

しむ。二一七。唯歩莫云云。以下の四藥又は地の妙地、黒、小黒、の義なり。三四方云云。地に居り地居の常衆生を以て憂苦を離れしむ。四素里耶云云。以下四藥又は日、神、火、神、月、神、風、神の義なり。居に在りて常に空衆生をして離苦せしむ。二田水 毗沙門なり。其の他の數の字は二十八。大藥又

二十八枚の札を磨し牛黄を合して之に朱書せよ。私に之を案するに、地下の四藥又只だ石を用ふるなり、仍て札は四十四なるか、之を問ふべし。



方の札を持してタキ王の眞言を誦し、大壇を一週了して上方の四枚大阿闍梨之を持す。事あり、四人の伴僧四

四ヶ石、同じく朱を以て四石各々地下四藥又眞言を書するなり。鎮に於ては第七日なり、然りと雖も日に依て次ぎ第五日第六日も失なきか、但し本尊像に於ては結願了て後上るべきなり。

○天養元年十月二十三日 日曜 第七日に當て鎮

○散念誦 大日、佛眼、本尊、八字、馬頭、八方天、護摩、一字、馬言之を誦せしめ、小壇の机二重に之を立て、内院の地下四方に入れ之を立て、上方四隅之を立て、支度せる鍬・鋤・金鍬を之に入れ被れよ。

○大勢至 (朱) 又た寂留明善 〇種字 或は 〇三昧耶形 未敷蓮 〇梵號 阿利耶摩

訶薩他 摩波羅波多 〇密號 持輪金剛 〇勸請 大慈大悲得大勢 蓮花部中諸聖衆

〇發願 大慈大悲 勢至薩埵 蓮花部中 諸大薩埵

〇道場觀 壇中に蓮花あり、花臺上に月輪あり、月輪中に卍字 或は あり變じて未敷蓮花となる、蓮花變じて大勢至菩薩となる、身相肉色にして相好圓滿せり、左手に蓮花を持す、右手は胸に當て地水火の三指を屈して赤蓮花に坐す、眷屬圍繞したまへり。

〇本尊印 虛合して未敷蓮花の如くせよ (朱) 二手虚空合掌して、二中指小し 歸命三髻髻索入

莎烏 〇禮佛 南無大勢至菩薩 (朱) 三反 〇正念誦 同上 〇散念誦 佛眼、大日、阿闍梨、

〇伴僧呪 〇御加持呪

〇護摩 敬愛(朱) 或は 〇火天段 〇本尊段 自加持印明。先の印明 招掖印明。前に 供

如し、蓮花部の聖衆前後に圍繞したまへり。

○本尊印明 内縛して進力微しく屈して蓮葉の如くし、禪智並べ堅てよ。 歸命勃里

薩嚙佩也但羅合散餘、鉢婆破合吒也莎哥。 ○禮佛 南無阿利也毗哩俱脛 ○正念誦

(朱) (二)胎藏呪 ○散念誦 (朱)佛、大、本、白、馬、一、 ○伴僧呪 ○御加持呪

○護摩 (朱)息災或は増益 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。招請撥遣印明。(朱)胎藏の

物呪。(朱)呪は十一面軌の呪に同じ。 ○諸尊段 ○後火天段 ○世天段 供

○青頸 (朱)梵に云く你羅建制なり。此の法の功能を説かず云云 ○種字 对 ○三昧耶形 蓮花 ○梵號 ○密號

○勸請 青頸大悲觀世音 蓮花部中諸聖衆 ○發願 本尊界會 青頸觀音 蓮花部

中 諸大薩埵

○道場觀 壇上に梵字あり寶殿樓閣となる、内に梵字あり、變じて八葉の蓮花となる、

上に梵字あり月輪となる、上に对字あり變じて蓮花となる、變じて青頸觀自在菩薩と

なる、身色紅白にして三面四臂あり、正面は慈悲照怡の貌を作し右邊は師子の面を作

し左邊は猪面を作し首に寶冠を戴けり、冠中に化無量壽佛あり、右の第一手に杖を執

(二)胎藏呪 胎藏の次第に出たる吐俱胎の眞言、歸命勃里薩嚙佩也但羅合散餘、鉢婆破合吒也莎哥、

り、第二手に蓮花を把り、左の第一手に輪を執り、第二には螺を執る、虎皮を以て裙

とせり、蓮花部の無量の聖衆圍繞したまへり。

○本尊印名 二手虚空心合掌して二大指を並べ立て、二頭指を屈して二大指上に覆せ第

二節を屈して法螺を表し、二中指立て合せ 蓮花を二無名指圓かに立て合せ 輪を二小指直

く立て合せよ。表す 此の印は一印に於て本尊所持の四種の物を表すなり。 唵鉢頭

合 二末你羅建制の反 濕縛合羅 三歩嚙歩嚙併 四

○禮佛 (朱)南無青頸觀自在菩薩 ○正念誦 前呪 ○散念誦 佛眼、大日、正觀音、千手、本尊、

僧呪 ○御加持呪

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。招請撥遣印明。(朱)上の印 供物。 上の呪

○諸尊段 (朱)三十七尊 ○後火天段 ○世天段

○阿摩提 國王重罪を造りて懺悔の時此の法を修すべし。 ○種字 对 (朱)或は对 ○三昧耶形 鳳篋 ○梵號 ○

密號 ○勸請 大聖慈悲阿摩提 蓮花部中諸眷屬 ○發願 本尊界會 阿摩提尊 蓮

花部中 諸眷屬等。

國譯傳流抄第三

三五七

大指來去せよ。呪に曰く 唵、地梨チリ合多羅ニダラ音瑟吒ニラ羅羅波羅ハハ、合末駄那ニハミダナ、莎訶。

南方天 左手の掌を平に舒べよ、右亦た此の如くせよ、二腕相ひ交へ二中指鉤結すること索の如くせよ、二小指・二頭指・二大指各々之を曲げ、頭指を來去せよ、呪に曰く 唵一尾嚕茶迦ヒロカキヤ藥叉ニヤキ合地跛多曳ハチホトエ三莎哥。

西方天 左右の手を拳に作り腕相ひ交へ、二大指頭を以て各々二中指の甲上を押し、二頭指相交ふること索の如くせよ、呪に曰く 唵一尾嚕博乞ヒロカキヤ及ニヤキ合那伽ハチナガ、地波多曳チハタエ三莎哥。

北方天 左右の手を拳に作り腕相ひ交へ大指を申べ、上に向へて來去せよ、呪に曰く 唵吠賒羅ヘイシラ合摩那野莎哥。

○讚 先づ四智 次に金剛薩埵(朱)但し大法の時なり 嚩日羅薩但嚩、摩訶薩但嚩、嚩日羅薩但

他藥多、三漫多、跋但羅嚩日羅爾耶、縛日羅波傳、曩謨娑都帝。

○禮佛 南無普賢延命 三反 ○正念誦 上呪 ○散念誦 佛眼、大日、(朱)金、本尊、千反、金

○伴僧讀經 壽命經 ○御加持呪 上呪 ○火天段 ○本尊段三十 自加持印明。前印明 招請撥遣印明。同前

供物呪。 同呪 ○諸尊段 ○後火天段 ○世天段

○五秘密 ○種子三昧耶形 金剛薩埵 三 五股。 欲金剛 一 箭。 計里吉

羅 一 鈎。 愛金剛 一 尺。 麼竭幢。 慢金剛 一 尺。 屈三股。

○勸請 金剛薩埵五秘密 四種明妃諸菩薩 ○發願 本尊聖者 金剛薩埵 一十七尊 諸大薩埵

○道場觀 須彌山上に莎字あり寶樓閣となる、其の中に曼荼羅あり中央月輪中に三字あり金剛薩埵となる、金剛慢印に住す、前に三字あり欲金剛となる、形服皆赤なり金剛弓箭の印に住す、右に三字あり計哩計羅金剛となる白色なり、金剛拳を以て臂を交へ抱印に住す、後に三字あり愛金剛となる、形服皆な青なり、左臂を豎て麼竭幢を執り右拳を以て其の肘を承く、左に三字あり慢金剛となる、形服皆な黄なり、二金剛拳を以て各々膊に安し頭左に向け少すし促かたぶく、東南に三字あり香菩薩となる、西南に三字あり花菩薩となる、西北に三字あり燈菩薩となる、東北に三字あり塗菩薩となる、四方に三才交字あり四攝菩薩となる、四隅に三才交字あり嬉慢歌舞菩薩となる、是

の如く觀じ了て七處を加持せよ。

○迎請 大鈎召 ○辟除 降三世 ○振鈴 次に大日印明 金剛界 次に金剛薩埵大智印 二羽各々金剛拳にして、左を膝に置き左手杵を抽擲する勢にし心上に置け。唵、摩訶素法囉曰羅薩但縛弱呼餞斛素羅多、薩但餞。 次に欲金剛印 二手金剛拳にして左羽は弓を執ると想へ、右羽は箭を持し射る勢の如くせよ。 薩縛、拏羅、誦素法、薩但摩合曇婆。

(二) 二拳云云 右手を外にして交へ抱くなり。

次に計里計羅印 前印に准じて(二) 二拳を交へ胸を把せよ。 薩但餞合囉曰羅二薩但囉合跋羅莫素羅多入。 次にあ金剛印 二手金剛拳にして左拳右肘を承け右臂を豎て、幢勢の如くにせよ。 薩縛冥摩訶引素法涅哩合住製野諾。 次に金剛慢印 二拳各々膝に安し左に向へ少し頭を傾け禮勢の如くせよ。 跋鞞悉地也合左擲囉鉢羅、曇婆入。 ○讚 先づ四智 次に金剛薩埵 (朱) 三反 ○禮佛 南無金剛薩埵 ○本尊加持 金剛薩埵大智印 前の (三) 唵、摩訶素法囉曰羅合薩但囉合弱呼餞斛、素羅多、薩但餞合。 祕說 外五古印 唵、摩訶素法莎呂。 次に五祕密三昧耶印 金剛縛に作し忍・願・を屈し掌に入れ相ひ合せ、禪・智・檀・惠・各々相柱へ獨股金剛杵の如くせよ。(朱) 外縛して忍願

(三) 花藏院集に金剛手眞言の處に出づ、是れ大樂不空身眞言なり。

を屈して掌に入れ、禪・智・檀・惠・立て合せ。 素囉多薩但梵合

○正念誦 (朱) 或は總呪十 先づ大日 次の本尊 唵縛曰羅薩但縛囉。 ○散念誦 日(朱) 大

金、本尊、十七字言、四尊、(欲) 計・愛・慢) 八字、降三世、一字。 ○伴僧呪 眞言上の如し ○御加持呪 同

○護摩 敬愛 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 五祕密三昧耶印明 招請・撤遣印明。

大樂不空身、右の大指を以て三 たび之を召け、明は前に同じ。 供物呪。(二) 唵摩訶素法の呪 加持呪。(朱) (三) 素囉多、薩但餞

○諸尊段 十七尊 招撥。 十七眞言 供物眞言。 同眞言 ○後火天段 (朱) 常の 如し ○

世天段 (朱) 常の 如し

○普賢 ○種子 唵 嘛 嚩 囉 三 昧 耶 形 賢 瓶 五 古 ○梵號 阿利耶三曼多婆陀羅 ○密號 普攝金剛 亦た眞如金剛 ○勸請 普賢菩薩大薩埵 金剛部中諸眷屬 ○發願 普賢菩薩 金剛部中 諸大眷屬。

○道場觀 觀想せよ清淨法界宮大曼荼羅中に梵字あり、變じて滿月輪となる、月輪中に衆字あり變じて八葉の蓮花となる、花臺上にま字あり變じて五胎金剛杵 或は鈎亦た梵 賢瓶となる。 となる金剛杵變じて普賢菩薩となる、首に五佛の寶冠を戴き身色水精の如し、右手に

(三) 原本梵字 原本梵字

五鈷杵を持し左手に般若鈴を執り、白馬王に乘じ大菩提心に住せり、及び八金剛妃等無量の眷屬前後に圍繞したまへり。

(一) 三昧耶明三摩耶薩怛嚩の呪之を用ふ。

○印 二羽金剛拳にして左を腕に置き右手は金剛杵を抽擲し心上に置き、右脚左を押せ。唵、摩訶素上、嚩日羅、薩怛縛合、弱吽、解素羅多薩怛嚩。又の印 二羽外縛して二中指を立てよ。嚩日囉薩怛嚩。(朱) 惡。又た言ふ、三昧耶薩怛嚩。又た言ふ、普賢菩薩滅罪呪、陀羅尼集經第六に出づ。支波啄一決定毗尼波啄二、斷結烏蘇波啄。三。

○禮佛 南無普賢菩薩 三反 ○正念誦 (一) 三昧耶明 ○散念誦 佛眼、大日、本尊、僧呪。 ○御加持呪。

○護摩 息災 ○火天段 ○本尊段 自加持印明。 三昧耶印明 招撥印明。 前に供物呪 同呪 ○諸尊段 (朱) 三十七尊 或は十七尊 ○後火天段 ○世天段

○虚空藏 ○種子 不 ○三昧耶形 寶珠 ○梵號 阿迦除揭婆耶 ○密號 如意金剛 ○勸請 如意金剛大薩埵 寶部一切諸聖衆 ○發願 本尊界會 虚空藏尊。

○道場觀 壇上に寶樓閣あり、樓閣中に満月輪あり、月輪中に八葉の蓮花あり、蓮花

上に平字あり字變じて寶珠となる、珠變じて虚空藏菩薩となる、其の身金色にして左手は如意寶珠を持す、無量の眷屬前後に圍繞せり。

(一) 寂 或はいふ寶の誤りと。

○本尊羯磨印 止羽を以て心に當て掌を仰げ、智力を以て捻し及び力度を屈して寶形の如くし、觀羽を以て掌を仰げ前に向へ施願の勢に作せ。唵嚩日羅囉怛拏。三昧耶印 二羽金剛縛にして進力反し威み寶形の如くし、禪智並べ堅てよ。口傳に云く、二羽内唵嚩日羅、囉怛曇吽。(朱) 已上二箇の印呪は大虛。又の印 虛心合掌して空を以て水中の文を捻し、二風を以て空上を押せ。胎藏の南一阿迦奢、三曼多、盈誑他、尾質怛藍、縛羅達羅、娑婆訶。

○禮佛 南無阿迦捨藥婆 三反 ○正念誦 唵嚩日羅、囉怛曇吽。 ○散念誦 佛眼、大日、本尊、利(朱) 或は金剛藏 一字 ○伴僧呪 (一) 南半一阿迦捨、捨舒可揭、魚羯婆、去耶余可の

○護摩 增益 ○火天段 ○本尊段 招撥印明。 三昧耶印明 供物呪。 同呪 ○諸尊段。

(朱) 三十七尊 ○後火天段 ○世天段

○求聞持法 先づ一室の開所を儲けて尊像を安置し、面は西に向へよ。道場を莊嚴せよ。

(一) 求聞持法 法は彌陀紙(國譯本) 密教事相第二の三(百六十九頁)にも委細あれば参照。

(一) 原本梵字、今は求聞持軌所載の文による。

○五供 飯食燈
明塗香の如く之を
取りて供養す。

○次に讚云云
許心に云く、讚、
運心、三力祈願、
五大願、禮佛皆護
身の印を用ゆ。

○禮佛 許受に
云く、十八道の如
く四攝の次に之を
加ふ。

作せ、今菩薩の此に來至したまへるは是れ陀羅尼の力なり、我が所能に非ず、唯し願
くは尊者、暫く此に住したまへ。

○次に五供 先づ塗香を取り、明一遍を誦し用て其の壇に塗れ。次に復た花を取て
亦た一遍を誦し、壇の上に布散せよ、焼香・飲食・燈明・次第に之を取りて皆な一遍を誦
し、手に持て供養し、壇の邊に置在せよ、復た念言を作せ、一切諸佛菩薩福惠薰修し
て所生の幡蓋清淨の香花衆寶の具悉く皆な嚴好ならんと。

○次に讚 先づ四智 ○次に寶部 嚩日囉囉怛那、蘇嚩日囉囉他、嚩日囉迦除、
摩訶摩尼、阿迦除藥婆、嚩日囉茶、嚩日囉藥婆、曇謨、娑都諦。 ○次に運心供養
或は普供養眞 護身の印を作りて明一反を誦して想へ、一切諸佛菩薩福惠薰修して所生
の幡蓋清淨の香花、衆寶の具悉く皆な嚴好にして、諸の供養物悉く成辨することを得、
即ち持て一切如來及び諸菩薩を供養し上つる。

○次に三力祈願 ○次に五大願 衆生無邊誓願度。福智無邊誓願集。法門無邊誓願
覺。如來無邊誓願事。菩提無上誓願證。深廣大智誓願得。自他法界同利益。 ○次に
○禮佛 曇謨阿迦捨揭婆耶胃地薩但縛耶摩訶薩但縛。 ○本尊加持 護身の印を結び

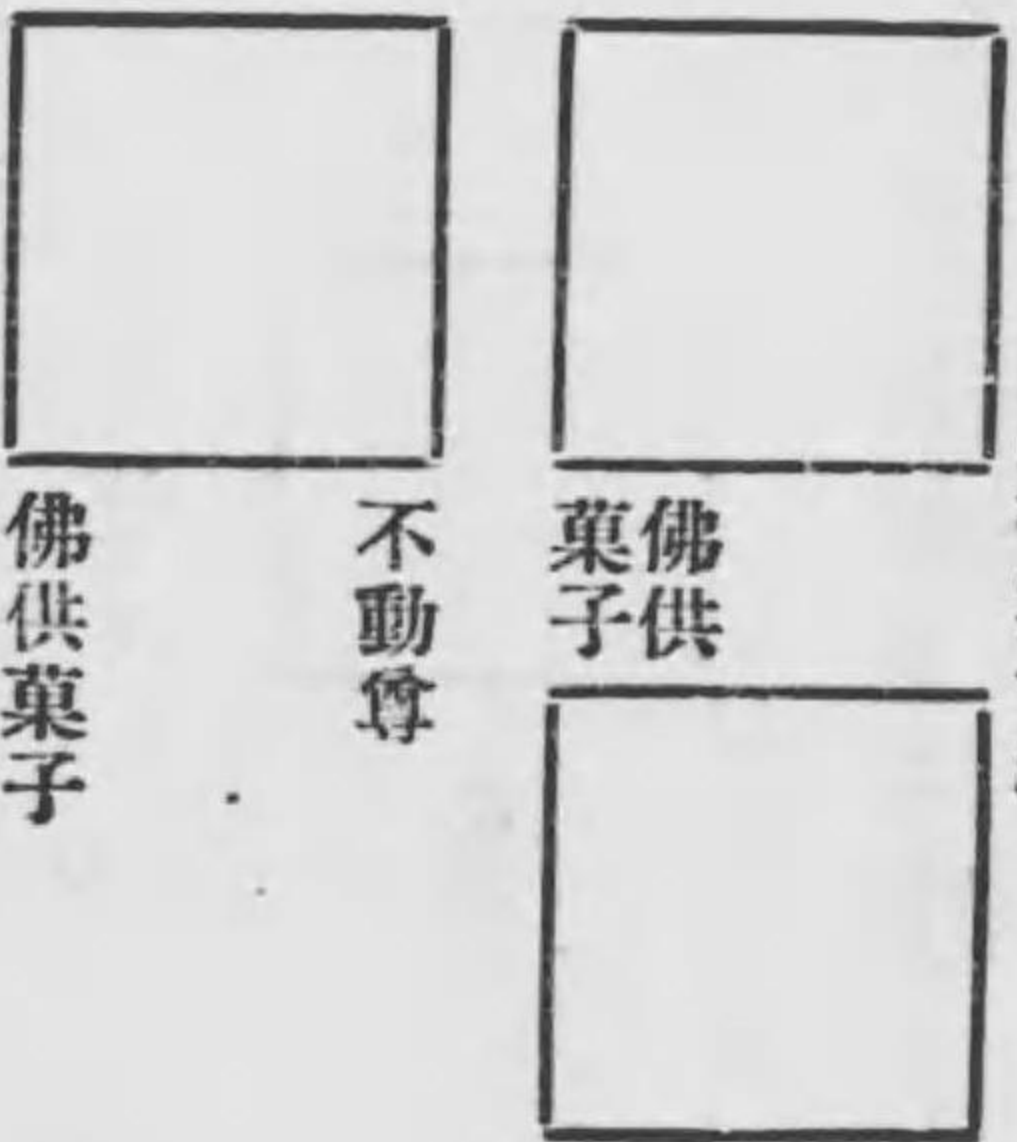
○外縛銀印 外
縛二上人の形なり。
本願上人の形なり。
の悉く此の印に
ありて法は終一
此の法は終一
す、然るに今此
次第は然るに今
す、然るに今此
の所傳に本願上
不共の秘説なり
此の印に就き種
異説を人水授受
に掲ぐ委細參照
べし。

本尊の明七反を誦して身の四所を加持せよ、即ち本尊と我と一體無二となりぬと想へ。
又た○外縛銀印本尊の明七反。 ○次に正念誦 即ち○手印を以て珠を拵ひ、明を
誦して明かに遍數を記せよ、誦せん時目を閉ぢて菩薩の心上に一滿月ありと想へ、然
も誦する所の陀羅尼の字滿月中に現じて皆な金色と作る、其の字復た滿月より流出し
て行人の頂に樹ぐ、復た口より出で、菩薩の足に入る、巡環往來して相續して絶えず、
輪の如くにして轉ず。云云 是の如く觀念し且つ誦し且つ念じ時別して五十反若しは一
萬反誦し了るなり、數反員數發願の時の如し全く増減せず、念誦の分限了て珠を捧
げて頂戴し是の願を發せ、一切有情希望する所の世出世間の殊勝の果報、我が念誦福力
を以て速かに成就せしめん。 ○次に誠を至して瞻仰して便ち坐しながら禮拜せよ、目
を閉ぢ復た○滿月菩薩を觀じて極明了にして已れ、更に運心して漸く增長し法界に周
遍せしむべし、復た漸く略觀・廣・劍・三反許りして、最後の時に於て量本の如くし已れ。
○次に本尊加持 先の ○散念誦 佛眼、大日、本尊、(朱)八字 ○次に○加持牛蘇 護身の印、
之を加持せよ。 ○次に後供養 ○運心供養 或は普供 養眞言。 ○讚 ○三力 ○祈願 ○五大願
○禮佛 ○次に廻向 結願の時廻向以前に有る ○次に五悔 (六)中間には後一反を取
り最後には共に用ゐよ。 ○次

(二) 三昧耶形
體なれば五股杵上
に三瓣寶珠を置き
各尊なれば各其所
持物を三形とす。

燈

胎藏曼荼羅



本經は棚に置く

三七六

子 ○(三) 三昧耶形

○法界虛空藏 ま(鍍)

寶珠。○金剛虛空藏

ま(吽) 寶金剛。如意

の前、横に五貼。○寶光虛

空藏 ぶ(但洛) 三辨

寶。○蓮花虛空藏 衆

○勸請

○發願 本尊界

會 五大虛空藏 摩尼寶部 諸尊聖衆。

○道場觀 己身の前に於て無盡の乳海ありと觀せよ、海中に大寶蓮華王を出生す、

金剛を莖となす、量法界に(五)周し、上に七寶の妙樓閣あり、花雲海伎樂歌讚あり、摩

尼を燈とせり、樓閣中に大圓明月輪あり自身の量に等し、一圓明中に於て更に分て五

(三) 本尊云云 福
智の所。又たの説 星
變の所。又 瑜祇經の
説。

(五) 周一説に同
の字かといふ。

とせり、中の圓明に於て十字あり、法界虛空藏となる、白色にして左手に鉤を執り右
手に寶を持せり、前の圓明中に十字あり、金剛虛空藏となる黄色なり、左に鉤を持し
右に寶金剛を執る、右の圓明中に十字あり、寶光虛空藏となる青色なり、左に鉤を持し
右に三辨寶を持して大光明を放てり、後の圓明中に於て衆字あり蓮花虛空藏となる赤
色なり、左に鉤を持し右に大紅蓮花を持せり、左の圓明中に衆字あり、業用虛空藏と
なる黒紫色なり、左に鉤を持し右に寶羯磨を持せり、其の菩薩の衣服、首冠、瓔珞皆
な本色に依る、各々半跏坐して一曼荼羅内の大威徳の諸尊、圍繞し恭敬せり、七處加
持すること常の如し。

○迎請 大鈎召 結界 馬頭或は 軍荼利 ○印 内五古、二中寶形に作り五峰皆な寶

と想ふ義なり。或は外五古、中指寶形にして各々末に寶珠ありと想へ。(一) 蓮臺僧正傳

明 唵縛曰羅囉但曇、饅呬但洛訖里惡、娑縛訶。又たの印 五大虛空藏と名く、内縛して

二空並べ立て鈎の如くせよ。明 同上。法界 金剛縛して中指針の如くせよ。或は

云ふ、金剛外縛に作り二地。二空雙べ立て、忍願改り堅て針の如くせよ。歸命寺。

金剛 進力を改り三股の如くせよ。前印、進 力を修げ 或は外五古。歸命寺。寶光 進力を

(一) 蓮臺僧正 寬
空僧正。
(二) 密印 獅子口
の印。

改め寶形の如くせよ前印、進力寶形の如くせよ。 歸命衆。蓮花。進力を屈して蓮葉の如くせよ前印、進力蓮葉の如くせよ。 歸命衆。業用。戒方進力互に相ひ又へよ前印、戒方進力を立て、互に相又へ相又ふるは少し上の交なり。 歸命衆。

○讚四智 ○禮佛 南無法界虛空藏菩薩摩訶薩。南無金剛虛空藏菩薩摩訶薩。

南無寶光虛空藏菩薩摩訶薩。南無蓮花虛空藏菩薩摩訶薩。南無業用虛空藏菩薩摩訶薩。

訶薩。或は梵號を用ひよ、ナラホ、ナラフ、ナラフ、ナラフ 曩謨達麼阿迦除。曩謨縛日羅阿迦除。曩謨囉怛曩阿迦除。ハムド、ハムド 曩謨羯磨阿迦除。

○本尊加持 二種印明先の如し。内五結印。内縛して二空並べ立て鉤の如くせよ。 ○正念誦 鑊咤怛洛訖里惡

○散念誦 佛眼、大日、本尊、寶生、寶波羅蜜、軍荼利、八方天、北斗、諸曜、諸宿、金剛吉祥、破宿曜障、成就一切明、一字、 ○伴僧呪 胎藏虛空藏真

言。○後加持呪 同 ○護摩 息災。除災。增益。壽福。 ○火天段 ○部主段 除災金輪 招撥。智拳印。一字明。 供物。

同真言 福德。佛眼 招撥。根本印明、印を搖して之を撥し之を招け。 供物 唵勃陀嚩者爾補瑟底迦羅莎哥

○本尊段 自加持印明 内五古印 唵、縛日羅囉怛曩、呼怛洛訖里惡 招請、撥遣印明 外五古印 明前に同じ 供物呪

加持物呪 唵、縛日羅囉怛曩 ○諸尊段 ○後火天段 (朱)之を略す ○世天段

(一)後加持 修法了りて加持する故なり。
(二)部主段 原本朱書す。

(一)仁目。或はいふ千日か。

○八字文殊 ○種子鈴 (朱)息災室利増益惡底里降伏 已上軌説 最秘なり ○三昧耶形 利劔 (朱)或は青蓮花、上三古 ○梵號 阿利也曼殊子利 ○密號 般若金剛 ○勸請 三世覺母八字尊 八大文殊諸聖衆 ○發願 本尊聖者 三世覺母 八字文殊 八大童子 四大天王 十六大天 ○道場觀 壇中に畫字あり變じて八葉の蓮花となる、花臺に對字あり淨月輪となる、輪中に對字あり變じて利劔となる、利劔變じて大聖文殊となる、身色黄金にして大光明を放つ、師子王の座に乗じて智惠の劔を操持せり、左に青蓮花を執る、花臺に智杵を立てたり、首髻の八智尊暉光十方に遍ねく、(二)仁目に對行する如し、第二院請召童子等八大文殊次第に之を廻り皆面を中尊に向へ奉教の勢の如くして、蓮花上に坐し各、師子に乗ず、圓輪外四角中に四大明王あり、第三院四攝十六大天等各、本方に住し、乃至無量の聖衆恭敬し圍繞したまへり。

○本尊印明 内縛して二空を並べ立てよ。(三)唵引、惡 阿引、惡 囉引、惡 鉢引、惡 佉引、惡 左引、惡 洛引、惡。

○禮佛 南無八字文殊 三反 ○正念誦 上呪 ○散念誦 佛眼、大日、本尊、慧救呪、僧呪 八字文殊 同 ○御加持呪 同

(三)八字文殊軌に出づ八字大威徳心眞言と名く、惠運請來。

口傳に曰く、金剛
合掌二頭指資形二
大指並べ立つ。
胎藏の印明な
第文殊院の印明な
依る。
子三形印言本尊に
依る。

〇〇護摩 息災 但し四種法
之を招 供物。八字心眞言。

〇火天段 〇本尊段 招請撥遣。

〇諸尊段。(朱)三十七尊
或は八字大童子
〇後火天段 〇世天段。

〇〇文殊鎮宅

息災護摩を修す等常の如し、月輪を造りて胡粉を塗り、中央は本尊
種字、廻りは八字文殊眞言を梵字にて書くなり、其の月輪を青袋に入れて壇の中央に
立て、之を修して後彼家の間木を刻りて之を納めよ。

〇支度 〇卷敷 〇香藥 〇淨衣
〇御加持等皆な本尊に付き、息災
に付て之を修せよ。



〇〇六字文殊 〇種字 ま 〇三昧
耶形 釵 或は梵鐘 〇梵號 〇密
號 〇勸請 六字文殊大聖尊 蓮
花部中諸聖衆 〇發願 六字文殊

蓮花部中 (朱)南大薩埵

〇道場觀 須彌山頂に梵字あり變じて七寶樓閣となる、樓閣内に曼荼羅壇あり、壇上
に梵字あり變じて月輪となる、月輪中に藏字あり變じて八葉の蓮花となる、其の上に
ま字あり變じて釵 或は梵鐘 となる變じて六字文殊師利菩薩となる、右手は説法の印を
作り左手は正しく胸上に當て仰け着けて童子形を作る、身黄金色にして白色の天衣を
遮ひ臍以下餘身皆な露はす、首に天冠を戴き身に(一)纓絡を佩べり、臂印釵等衆事をも
て莊嚴し、無量の眷屬恭敬し圍繞したまへり。

〇本尊加持 印 二無名指を反胸し、右、左を押し掌中に在り、腕を合し二小指、二中指直く整て頭相ひ
注へ、二頭指曲げて各々中指の背の上節の上を捻し、頭指來去せよ(朱)集經第六に出づ
眞言 唵 婆 鷄 隨、那 音 麼 二 莎 訶 三 (朱)集經六に出づ、又 〇禮佛 南無曼殊師利菩薩摩
訶薩 〇散念誦

〇〇護摩 或は眞言 〇火天段 〇本尊段 招撥印明。二無名指を反し胸し右、左を押し掌中に
在り腕を合せ二小指直く整て頭相ひ注へ
二頭指曲げて各々中指背の上節
を捻し頭指を以て來去せよ。 唵 婆 鷄 隨 那 音 麼 二 莎 訶 三 (朱)招撥の句常の如し、
又の本莎訶なし。 供物呪 同呪
〇諸尊段 〇後火天段 〇世天段

(二) 對譯文字は花
藏院眞言集に出づ

〇〇護摩 息災 或は増益 〇火天段 〇本尊段 自加持印明 招請撥遣、寶瓶印 大慈三昧眞
言 供物、小呪 (朱) 或は大慈三昧眞言 〇諸尊段 (朱) 三十三 〇後火天段 〇世天段

〇〇隨求 〇種字 鉢羅 〇三昧耶形 梵筴 〇梵號 摩訶鉢羅底薩洛。〇密號 與願
金剛 或は隨求即得云云 與願金剛大薩埵 三十七尊諸聖衆 〇發願 隨求菩薩 蓮花部中。

〇道場觀 壇上に八葉の蓮花あり、花上に鉢羅字あり變じて梵筴となる、筴變じて隨
求菩薩となる、身金色にして寶冠を着く、八臂あり右第一手には五古、次に鈔鉢、次
に寶釧、次に鉞斧鈎、左第一手には蓮花、上に金輪光炎、次に梵筴、次に寶幢、次に
索、無量の聖衆前後に圍繞せり。

〇本尊印明 梵眞印 左手を以て仰けて心に當て、五指を展べ、右手を以て左手の上に
覆せ、相合せて平かならしめよ。明 一切如來隨 求心眞言 唵、跋羅跋羅、三波羅三波羅、印捺
哩也、尾戌駄驪、吽吽嚕嚕左捺、娑縛賀。

根本印第一 (朱) 内五結印 二手内に相ひ又へて二中指合せ堅て、二頭指を中指の後に
於て嶷しき屈して鈎の如くし、二小指・二大指を合せ堅て嶷しき屈せば即ち成せん。

梵に縛曰羅合と云ひ唐に金剛杵といふ。
唵縛曰羅娑縛賀。

(一) 一切如來心眞言印第二 二手左、右に覆せ仰けて背相ひ着け、十指互に相ひ背け
鈎し堅てて斧形の如くせよ、即ち成せん。梵に跋羅成と云ひ唐に鉞斧といふ。唵跋羅
成莎哥。

一切如來心印眞言第三 二手内に相ひ又へ二中指の頭相ひ跏へ屈して圓ならしめよ即
ち成せん、梵に跋羅播捨と云ひ唐に索といふ、唵波奢莎哥。

一切如來金剛被甲眞言(三) 第四 二手合掌して二頭指中節を屈し平偃ならしめ頭相ひ跏
へよ即ち成せん。梵に渴譏といひ唐に釧といふ。唵佉羅哦莎哥。

一切如來灌頂眞言印第五 二手外に相ひ又へて二無名相合し堅て、二小指堅て交へよ
即ち成せん、梵に斫羯羅縛引と云ひ唐に輪といふ。唵斫羯羅莎哥。

一切如來結界眞言印第六 二大指二小指の甲上を捻し、餘指堅て合せ三戟又形の如く
せよ即ち成せん。梵に底哩成攏と云ひ唐に三肱又といふ。唵底里瑟羅莎哥。

一切如來中心眞言印第七 二手外に相ひ又へ二頭指相ひ跏へて寶形の如くし、二大
指相合し堅て、二小指堅て交へよ即ち成せん。梵に底哩成攏と云ひ唐に三肱又といふ。唵底里瑟羅莎哥。

(一) 一切如來云云
轉法輪の印の如
くして、但し左の
大指を掌中に反さ
すして、右の頭指
の側にて、紋ひ合
るなり、印の端を
上に向ふ。或本中
に作る。

(三) 第四 虛心合
掌の大蓮刀の印な
り。

敵 執着怨心 作障難者 皆悉消除 決定降伏 諸不吉祥 未然消散 貴體安穩 增
 長福壽 無邊御願 決定成就 決定圓滿 伽藍安穩 興隆佛法 天下法界 平等利益
 ○道場觀 如來拳印 妙高山の頂に梵字あり五峰八柱の大寶樓閣となる、樓閣中に梵字あり
 轆轤日輪となる、日輪中に悉字あり變じて八輻金輪となる、極めて鋒銳にして能く
 魔軍を摧破し怨家を降伏す、此の輪變じて一字金輪佛頂輪王となる、身の相好威儀悉
 く圓滿せり、二手定印上に八輻の金輪を安す、身色黄金にして螺髮形なり、即ち眉間
 の毫相より金剛手 正法輪 降三世 教令輪 を流出して本尊の前に坐したまへり、佛眼尊同
 じく亦た坐す、並に七寶の眷屬右繞し圍繞せり、其中主兵神寶輪寶珠、威勢を揮て
 魔怨を摧破し怨家を降伏す、乃至三界所有の五類諸天、十六大護、及び本朝有勢の諸
 神、伽藍勸請護法天等、各々教勅を承けて恭敬し圍繞せり。

○招請 大鈎召 口に云く、印を結び明を請せし末、五類の諸天 十六大護等の名を唱へ之を召請せよ云云。 本尊聖者を請し奉る。三反 謹
 んで梵天王上界の諸天を請したてまつる。謹んで日月天等の遊空諸天を請したてまつ
 る。謹んで毗那耶迦天等住空の諸天を請したてまつる。謹んで毗沙門天等の地居諸天
 を請したてまつる。謹んで炎魔天等の地底諸天を請したてまつる。謹んで毗首羯磨藥

叉を請したてまつる。謹んで劫比羅藥叉を請したてまつる。謹んで法護藥叉を請した
 てまつる。謹んで肩目藥叉を請したてまつる。謹んで廣目藥叉を請したてまつる。謹
 んで護軍藥叉を請したてまつる。謹んで珠賢藥叉を請したてまつる。謹んで滿賢藥叉
 を請したてまつる。謹んで持明藥叉を請したてまつる。謹んで阿吒縛俱藥叉を請した
 てまつる。(朱)已上十六
 夜叉 謹んで蘇枳龍王を請したてまつる。謹んで蘇摩那龍王を請
 したてまつる。謹んで補沙毗摩大龍王を請したてまつる。(朱)已上三
 大龍王 謹んで訶利帝母
 大天后を請したてまつる。謹んで翳羅羅毘大天后を請したてまつる。謹んで雙目大天
 后を請したてまつる。已上三
 大后 各々五千の神將部類眷屬。謹んで天照大明神を請したて
 まつる。謹んで八幡三所大明神を請したてまつる。謹んで賀茂下上大明神を請したて
 まつる。謹んで春日、四所大明神を請したてまつる。謹んで丹生高野兩大明神を請し
 たてまつる。謹んで伽藍護法勸請諸神を請したてまつる。謹んで松尾大明神を請した
 てまつる。謹んで平野大明神を請したてまつる。謹んで稻荷大明神を請したてまつる。
 謹んで大原野大明神を請したてまつる。謹んで大神大明神を請したてまつる。謹ん
 で磯上大明神を請したてまつる。謹んで大和大明神を請したてまつる。謹んで廣瀬大